

# 寝鹿遺跡

## 第2次発掘調査報告書

1990年

建設省東北地方建設局山形工事事務所  
山形県教育委員会

ね  
寝 鹿 遺 跡  
じか  
第2次発掘調査報告書

平成2年3月

建設省東北地方建設局山形工事事務所  
山 形 県 教 育 委 員 会



遺跡近景 (S E ↑)



遺跡実掘状況全景 (W ↑)



西側溝跡群全景 (E ↑)



S D 20全景 (S W ↑)

## 序

本書は、昭和63年度に山形県教育委員会が発掘調査を実施した寝鹿遺跡の調査成績をまとめたものです。

寝鹿遺跡は、高畠町の西方にあり、周囲を吾妻、飯豊、朝日、蔵王の山々が連なり肥沃な大地が広がっています。その周辺には国指定史跡の福井森古墳や日向洞穴をはじめとする全国でも希な洞穴遺跡群が、また県史定指跡となっている清水前古墳や安久津古墳群など数多くの遺跡があり、近年地下2mの深さから縄文時代前期の多大な情報を私どもに与えた押出遺跡も発見されています。

今回の調査では、古墳時代を中心とする土器が溝跡から多数出土し、これらは古代人の生活と自然とのかかわりを考えるうえで大きな手懸りとなり、これまでとかく不明な点の多かった古代置賜地方に、新たな光をあてる好資料といえます。

これらの文化遺産は、私どもの祖先が語りかけてくれるかけがえのない歴史の証言者でもあります。この遺産を保護し、未来へ継承していくことは、現代に生きる私どもの重要な責務といえます。

近年、県民福祉や経済の向上を目的とした開発事業の進展に伴って、埋蔵文化財との関わりも増加の傾向にあります。これらの間には、今なお多くの問題が介在していることは現実問題として、おおきな課題を与えられていることになります。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」という立場から、一つずつ問題を解決し、今後も埋蔵文化財の保護と活用のため努力を続けていく所存です。

終わりに、本遺跡調査にご協力いただいた建設省東北地方建設局山形工事事務所・県米沢建設事務所・高畠町教育委員会・地元の方々、調査にご指導いただいた関係各位に感謝申しあげるとともに、本書が埋蔵文化財に対する理解を深め、その保護と普及の一助となれば幸いです。

平成2年3月

山形県教育委員会

教育長 木場 清耕

## 例　　言

1 本書は建設省東北地方建設局山形工事事務所の委託を受けて、山形県教育委員会が昭和63年度に実施した国道13号線米沢・南陽道路建設工事に係わる「寝鹿遺跡」の緊急発掘調査の報告書である。

2 遺跡の所在地・調査体制は下記のとおりである。

遺　跡　名　寝鹿（D T H N K）　遺跡番号1034（昭和53年山形県遺跡地図）

所　在　地　山形県東置賜郡高畠町大字夏茂字上寝鹿1296番地外

調　査　期　間　昭和63年5月9日～平成元年3月25日（現地調査・遺物基礎整理）

　　　　　　平成元年5月8日～平成2年3月23日（遺物整理・報告書作成業務）

現地調査　昭和63年5月9日～9月20日（延89日間）

調　査　主　体　山形県教育委員会

調　査　担　当　山形県埋蔵文化財緊急調査団

調査担当者　主任調査員　佐々木洋治　佐藤　庄一

同・現場主任　佐藤　正俊

調　査　員　軽部　文雄　加藤　一（昭和63年）

事　務　局　事　務　局　長　後藤　茂彌（昭和63年）　土門　紹徳

事務局長補佐　土門　紹徳（昭和63年）　齊藤　久子

事　務　局　員　新潟　絃子　長谷川　浩　高橋　春雄　永井　健郎

佐藤　大治・長谷部恵子（昭和63年）

3 発掘調査の実施にあたっては、建設省東北地方建設局山形工事事務所・山形県米沢建設事務所・高畠町教育委員会・川沼土地改良区などの関係機関の協力を得た。

4 報告書の作成は、佐藤正俊・軽部文雄・加藤一が担当し、第I章から第IV章まで佐藤が執筆し、軽部・加藤が補助した。編集にあたっては、安部　実・佐藤正俊が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。

5 現地調査・報告書作成にあたっては、つぎの方々からご指導とご助言を賜った。末尾ながら銘記して感謝申しあげる。

柏倉亮吉・加藤　稔・阿子島　功・手塚　孝・菊地政信・佐藤正四郎・岩崎義信  
吉野一郎・井田秀和・佐藤鎮雄・藤田有宣・鈴木良一（順不同・敬称略）

6 出土遺物については、山形県教育委員会が一括保管している。

## 凡　　例

1 本書で使用した遺構と遺物の分類記号は次のとおりである。

S T……竪穴住居跡 S X……性格不明遺構（竪穴状遺構） S D……溝　跡

E P……柱　穴 R P……土器・土製品 R W……木製品 R Q……石製品

2 遺構と遺物番号は、基本的には現地調査での番号をそのまま報告書で踏襲し、各番号は検出もしくは出土順に番号を付した。今次調査は、昭和61年度第1次調査とは区別し新たに番号をもうけた。

3 報告書の執筆基準は以下のとおりである。

- (1) 遺構全体図・遺構実測図中の方位は磁北を示している。
- (2) グリッド方向の座標Y軸（南北軸）線は、N-9°-Wを計る。
- (3) 遺構平面図・土層断面図・全体図などの縮尺は1/30・1/40・1/60外で、各挿図毎にスケールを示した。
- (4) 土層観察においては、遺跡を覆う基本層序はローマ数字で現わし、遺構の覆土についてはアラビア数字で表現した。
- (5) 遺物実測図・遺物図版は原則的に1/3・1/4・1/6の縮尺とし、各実測毎にスケールを付した。
- (6) 遺物観察表中の計測値欄で、( )内の数値は図上覆元による推定値あるいは残存値を示している。
- (7) 本文中で使用した土色名については、昭和45年度版農林水産省農林水産技術会議事局監修の「新版標準土色帖」に掲った。
- (8) 本文中の遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版ともに共通したものとした。なお遺物図版前の番号は挿図番号である。

## 目 次

第I章 遺跡の立地と環境	(2) 竪穴状遺構.....	12
1 地理的環境.....	(3) 土 坑.....	20
2 歴史的環境.....	(4) 溝 跡.....	41
第II章 調査の経緯	2 出土遺物	
1 調査に至る経過.....	(1) 土 師 器 .....	54
2 発掘調査の経過.....	(2) 土 製 品.....	64
第III章 遺跡の概観	(3) 石 製 品.....	66
1 調査の方法.....	第V章 調査のまとめ	
2 遺跡の層序.....	1 遺 構.....	99
3 遺構の分布.....	2 遺 物.....	99
第IV章 遺構と遺物		
1 検出遺構.....		12
(1) 竪穴住居跡.....		12

## 挿 図

第1図 遺跡位置・周辺遺跡.....	3	第15図 4・5号竪穴遺構・14号溝跡.....	33
第2図 遺跡全体図.....	7	第16図 6~8号竪穴遺構・17号溝跡.....	37
第3図 遺跡層序図.....	8	第17図 9号竪穴遺構・19号溝跡.....	39
第4図 遺構全体図.....	9	第18図 20号溝跡(1).....	43
第5図 27号住居跡.....	13	第19図 20号溝跡(2).....	45
第6図 2号竪穴状遺構・15号溝跡.....	15	第20図 20号溝跡(3).....	49
第7図 23・24・26号竪穴遺構.....	17	第21図 30号溝跡・33号竪穴遺構.....	51
第8図 34号竪穴遺構.....	21	第22図 土器実測図(1).....	55
第9図 土坑(1).....	23	第23図 土器実測図(2).....	57
第10図 土坑(2).....	24	第24図 土器実測図(3).....	59
第11図 土坑(3).....	25	第25図 土器実測図(4).....	61
第12図 土坑(4).....	26	第26図 土器実測図(5).....	63
第13図 11・13号溝跡.....	27	第27図 土器実測図(6).....	65
第14図 1・3号竪穴遺構・12・16号溝跡.....	31	第28図 土器実測図(7).....	67

第29図	土器実測図（8）	68	第42図	土器実測図（21）	81
第30図	土器実測図（9）	69	第43図	土器実測図（22）	82
第31図	土器実測図（10）	70	第44図	土器実測図（23）	83
第32図	土器実測図（11）	71	第45図	土器実測図（24）	84
第33図	土器実測図（12）	72	第46図	土器実測図（25）	85
第34図	土器実測図（13）	73	第47図	土器実測図（26）	86
第35図	土器実測図（14）	74	第48図	土器実測図（27）	87
第36図	土器実測図（15）	75	第49図	土器実測図（28）	88
第37図	土器実測図（16）	76	第50図	土器実測図（29）	89
第38図	土器実測図（17）	77	第51図	土器実測図（30）	90
第39図	土器実測図（18）	78	第52図	土製品実測図	91
第40図	土器実測図（19）	79	第53図	土製品・石製品実測図	92
第41図	土器実測図（20）	80			

## 図 版

図版 1	遺跡全体写真 遺跡近景	図版18	出土土器（5）
図版 2	遺跡近景 粗掘作業風景	図版19	出土土器（6）
図版 3	トレンチ完掘状況外	図版20	出土土器（7）
図版 4	S X 1・S D15全景外	図版21	出土土器（8）
図版 5	S D12土器出土状況外	図版22	出土土器（9）
図版 6	S D12近接 S D11近接外	図版23	出土土器（10）
図版 7	S X 4・S D14全景外	図版24	出土土器（11）
図版 8	S X 6～8・S K17・18全景外	図版25	出土土器（12）
図版 9	S X 9・S D17全景外	図版26	出土土器（13）
図版10	S X23・24全景 S X26全景外	図版27	出土土器（14）
図版11	S K36全景 S K44全景外	図版28	出土土器（15）
図版12	S D30土層セクション外	図版29	出土土器（16）
図版13	S D42全景 S D30全景外	図版30	出土土器（17）
図版14	出土土器（1）	図版31	出土土器（18）
図版15	出土土器（2）	図版32	出土土器（19）
図版16	出土土器（3）	図版33	出土土器（20）
図版17	出土土器（4）	図版34	出土土・石製品

## 付 表

表- 1	周辺遺跡一覧	2	表- 6	土器（土師器）観察表	96
表- 2	寝魔遺跡発掘調査工程表	5	表- 7	土器（土師器）観察表	97
表- 3	土器（土師器）観察表	93	表- 8	土器（土師器）観察表	98
表- 4	土器（土師器）観察表	94	表- 9	土製・石製品観察表	98
表- 5	土器（土師器）観察表	95			

## 第Ⅰ章 遺跡の立地と環境

### 1 地理的環境

高畠町は、山形県の南部、米沢盆地の東端にある。東に奥羽山脈を境界とし、宮城・福島の両県に隣し、北と南は丘陵地帯で上山・南陽・米沢市に接し、西は北流する最上川に限られ、平地では肥沃な水田地帯が展開している。町内を貫流する屋代川、和田川、松川などの主な河川はそれぞれ西進、北上し最上川に注ぎ上流部を形成している。寝鹿遺跡は高畠町の中心街から西方へ約1.5km、JR奥羽線鰐野目駅付近に在り、県道高畠・川西線沿に連なる一本柳集落の南側水田・畑地にあり、建設省一級河川である和田川の左岸自然堤防上に立地、周辺の水田よりも一段と高い微高地に位置し、北緯38°0'・東経140°10'、標高212m前後を計る。地目は水田・畑地・荒地となっている。遺跡からは、肥沃な田舎風景と遠くには蔵王・朝日・飯豊・吾妻などの峰々が眺望できる。

町の東、背梁山脈と呼ばれる奥羽山脈から西に延びる山腹や丘陵地帯は、新第三紀世初期ごろ噴出した火山岩や凝灰岩などの地層である。凝灰岩が露出する山腹の南面標高300m前後には、縄文時代草創期の国指定史跡である日向・一ノ沢・大立・火箱岩等の洞窟や岩陰遺跡が群集している。さらに屋代川を隔てて丘陵西端部の斜面には、7～8世紀代の山寄せ技法で構築された円墳を主体とする北目・羽山・愛岩山古墳など県指定史跡の安久津古墳群が集密している。町の中央は、屋代川や和田川によって開拓された小扇状地が形成され、その自然堤防上には縄文時代の後期・晩期や奈良・平安時代から中世にかけ、奥羽山脈沿いの遺跡群と比較して新しい時代の遺跡が遍在している。

また町の北、南陽市と接する地域には吉野川や屋代川で限られた、大谷地と呼ばれる泥炭層が深さ100m以上にわたって堆積する泥炭特殊地帯が展開している。この地区で昭和60年から5ヶ年で調査が進められた押出遺跡では、地下2mより縄文時代前期の、特殊な構造を示す住居跡、木製品、植物遺存体など多く発見され、また資料の理科学的分析によって、この付近一帯の自然・地理的環境が解明されつつある。

このような地理的景観を備えた高畠町は、県内でも豊富な遺跡や文化財があり、これらは町民の暮らしや風土によく融けこんで、「まほろばの里」として広く知られている。

### 2 歴史的環境

高畠町でこれまで確認された遺跡は約80箇所におよんでいる。(山形県遺跡地図1978年)町の北東、奥羽山脈の山腹や丘陵地帯には、先史から古代における数多くの遺跡が点在し、基盤である凝灰岩の露頭が各所にみられ、その風化により形成された洞窟や岩陰が多い。

それらは先人が生活の場として利用され、日向（37）・一ノ沢・火箱岩（39）・大立（34）など全国屈指の洞窟遺跡群が点在している。

昭和30年（1955）から4次にわたり実施された日向洞窟の発掘調査では、それまで東北地方で最古の縄文土器といわれていた田戸・住吉町系土器群を漁る様相をもった土器群が発見された。それを契機として尼子・神立・一ノ沢・火箱岩など一連の洞窟や岩陰遺跡の調査が実施され、その結果から隆起線文土器→瓜形文土器→押圧縄文土器→撚糸文土器→無文土器という東北地方の縄文時代草創期から早期前葉にいたる編年網の確立にいたった。またこれら洞窟などには土層堆積状態から縄文時代早期から奈良平安時代にいたる各時代の遺物が出土し、人々の足跡がみられる。

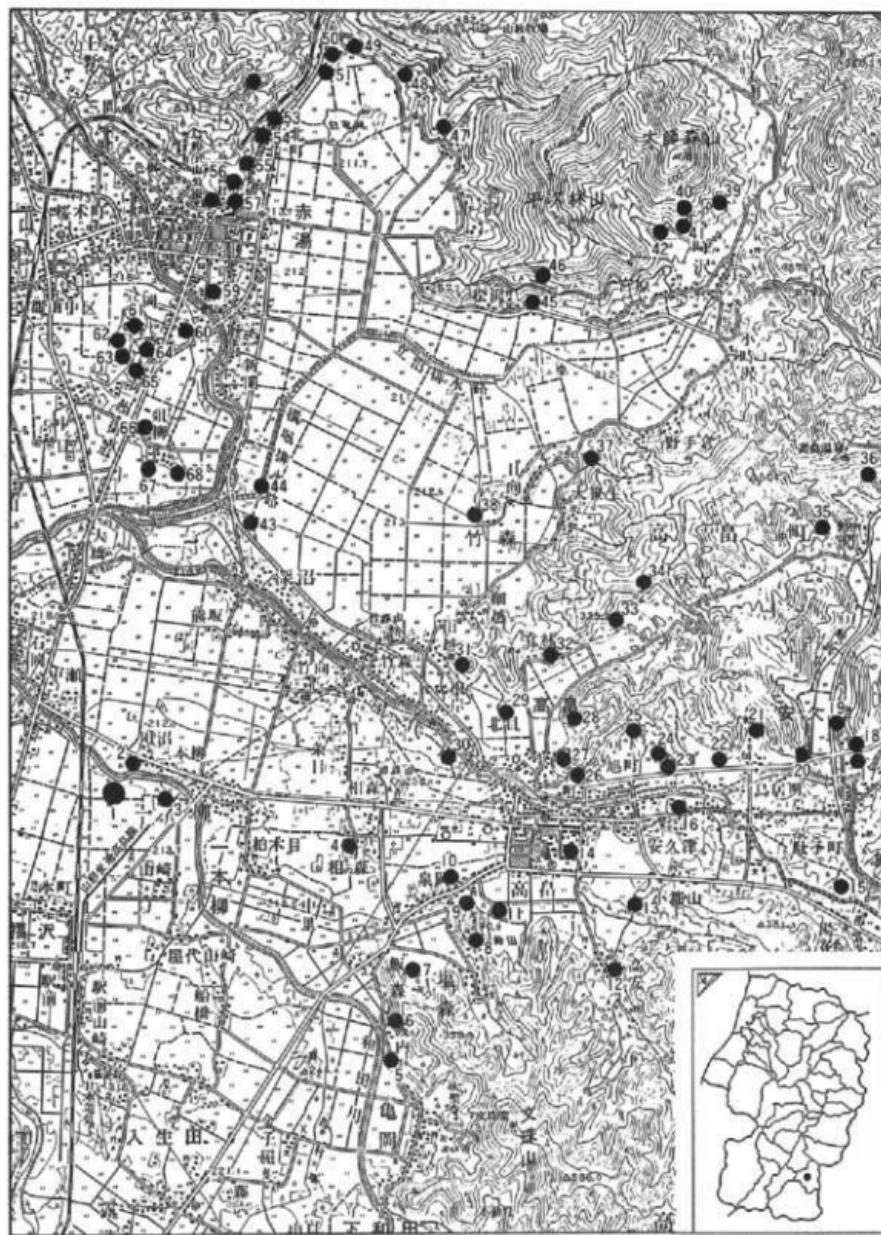
押出遺跡は、大谷地の南西部自然堤防帯の近くに立地し、地表下2mの泥炭層下から縄文時代前期の集落跡が発見された。とくに打込柱を巡らした平地住居が多数検出され、全国的にも極めて情報量の多い遺跡として注目されている。

町内の北東部安久津近辺には、総数36基からなり7支群に構成される安久津古墳群、清水前古墳、山の神古墳、金原古墳など山腹から平地にかけて立地し、横穴式石室となる7～8世紀代の古墳が分布している。

表-1 周辺遺跡一覧

□：国指定史跡 ○：県史定史跡

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
高	島	古	35	西	周
1	鹿	墳	36	乞倉	洞穴
2	南	縄文・平安	37	日向	洞穴
3	鈴	墳	38	羽	口
4	約	中世～近世	39	火箱	洞穴
5	相	縄文	40	大原	森山
6	森	中世	41	地蔵	宿洞
7	の	上	42	宝船	洞穴
8	善	奈良・平安	43	船	沢
9	岡	古	44	押	入出
10	古	古	45	南	島
11	山	古	46	松	沢
12	古	古	47	沢	古
13	神	古	48	金	山
14	山	古	49	沢	山
15	城	中世～近世	50	七	板
16	原	古	51	十	一
17	古	古	52	月	山
18	保	古	53	の	A
19	永	古	54	木	B
20	久	古	55	月	山
21	城	奈良・平安	56	峰	古
22	保	古	57	の	山
23	保	古	58	木	山
24	保	古	59	木	山
25	保	古	60	太	山
26	保	古	61	長	山
27	保	古	62	峰	古
28	保	古	63	長	山
29	保	古	64	峰	山
30	保	古	65	長	山
31	保	古	66	峰	山
32	保	古	67	水	山
33	保	古	68	東	山
34	保	古			



### 第1図 遺跡位置・周辺遺跡

## 第II章 調査の経緯

### 1 調査に至る経過

寝庭遺跡は、昭和53年に山形県遺跡地図に登録されている周知の遺跡である。この調査は昭和56年に13号線南陽バイパス・米沢南陽道路建設工事、国道113号線建設工事、そして主要地方道高畠～川西線道路改良事業が具体化したことにより、これら工事の事業主体である建設省や山形県土木部から依頼を受けて実施したものである。この調査によって、対象とした地区には新規発見のもの14ヶ所を含む17ヶ所の遺跡が確認された。この調査結果に基づいてそれぞれの正式ルートが決定されたが、南陽バイパス・米沢南陽道路については、これらの遺跡のうち6遺跡がその路線内に入る可能性が生じた。遺跡の取扱いについて、山形県教育委員会と建設省東北地方建設局山形工事事務所とで協議を重ねた結果、用地売収後に試掘調査を実施し、必要に応じて記録保存のための発掘調査を行うことで合意をみた。

これら6遺跡のうち、昭和60年から5ヶ年計画で高畠町押出遺跡が、昭和61年に2ヶ年で南陽市月ノ木B遺跡の発掘調査と遺物・資料整理や報告書作成業務が実施された。また、高畠町舟入遺跡は昭和61年に試掘調査を実施したが、路線内には遺構・遺物が発見されず、工事施行区域は遺跡外と判断された。

寝庭遺跡は、国道13号米沢南陽道路建設工事の関係に先立って、昭和61年には主要地方道高畠～川西線の県道改良事業に伴って緊急発掘調査（第1次）が行われ、古墳時代から奈良時代にかけての溝跡・土坑、多量の遺物が検出された。昭和62年9月には、山形県教育委員会が行った「各種事業計画聴取」において、本遺跡の試掘調査の依頼が建設省から出され、これを受け同年10月に試掘調査が実施された。その結果、路線内より若干の遺物包含層や溝跡などの遺構、古墳時代の土師器片が多量に検出された。これらのことにより、建設省と緊急発掘調査の実施にあたり協議を進め、昭和63年度は現地調査・遺物基礎整理作業、昭和64年度は遺物整理を含めた報告書作成業務を実施することで合意する。

### 2 発掘調査の経過

発掘調査は、建設省と委託契約後の平成元年5月8日から開始し、同年9月20日までの延89日間に亘って行われた。その間20号溝跡より多量の完形土器などが出土することから調査を延長することで建設省と協議を進め合意されている。発掘調査の作業工程については、計画準備・現地での粗掘作業・面精査・遺構精査検出といった手順で進め、記録保存による発掘調査を行った。（表-2を参照のこと）

表-2 審査実験発掘調査工程表

作業内容	日	5月					6月					7月					8月					月		
		9日	16日	23日	30日	6日	13日	20日	27日	4日	11日	18日	25日	1日	8日	15日	22日	29日	5日	12日	19日	20日		
実測日数	13日	5日	5日	5日	5日	4日	4日	5日	5日	5日	4日	5日	5日	5日	5日	3日	5日	5日	6日	2日	2日			
単 個	岩村搬入	■																						
相 關	レンチ搬入	■																						
面 索	電機使用	■																						
調 構	面 索	■																						
調 構	電機搬出	■																						
調 構	住居構造	■																						
調 構	窓穴開削	■																						
調 構	柱基礎	■																						
調 構	土 壤	■																						
調 構	土 壤	■																						
火 洞	土層断面	■																						
火 洞	平面実測	■																						
写 真	全体写真	■																						
写 真	細部写真	■																						
平 地	平 地	■																						
観 察	現地観察会	■																						

## 第III章 遺跡の概観

### 1 調査の方法

寝庭遺跡は、和田川と沼川の左岸の合流点に位置し、両河川によって形成された自然堤防上に立地し、東側は沼川の蛇行によって大きく削り取られ弯曲している。遺跡の範囲は、推定東西約200m、南北約210mの不定形となり、面積が約42,000m<sup>2</sup>である。

調査区の設定にあたっては、昭和61年の主要地方道高畠～川西線の県道改良事業に伴つて発掘調査（第1次）を実施した際の、X軸45・Y軸60グリッドを基準点として、グリッドを設定し、今次調査と呼称を別にしてX軸10・Y軸10グリッド基点杭とし、2×2mを一単位とする。呼称については、東西方向をX軸1・2・3……9・10、南北方向をY軸とし1・2・3……9・10の算用数字を使用した。

調査は、米沢南陽道路の路線内に限定し、幅約70m（東西方向）・長さ約130m（南北方向）の範囲で、対象面積が約9,100m<sup>2</sup>となり、路線は遺跡のほぼ中央部分に係ることになる。

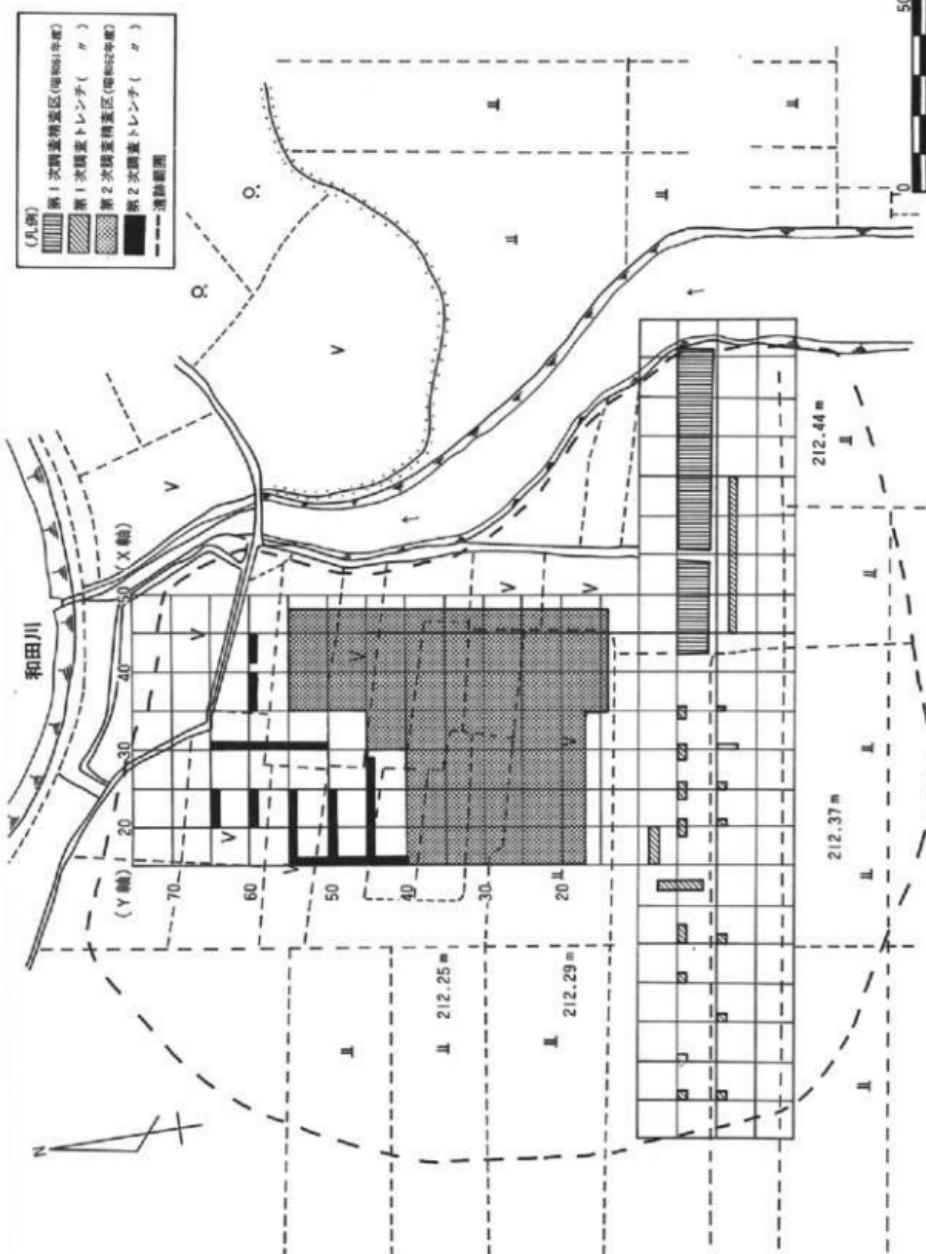
調査の実施方法は、昭和62年に行った分布試掘調査の結果の資料に基づいて、路線内における造構や遺物の内容や分布状況をさらに明確にするため、2×10mを単位とするトレーナーを設定し、調査区全体に井桁状あるいは「キ」字状に粗掘作業を実施し、それらの結果や状況を把握して、比較的良好に遺物包含層が残存する地区や造構・遺物が集中する地区、調査区の中央から南側にかけて重機械を使用して拡張し、主要なる調査区を設定した。その後、面整理作業による造構・遺物の確認作業、造構・遺物の精査検出、諸記録や実測作業を進めた。

なお、当初拡張区の範囲を2,750m<sup>2</sup>として調査を進めたが、大溝（SD20）内より多量な土師器の壺・高壺・壺・甕などが出土、さらに大溝の南側を追究する必要から、建設省と協議のうえ調査期間を延長し、重機械を再度使用して新たに1,248m<sup>2</sup>を拡げ、大溝跡の南側の様相等を明らかにした。今回の調査面積は、全体で3,998m<sup>2</sup>となる。

### 2 遺跡の層序（第3図）

本遺跡は、前述のとおり和田川の左岸の自然堤防上に立地し、周辺の水田よりもやや一段高い微高地に位置している。東端は沼川によって開析され、2段の小段丘を形成しており、段丘の上面は他の地区よりもやや高場となっている。北端は和田川によって限られて、北側へ行くに従ってやや傾斜をもつて和田川に流れ込んでいる。西側は、現況が水田となっているが、表面上は遺跡部分が若干高くなり南北方向にやや傾斜をもつていている。南側は、

第2図 遺跡全体図



遺跡内とほぼ水平状態になっているが、遺跡より南へ30m地点で大きく窪んで水田が作られている様相がわかる。

昭和61年の第1次調査での層序の結果は、地山層（褐灰色粘土）の形成から観察すると、東側の造構が集中する拡張調査区が高く、西側の方向に傾斜し、中央部で地山層が急激に落ち込み地表下1.8~2mの深さに達しており、上層部は砂層と腐植土の互層の堆積状態となっている。拡張区の南側は水田耕作により地山層が削平されているが、全体的には南側へ傾斜している。遺物の出土状況は、西側と南側で希薄となっている。

今回の第2次調査では、地山層が北側で和田川付近で北へ傾斜し急激に落ち込み、調査区の中央部は平坦で安定している。南側から南西側一帯は、第1次調査でみられたのと同様に地山層が急激に落ち込み、砂層と腐植土が互層に堆積し、地表下2~2.4mで地山層にたっている。これらのこととは、恐らく本遺跡の南西側から南側にかけての一帯は、古墳時代後半から奈良時代にかけ、広範囲に後背湿地が形成されていたとみられる。

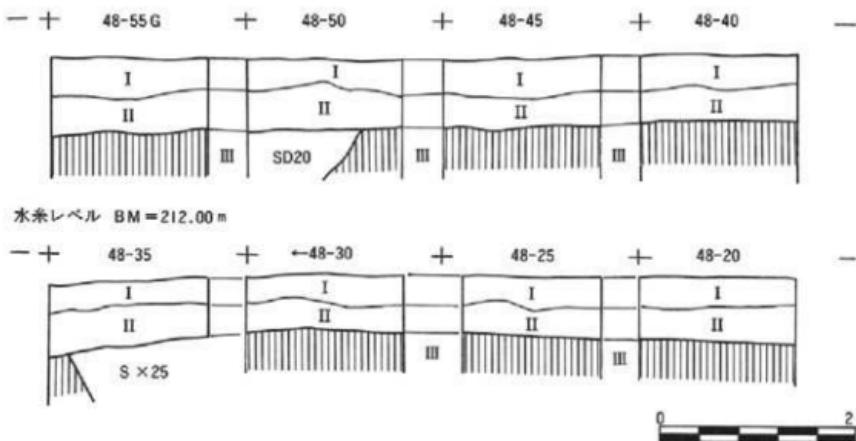
遺跡の層序は、全体には水田耕作が行なわれたことや昭和20年代は桑畠や果樹地であったため、上層部は著しく攪乱したり削平されているため遺存状態は余り良くない。

今次調査での全体層序は次のとおりである。

I層：7.5Y R3/3 暗褐色粗砂質粘土 耕作土、若干炭化粒を含む。

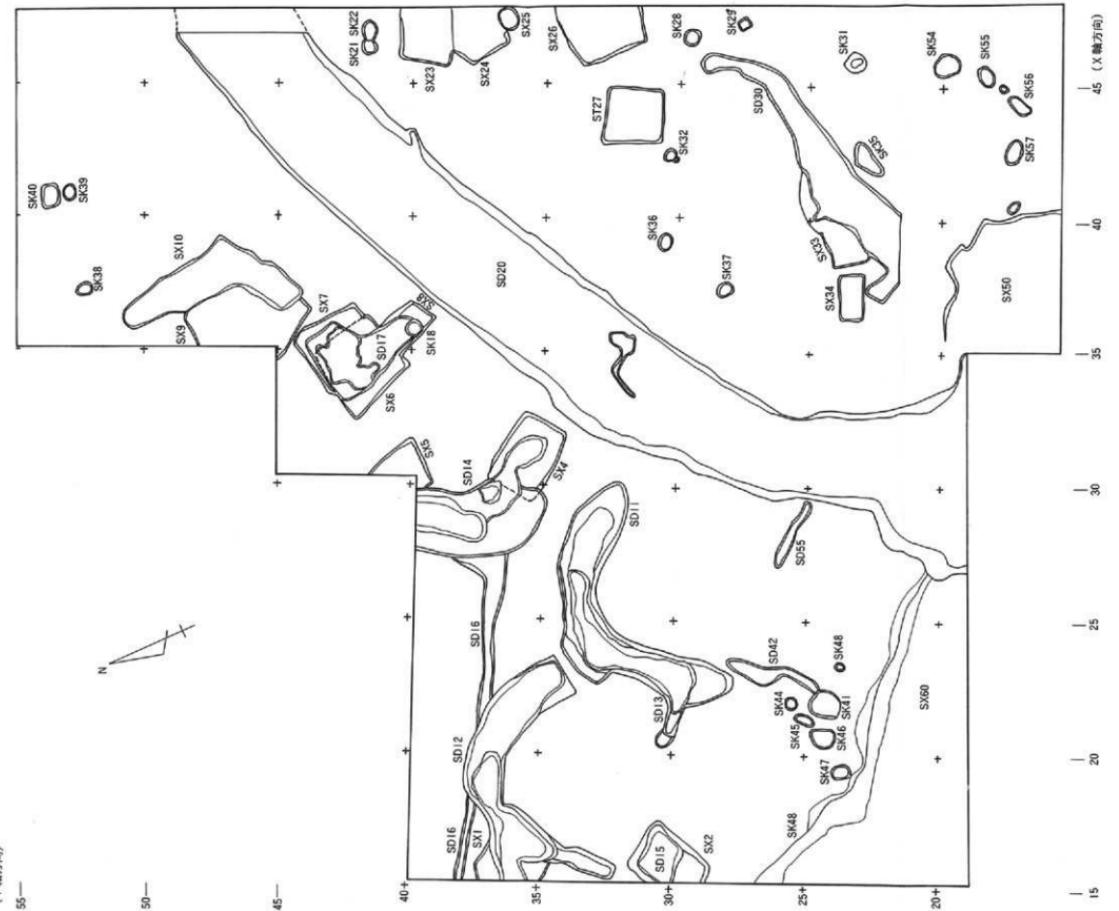
II層：7.5Y R4/3 灰褐色粘土質シルト 遺物包含層、赤褐色の極小粒・炭化物を含む。

III層：7.5Y R5/1 褐灰色微砂質粘土 橙色の小ブロックや小砾、炭化粒を含む地上層。



第3図 遺跡層序図

第4図 遺構全体図



(Y 轴方向)

—55—

- 9 -

### 3 遺構の分布（第4図）

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居跡1・竪穴状遺構18・土坑31・溝跡12が検出され、調査対象地区の中央部から南側にかけて、平坦地から緩傾斜地に密集して位置している。なお、遺物の出土数は、整理箱に約165箱を数え、このうち土器・土製品が160箱で石製品が5箱である。遺物の出土状況は、20号溝をはじめとして溝内から出土であり、いずれもが溝跡の壁帶付近や下部層から底面からの検出で、土師器の壺・高壺を中心に完形品が一括投棄されたものである。今回は須恵器が出土していないのも特徴的である。

遺構の分布状況は、調査区のほぼ中央部を東から西へ割り込むように20号溝跡（旧河川）が弧を描くように走り、調査区の南側から南西側一帯にある後背湿地へ傾斜するように流れ込んでいる。断面の形状が、V字形を示すが底面が起伏に富むが全体は平らであり、西侧でやや大きくなっている。

20号溝跡を中心に東側では、竪穴住居跡・竪穴状遺構・土坑などが多く集中している。竪穴住居跡や竪穴状遺構は、さらに東側の40～48～31～42グリッド内に遍在し、23・24号竪穴状遺構は重複し、南側で26号竪穴状遺構と27号竪穴住居跡に隣接している。いずれもが不規則に位置する。また、33・34号竪穴状遺構は調査の南西側に在り30号溝跡と重複あるいは近接している。土坑群は、35号土坑や30号溝跡を中心として、ほぼ南北に長くなる橢円状になるよう規則的に配置され一周しているが特徴で、形状は円形もしくは橢円形になり、調査区南東側で橢円形を示す土坑が在り、ややそれぞれ近接している。北側ではある程度の間隔を保って配されている。なお、21・22号土坑は、調査区の北東端に重複して単独で位置する。30号溝跡は、土坑群に囲まれるように不定形ながら、ほぼ東西方向に長く延びている。

20号溝跡の西側は、全体的に不定形である溝跡群が集中し、それらの南側と北側に土坑が在り、中央部に細長く延びる16号溝跡や55号溝跡が位置する。また竪穴状遺構は溝跡群の西側や東側で多重複し、いずれもが溝跡群より古い時期である。

溝跡群は、いずれもが半円あるいは半弧を描いており、11・12号溝跡は顕著であり近接してある。それぞれの溝跡は形状が不定形であり、壁体は上部がぼんやりと掘り込まれ中位から下部にかけてV字状に窪んでおり、窪んだ部分に多量の遺物が集中して出土している。土坑は、北東端に38～40号土坑が隣接し、41・44～48号土坑は近接して密集するようそれぞれ位置している。

以上のように遺構の分布は、第1次調査と考え合わせると、沼川の小河川に沿って、橢円状に南北に長く延びる自然堤防上の平坦地に在り、南側や南西側で後背湿地によって限られた地区に遺構群が分布している。

## 第IV章 遺構と遺物

### 1 検出遺構

#### (1) 穴状住居跡

##### 27号住居跡（第5図 図版9）

調査区の東側中央部の平坦地、42~44-31~33グリッドに位置し、南西側で32号土坑と隣接している。確認面はII層中でIII層上面を僅か掘り込んでいる。遺存状態は上部が水田耕作によって破損を受けている。

平面形は、東辺と西辺がやや脹らむ不整の隅丸方形を呈している。大きさは東西長軸が4.62m・南北短軸4.21mで、短軸方向N-20°-Wを計り、確認面からの深さは18~21cmである。壁は、全体的に緩やかに掘り込んでおり南辺と西辺では起伏に富んでいる。床面は中央部と西辺から南辺壁付近にかけて凹凸になり、東辺から北辺壁際になると平坦となっている。壁溝・周溝は検出されない。

柱穴は5本検出され、いずれもが不整円形・梢円形を呈する。柱穴の配置は不規則で中央部から西側に片寄って配されて、主柱穴と支柱穴の関係は不明確で判定が困難である。大きさは、EP1が径36cm・深さ12cm、EP2が径23cm、深さ18cm、EP3が径28cm・深さ18cm、EP4が径26cm、深さ11cm、EP5が径69cm、深さ18cmとなる。

炉跡は、明確に判断できないがEP1とEP3のほぼ中間で炭化材に混じって若干の焼土が検出されているが不明瞭である。

土層の堆積状態は、全体に2層に区別されるが住居跡の下部層であり単純な堆積状態を示している。

出土遺物は、土師器の摩滅した破片が6片出土し、壺1・甕5である。

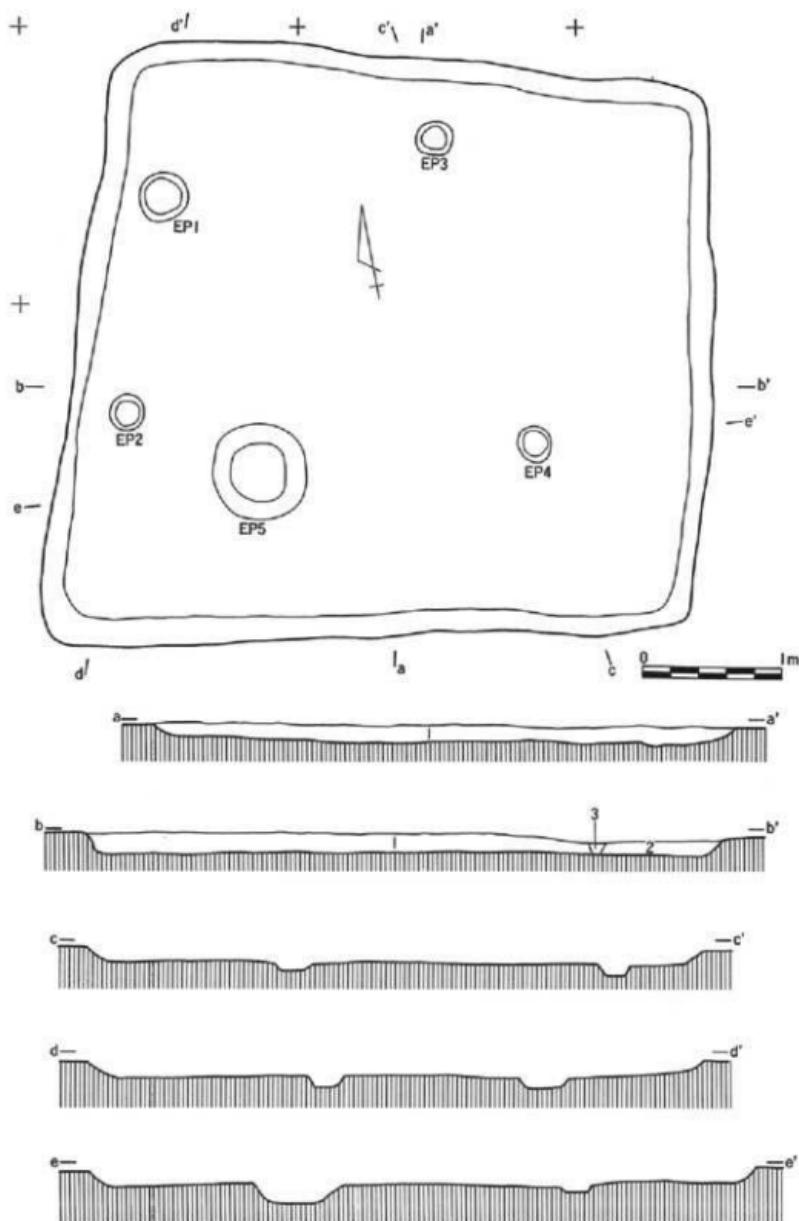
時代は出土した遺物の量が少なく特定できないが、他の遺構と比較すれば古墳時代の後半と考えられる。

#### (2) 穴状遺構

##### 1号穴状遺構（第14図 図版4）

調査区の西端中央部に所在し、15・16-35~37グリッドに位置し、12号溝跡と重複し16号溝跡と北側で近接している。遺存状態は上部が水田耕作などにより破損し、大半は12号溝跡により切られ、北側と南側が現存するのみである。

平面形は、恐らく不整の隅丸方形ないし隅丸長方形を示すとみられる。大きさは現存する東西軸5.20mで深さは確認面より31cmである。12号溝跡の精査検出の際確認される。



1. 10YR 4/4 棕色土層砂質粘土全体的に堅くしまっている。

2. 10YR 3/3 増褐色土、粗砂質粘土。全体的に軟かい。

3. 10YR 3/2 黒褐色土、細砂質粘土。やや全体的に堅い。

第5図 27号住居跡

壁は、ほぼ垂直に掘り込まれ北側でやや凹凸がみられる。底面は全体に平坦であるが北側の壁際でやや落ち込んでいる。

柱穴や他の施設は確認されない。上層の堆積は1層ではほぼ水平に堆積しているが北側からの流入状態が一部認められる。

新旧関係は、12号溝より旧く、時期は比定できないが古墳時代後半と推定できる。

## 2号竪穴状遺構（第6図 図版9）

調査区の西端中央部、15～17～29～32グリッド内に位置し、15号溝跡と重複し北側で12号溝と隣接している。遺存状態は上部で水田耕作などにより攪乱を受け、大部分は15号溝跡により切られ、西側半分が残っている。確認面はII層下部である。

平面形は、東西方向に長い不整の隅丸長方形を示すとみられる。大きさは東西長軸5.83m・南北長軸4.18mで確認面からの深さは28cm、短軸方向N-22°-Wを測る。壁は緩やかに掘り込まれ、底面は15号溝跡周辺が平坦である他はやや起伏に富んでいる。

柱穴や周溝など他の施設は確認されていない。土層の堆積はほぼ水平に堆積している。新旧関係は、土層観察の結果15号溝より旧い。時期は特定する出土遺物が少なく恐らく古墳時代の後半と推定される。

## 3号竪穴状遺構（第14図 図版9）

調査区の西側中央部、22・23-35・36グリッド内に位置し、12号溝と重複しており12号溝跡の精査検出の際確認される。西辺部と南東隅が僅か残在するのみである。

平面形は、長方形を呈するとみられるが形の全体は不明確である。大きさは東西方向のみで3.51mで深さ16～19cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面も概ね平坦である。

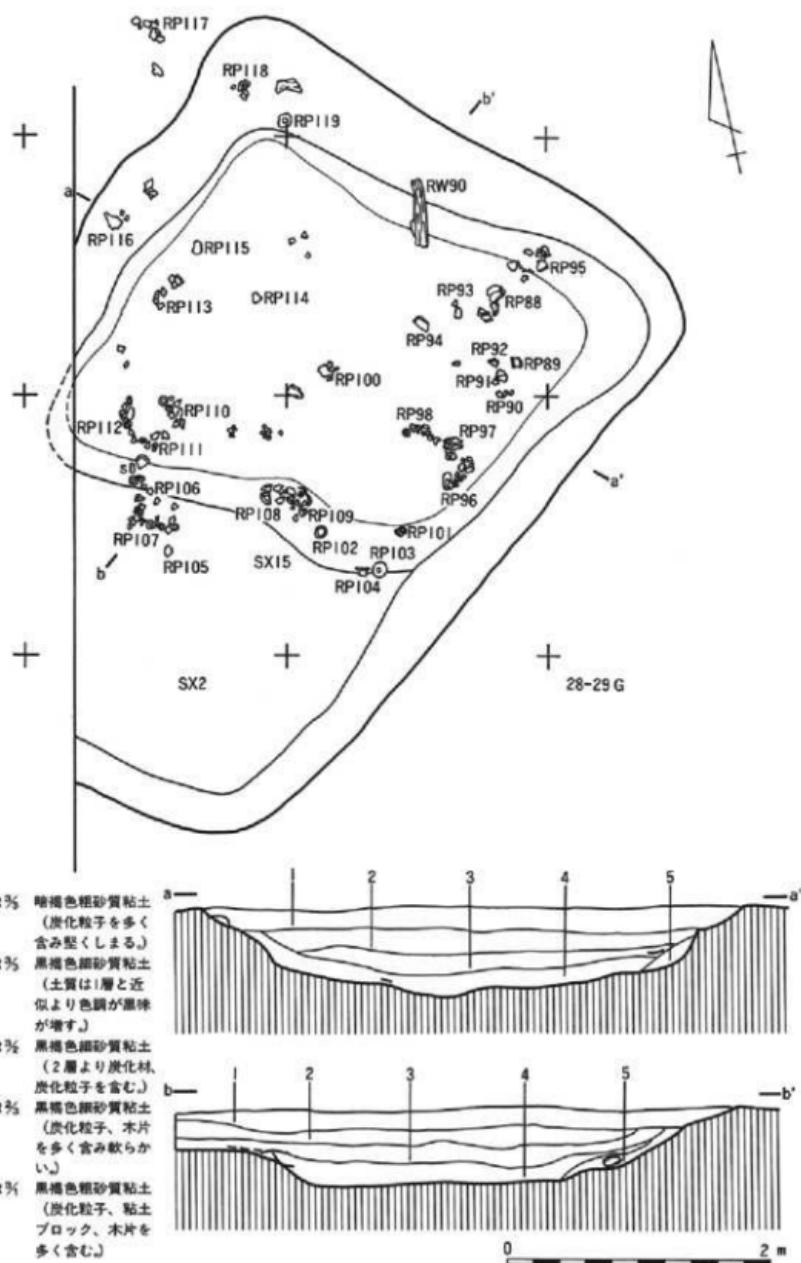
柱穴などの他施設は確認されていない。土層の堆積は1層のみで状態は不明である。

新旧関係は、12号溝跡より旧い。時期は恐らく古墳時代の後半期と考えられる。

## 4号竪穴状遺構（第15図 図版7・8）

調査区の中央部平坦地、29～33～35～37グリッド内にあり、14号溝跡と重複し東側で20号溝跡に隣接している。遺存状態は西側の一部で攪乱を受けている他はほぼ良好といえる。確認面はII層中で確認されIII層中位まで掘り込んで造られている。

平面形は、西辺の中央がやや脹らみがある隅丸長方形を呈している。大きさは南北長軸6.27m(推定)・東西短軸4.56mで確認面からの深さは14～20cm、短軸方向N-32°-Wを測る。壁は全体に緩やかに掘り込まれ東辺の中央部が堅く踏みしめられている。底面は概ね



第6図 2号竪穴状遺構・15号溝跡

平坦であるが、西側中央部の14号溝跡周辺がやや摺鉢状になっている。

柱穴・周溝・炉跡などは検出されなかった。土層堆積状態は、北側から流れ込むようにレンズ状に堆積し、3層に区分される。

新旧関係は、14号溝跡より4号竪穴状造構が古い。時期は、底面より坏2点(第28図23)が出土しているところから、古墳時代の後半6世紀代に相当する時期である。

#### 5号竪穴状造構 (第15図 図版7・8)

調査区のほぼ中央部、29~31-40~42グリッド内に位置し、西側で14号溝跡と重複している。遺存状態は中央部が水田耕作で攪乱を受けている他は良好である。確認面はII層下部でIII層中を掘り込んで造られている。

平面形は、東側がやや脹らむ隅丸方形になるとみられる。大きさは南北軸の北側が未検出のため不明であるが、東西短軸4.08mで確認面からの深さは15~19cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面は軟弱であるが平坦である。その他施設は検出されていない。

土層の堆積は、2層に区分されレンズ状に堆積している。出土遺物は一括土器が中央部と東辺可部中央際でいずれも底面から流れ込むように出土している。

新旧関係は14号溝跡より古い。時期はR P229(第46図4種)から古墳時代後半の6世紀代に比定される。

#### 6・7・8号竪穴状造構 (第16図 図版8・9)

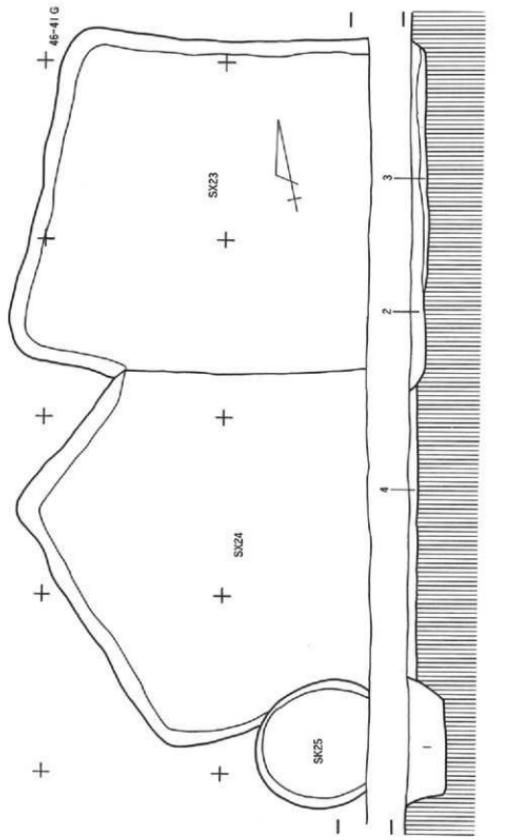
調査区の中央部北寄り、32~35-40~45グリッド内に位置し、17号溝跡や18号土坑と重複し北側で9号竪穴状造構と南側で20号溝跡とそれぞれ近接している。遺存状態は全体に水田耕作などにより上面が破損されている。確認面はII層中で若干III層を掘り込んで造られている。

平面形は、いずれも不整の方形や長方形を呈している。大きさは、中央部に17号溝跡が在るため不明確である。壁は緩やかに掘り込まれ、底面も軟弱である。

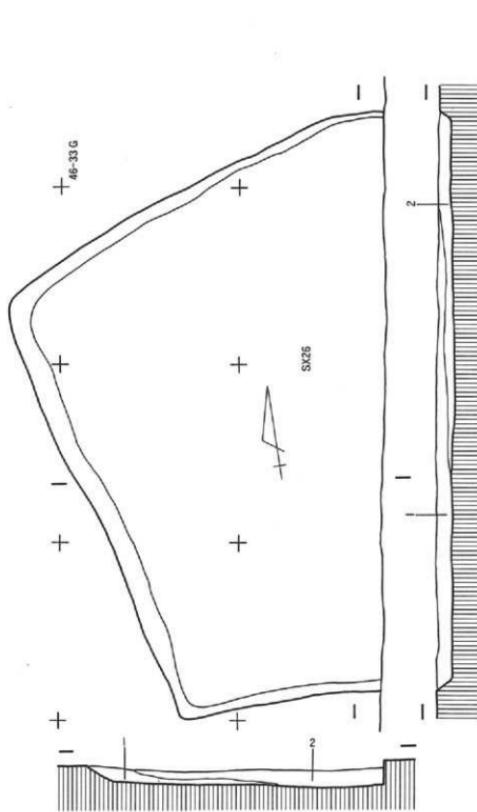
柱穴やその他施設は確認できなかった。出土遺物も検出されていなく、性格も不明である。新旧関係はいずれも17号溝跡や18号土坑より古い。時期は恐らく古墳時代後半とみられる。

#### 9号竪穴状造構 (第17図 図版9)

調査区の北側平坦地、34~39-44~48グリッド内に位置し、10号溝跡と重複し南側で7号竪穴状造構と近接している。遺存状態は良くない。確認面はII層中でII層を掘り込んで



1. 10yr 2. 黒褐色細粒粘土 (炭化・粘土質を含む)  
 2. 10yr 3. 黒褐色細粒粘土 (炭化・粘土質を含む)  
 3. 1.5yr 5. 棕灰色細粒粘土 (炭化の度合を含む)  
 4. 10yr 5. 棕灰色細粒粘土 (炭化・粘土質を含む)



1. 10yr 2. 黒褐色細粒粘土 (炭化・粘土質を含む)  
 2. 1.5yr 5. 黑褐色細粒粘土 (炭化・粘土質を含む)

第7図 23・24・26号型穴道構

造られている。

平面形は、東側が10号溝跡によって切られているが恐らく不整の方形を呈するとみられる。大きさは不明で、確認面からの深さは10~12cmである。壁は若干掘り込む程度で、底面も軟弱で凹凸になる。性格は不明である。遺物の出土はなかった。

新旧関係は土層観察で溝跡より旧い。時期は不明である。

### 23・24号竪穴状遺構（第7図 図版10）

調査区の東端中央部の平坦地、45・46-37~41グリッド内に在る。南側で25号土坑と重複している。遺存状態は水田耕作により部分的に攢乱を受けている他は良好である。確認面はII層中でIII層を若干掘り込んでいずれも底面としている。

#### 23号竪穴状遺構

平面形は、東側は未検出で不明であるが恐らく不整の隅丸方形を呈する。大きさは南北軸のみで3.72m・深さ15~22cmである。壁は緩やかに摺鉢状に掘り込まれ、壁体も軟弱である。底面は、中央部がやや窪むように落ち込む他は概ね平坦で軟弱である。柱穴・周溝・炉跡は確認できない。土層の堆積は、2層に区分されレンズ状に堆積している。遺物の出土はない。

#### 24号竪穴状遺構

平面形は、北側で23号竪穴状遺構によって切られ、東側は未検出のため不明確であるが恐らく不整方形を示すとみられる。規模は不明。深さ10~13cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面は軟弱で平坦である。土層の堆積は1層のみで詳細な観察は不明確である。遺物の出土はない。

両竪穴状遺構の新旧関係は、23号竪穴状遺構より24号竪穴状遺構が旧い。時期は両遺構とも特定出来ないが、覆土の状態から古墳時代の後半の時期と推定される。

### 26号竪穴状遺構（第7図 図版10）

調査区の東端の平坦地、45・46-31~35グリッド内に位置し、西側で27号住居跡と北側25号土坑とそれぞれ隣接している。遺存状態はほぼ良好である。確認面はII層中位でIII層上部を掘り込んで底面となっている。東側半分は未検出である。

平面形は、恐らく不整の方形を呈しているとみられる。大きさは南北軸が6.08mで東西軸は不明、深さは確認面から25~32cmで、南北軸方向がN-19°-Wを測る。壁は、いずれの辺もほぼ垂直に掘り込んでいる。底面は北側に傾斜をもち、南側は堅く踏みしめられ平坦である。柱穴や周溝さらに炉跡は検出されていない。

出土遺物は、遺構の西辺壁際の中央部で土師器の壺破片1点が底面より出土するが摩滅しているため時期は不明である。本遺構の時期は、覆土の堆積状態からみて恐らく古墳時代後半の時期と推定される。

### 33号竪穴状遺構（第21図 図版10）

調査区の南側の緩傾斜地、38~40-23~25グリッド内に位置し、東側で30号溝跡と重複している。30号溝検出の際確認される。底面はIII層を若干掘り込んで造られている。遺存状態は良くない。

平面形は、東側が30号溝跡によって切られているが恐らく隅丸長方形を呈するとみられる。大きさは、東西軸5.20m(推定)、南北軸不明、深さ15~20cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面は概ね平坦で軟弱である。柱穴・周溝などは検出されていない。

土層の堆積は、1層で単純層である。遺物の出土はない。時期は、覆土層からみて古墳時代後半の時期と考えられる。

### 34号住居跡（第8図 図版10）

調査区の南側の緩傾斜地、36・37-33・34グリッド内に位置する。東側で33号竪穴状遺構と南側で30号溝跡と近接している。遺存状態は良好である。確認面はII層中位でIII層を掘り込んで底面が造られている。

平面形は、隅丸長方形を呈する。大きさは、東西長軸5.42m・南北短軸3.02mで、深さは確認面から15~21cm、短軸方向N-9°-Wを測る。壁は、北辺から東辺にかけてはほぼ垂直に掘り込み、西辺から三辺は緩やかになっている。底面は、中央部が堅く踏みしめられ起伏がある他は概ね平坦で軟弱である。柱穴・周溝・炉跡は検出されない。

土層の堆積は、2層に区分され北側から流れ込むようにレンズ状に堆積している。出土遺物はない。

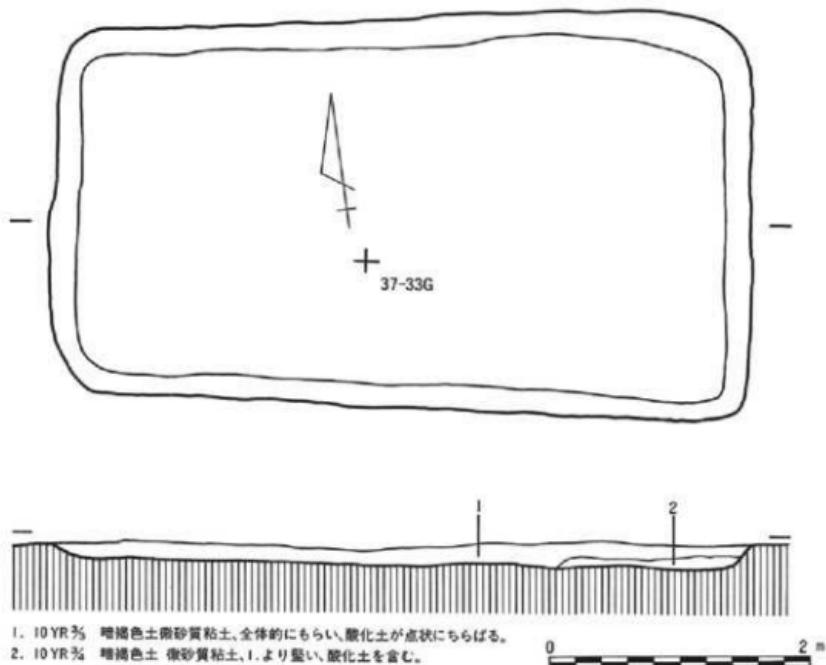
時期は、遺物の出土がないため特定出来ないが、覆土の状態から観察すると古墳時代後半の時期に推定できる。

### (3) 土坑

#### 21・22号土坑（第9図 図版10）

調査区の東側平坦地、40-53-55グリッド内に在り、重複関係に在る。II層中で確認されIII層を掘り込んで底面としている。遺存状態は良い。

平面形は、いずれも梢円形を呈している。大きさは21号土坑で長径1.20m・短径1.09m



第8図 34号竪穴造構

(推定)・深さ11~13cm、22号土坑では長径1.58m・短径1.14m・深さ14~18cmである。壁は両土坑とも緩やかに掘り込まれ、底面もほぼ平坦である。両方とも遺物の出土はない。土層の堆積は、両土坑とも北西側から流れ込むようにレンズ状に堆積している。新旧関係は、土層観察に基づいて22号土坑が新しい。時期は覆土の状態から古墳時代後半の時期と推定される。

#### 28号土坑（第9図 図版10）

調査区の東側南寄り平坦地、46-30グリッドに在る。確認面はII層中でIII層を掘り込んで造られている。遺存状態は良好である。

平面形は、ほぼ円形を示す。大きさは径1.29m・深さ18~20cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面も概ね平坦で堅くなっている。土層はレンズ状に堆積し3層に分けられる。遺物は北側壁際より高壙R P318（第28図4）と壙R P317（第46図5）が正位の状態で出土している。本土坑の時期は、出土遺物により古墳時代後半の6世紀代に比定される。

## 31号土坑（第9図 図版10）

調査区の南西側やや緩傾斜地、45・46—23・24グリッド内に位置する。確認面はII層中でIII層中を深く掘り込んでいる。遺存状態は北側で耕作による攪乱を受けている他は良い。平面形は、不整円形を呈す。大きさは長径1.54m・短径1.46m・深さ39~42cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面もほぼ平坦で軟弱である。遺物の出土はない。

土層は1層で単純な堆積なる。時期は覆土の状態から古墳時代後半と推定される。

## 32号土坑（第9図 図版10）

調査区の中央部東寄り平坦地、42—31グリッドに位置し、東側で27号住居跡と隣接する。遺存状態は良好である。確認面はII層下部でIII層を浅く掘り込んで底面となる。

平面形は、不整円形を呈する。大きさは長径98cm（南北軸）・短径87cm・深さ13~16cmである。壁は垂直に掘り込まれ断面形がクライ形になる。底面は中央部が高く壁際に傾斜している。遺物の出土はない。土層は、2層に分けられレンズ状に堆積している。

時期は、覆土層の状態から古墳時代後半に推定される。

## 35号土坑（第9図 図版10）

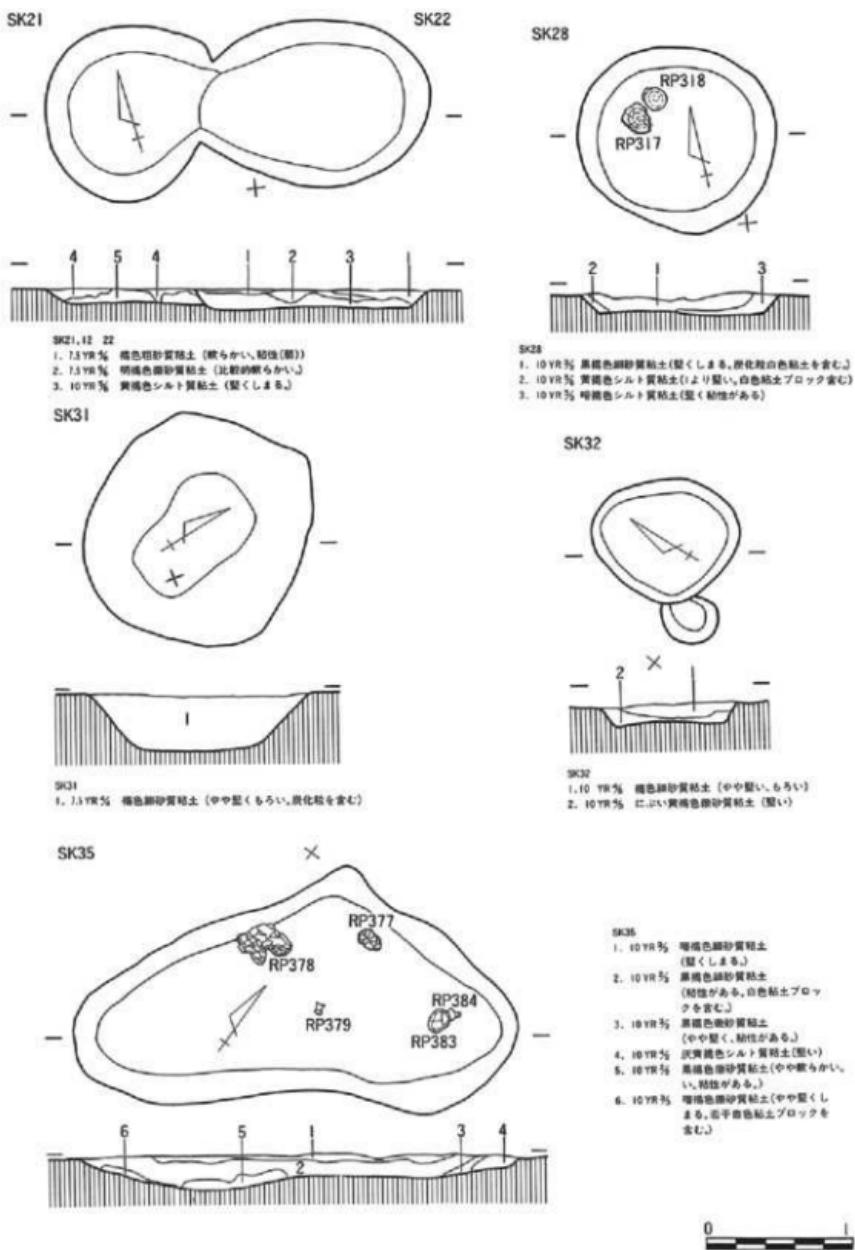
調査区の南東側のやや緩傾斜地、42~44—23・24グリッド内に在る。確認面はII層中でIII層を掘り込み底面としている。遺存状態は良好である。北側で30号溝跡と近接している。平面形は、北側が突出する不整の楕円形になる。大きさは長径3.04m・短径1.22m・深さ10~37cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面は西側に傾斜している。土層の状態は、全体に乱れ、粘土ブロックが多く含まれることから人工的に埋められたとみられる。出土遺物は、壺R P383（第23図15）・鉢R P377（第39図5）・甕R378が上から押された状態で出土している。時期は、出土遺物から古墳時代後半の6世紀代に比定される。

## 36号土坑（第10図 図版11）

調査区の中央部東寄り平坦地、38・39—31グリッド内に位置する。確認面はII層下部でIII層中を掘り込んで底面となる。遺存状態は良好である。

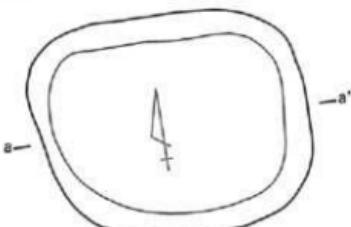
平面形は、不整円形を示す。大きさは長径1.33m（東西方向）・短径1.14m・深さ18~21cmである。壁は緩やかに掘り込まれ堅くしまっている。底面は、概ね平坦で堅く踏みしめられている。遺物の出土はない。

土層の堆積は、4層に区分され土層の1~3層は多方向から流れ込み、4層は北西側からレンズ状に流入している。時期は、覆土層から観察して古墳時代後半に推定される。

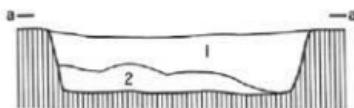
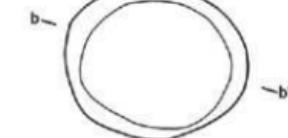


第9図 土坑(1)

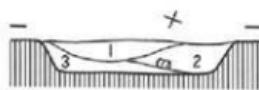
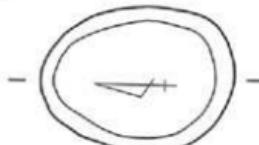
SK39



SK40

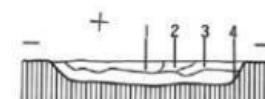


SK38

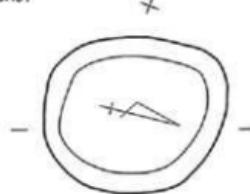


SK36

SK36



SK37



SK36

1. 5 YR 5% 明赤褐色細砂質粘土（堅くしまっている）  
2. 13 YR 5% 墓褐色細砂質粘土（堅くしまっている）  
3. 10 YR 5% 墓褐色細砂質粘土（やや堅くしまっている）  
4. 10 YR 5% 棕色シルト質粘土（やや堅く粘性がある。黄色に漬化した土が面積に占む。）

SK37

1. 10 YR 5% 墓褐色細砂質粘土（堅くしまる。）  
2. 10 YR 5% 棕色細砂質粘土（やや堅く、粘性がある。）



第10図 土坑(2)

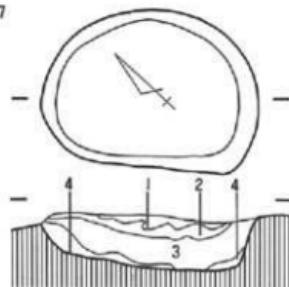
SK36

1. 10 YR 5% 墓褐色細砂質粘土（堅くしり。漬化粒子を含む）  
2. 23 YR 5% 明褐色細砂質粘土（漬化粒子を含みめらかい。）  
3. 10 YR 5% 明黄褐色細砂質粘土（漬化粒子を多量に含む。）

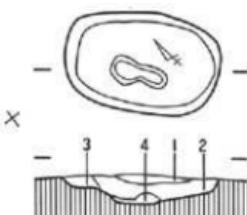
SK37

1. 10 YR 5% 墓褐色細砂質粘土（堅くしり。）  
2. 10 YR 5% 棕色細砂質粘土（やや堅く、粘性がある。）

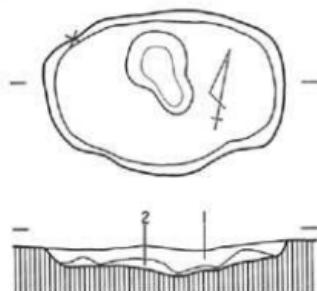
SK47



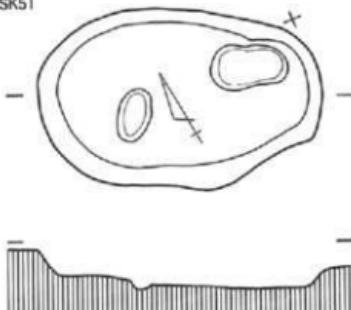
SK49



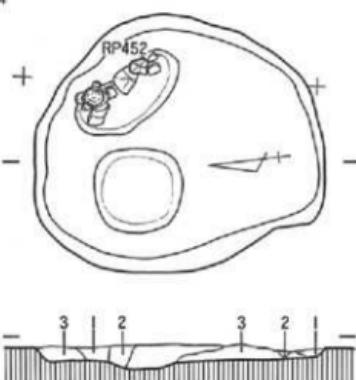
SK53



SK51



SK54



SK47

1. 10YR 5/1 黒褐色細砂質粘土（軟らかい）
2. 10YR 5/2 黑褐色細砂質粘土（堅くしまる）
3. 10YR 5/6 黑褐色細砂質粘土（溶化粒子を含む軟らかい）
4. 5 YR 5/6 淡白色細砂質粘土（軟らかい）

SK49

1. 10YR 5/1 黑褐色細砂質粘土（堅くしまる）
2. 10YR 5/2 黑褐色細砂質粘土（白色粘土ブロックを含む）
3. 10YR 5/6 黑褐色細砂質粘土（やや堅らかい）
4. 10YR 5/6 淡黃褐色シルト粘土（堅い）

SK53

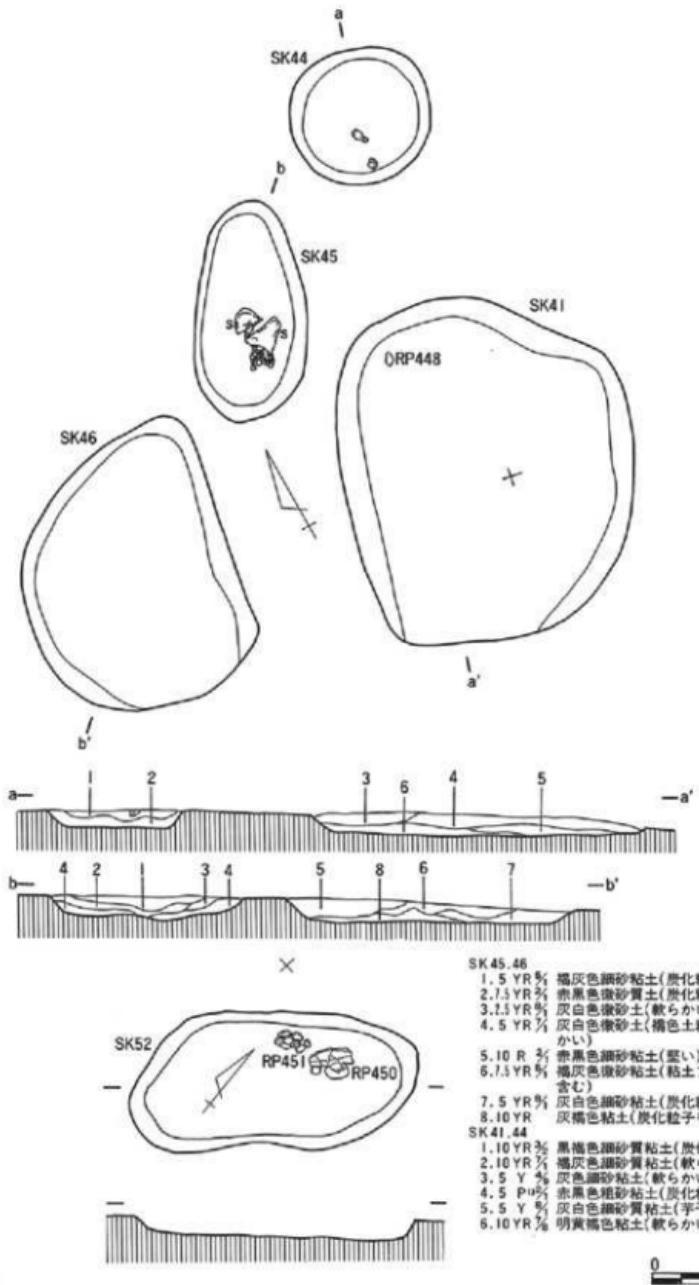
1. 10YR 5/1 黑褐色細砂質粘土（柔らか、溶化粒含む）
2. 10YR 5/6 明黄褐色細砂（黄色に溶化した土がまだらに含む）

SK54

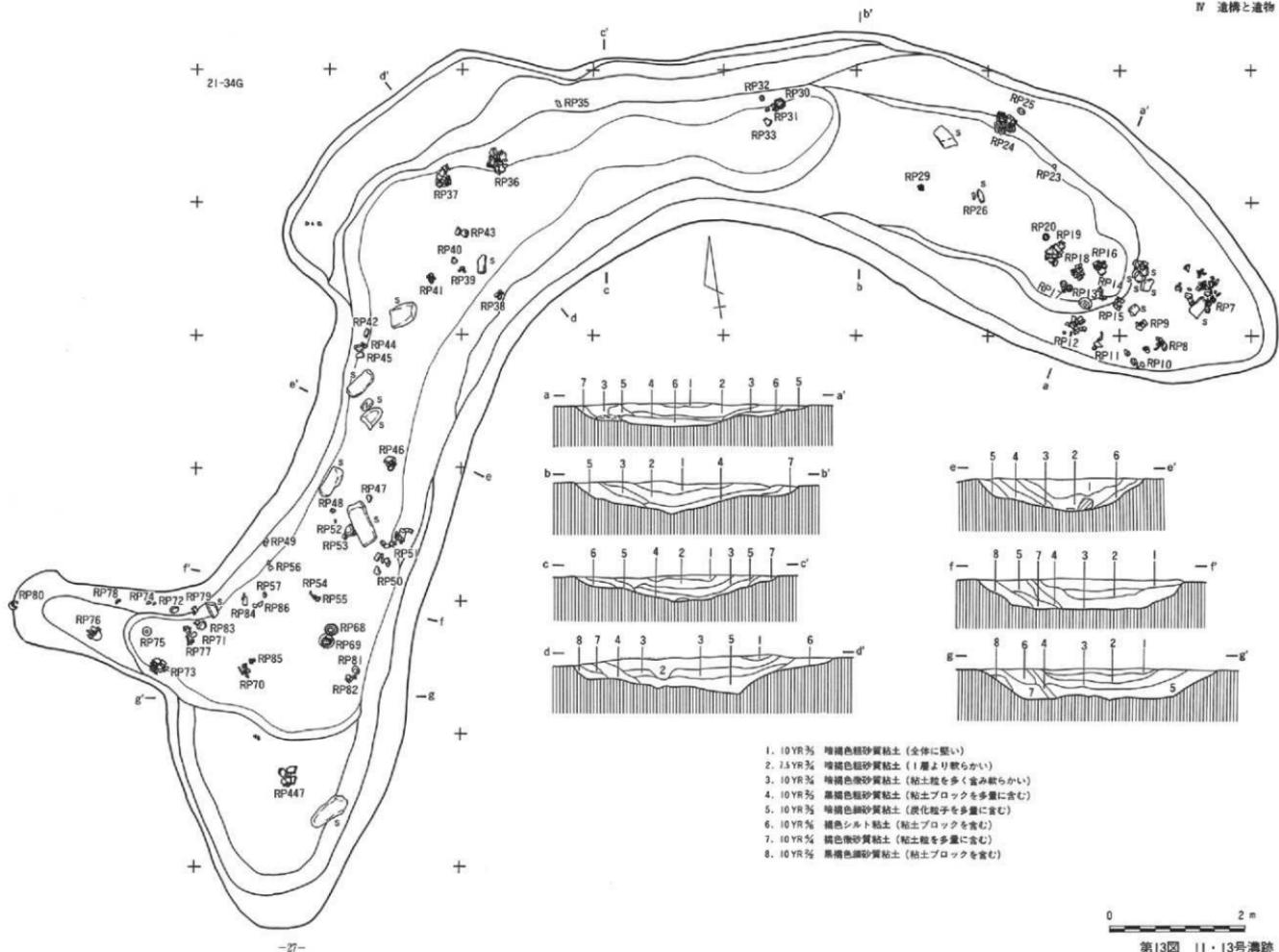
1. 10YR 5/1 黑褐色砂（溶化粒含む）
2. 10YR 5/2 黑褐色砂（やや堅くしまる）
3. 10YR 5/6 黑褐色細砂質（堅くしまる）



第II図 土 坑 (3)



第12図 土坑(4)



### 第13図 11・13号溝跡

**37号土坑（第10図 図版11）**

調査区の中央部南東寄り平坦地、37-27・28グリッド内に在る。遺存状態は良好である。確認面は、II層中でIII層を掘り込んで底面としている。

平面形は、北西側でやや隅丸状になる不整円形を示す。大きさは長径（南北軸）1.26m・短径（東西軸）1.18m・深さ22~26cmである。壁は緩やかに大きく掘り込まれ堅くしまっている。底面は、中央部が起伏に富むがその他はほぼ平坦であり、堅く踏みしめられている。遺物の出土はない。土層の堆積は、2層に分けられ南西方向から流れ込むようにレンズ状に堆積する。時期は、覆土層からみて古墳時代の後半に推定される。

**38号土坑（第10図）**

調査区の北側平坦地、36-52・53グリッド内に位置する。遺存状態は、北側の一部で耕作に攪乱を受けている他は良い。確認面は、II層下部でIII層中を掘り込んで底面としている。南西側で10号溝跡と隣接している。

平面形は、梢円形を呈する。大きさは、長径（南北軸）1.32m・短径（東西軸）1.03m・深さ22~26cmである。壁は緩やかに大きく掘り込まれている。底面は北側で凹凸になるがその他は概ね平坦である。遺物の出土はないが、覆土下層の南側で人頭台から擎台の河原石が発見されている。土層の堆積は、3層に分けられいずれも北西側から流れ込むようにレンズ状に堆積している。時期は、覆土層の状態から古墳時代後半期に相当する。

**39・40号土坑（第10図 図版11）**

調査区の北側平坦地、41・42-53・54グリッド内に位置する。両土坑とも南北側に近接している。遺存状態は良好である。確認面は、II層中で確認され、39号土坑はIII層中からIV層上面まで掘り込み、40号土坑はIII層を浅く掘り込み底面としている。

**39号土坑**

平面形は、南西側が丸味を持つ不整隅丸方形を呈する。大きさは、長軸（東西）1.83m・短軸（南北）1.53m・深さ38~44cmで、短軸方向N-11°-Eを計る。壁は、ほぼ垂直に掘り込まれ断面形がタライ形になる。底面は中央部がやや起伏となる他は概ね平坦で、堅く踏みしめられている。遺物の出土はない。土層の堆積は、2層に区分され北側から流れ込むようにレンズ状に堆積している。

**40号土坑**

平面形は、不整の円形を呈する。大きさは長径1.27m・短径1.07m・深さ12~14cmである。壁は西側で傾斜もち、東側でほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。

遺物は出土していない。土層の堆積は、1層で単純に堆積している。

時期は両土坑とも、覆土の堆積からみて古墳時代後半の時期に相当する。

#### 47号土坑（第11図 図版11）

調査区の南西側緩傾斜地、19—24グリッド内に位置する。遺存状態は良好である。確認面はII層中で、III層を掘り込んで造られている。東側で46号土坑に隣接している。

平面形は、南東側で直線状になるがほぼ梢円形を示している。大きさは長径1.48m・短径1.08m・深さ24~32cmである。壁は全体に緩やかに掘り込まれている。底面は中央部に窪むようになり軟弱である。出土遺物は、土坑中央部の3層中より紡錘車（第52図36）1点のみ出土している。土層の堆積は、4層に分けられ単純なレンズ状堆積を示している。時期は、覆土層からみて古墳時代後半の時期に相当する。

#### 49号土坑（第11図）

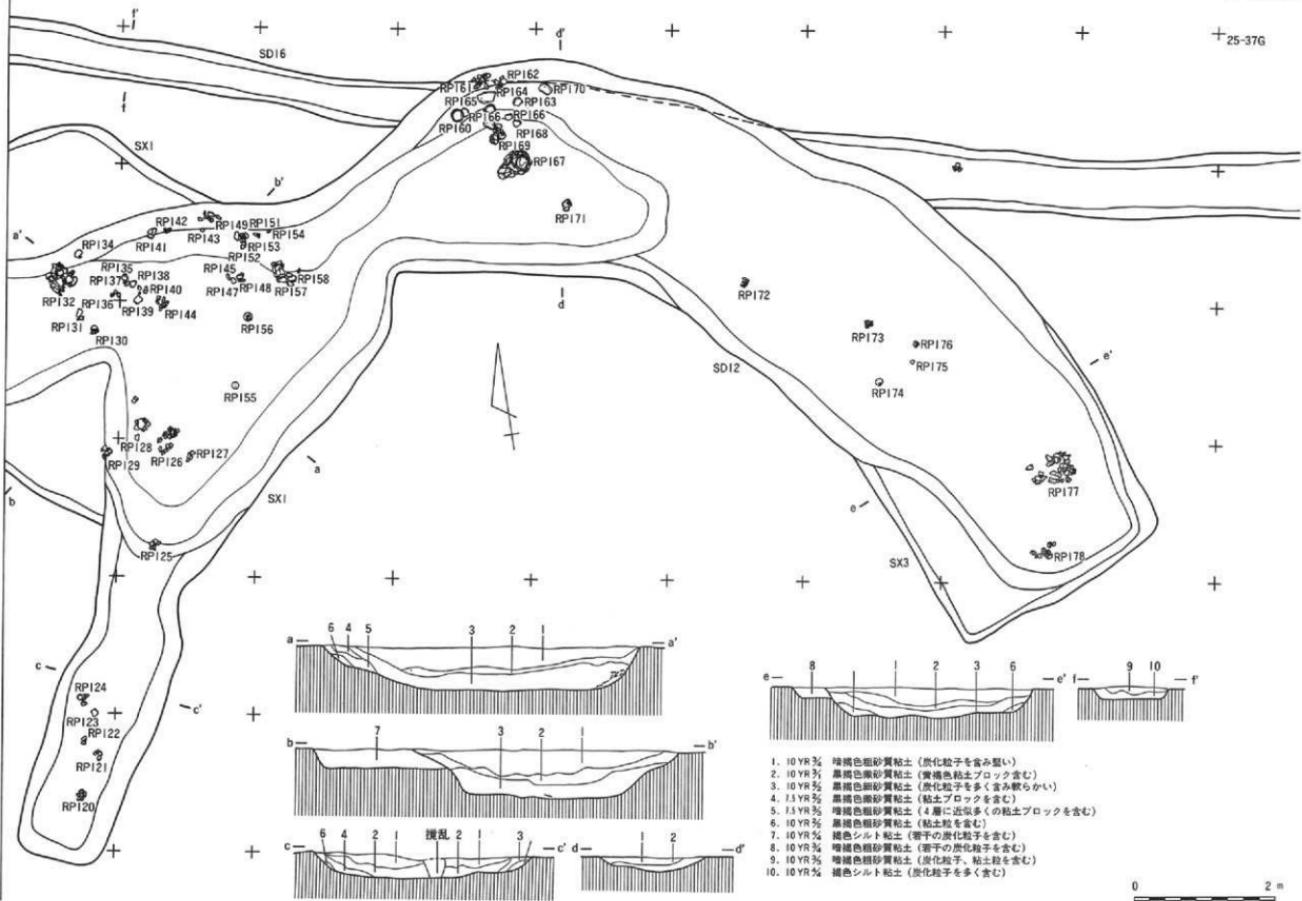
調査区の南西側緩傾斜地、23—23グリッド内に在る。遺存状態はあまり良くない。確認面はII層下部でIII層を浅く掘り込んで底面としている。

平面形は、不整隅丸長方形を呈している。大きさは長軸（東西側）1.04m・短軸（南北軸）70cm・深さ12~23cmである。中央部にリング状の浅い落ち込みがある。壁は緩やかに掘り込んでいる。底面は中央部に落ち窪むようになり軟弱である。遺物の出土はない。

土層の堆積は、4層に分けられレンズ状に堆積している。時期は、覆土層からみて古墳時代の後半期に相当する。

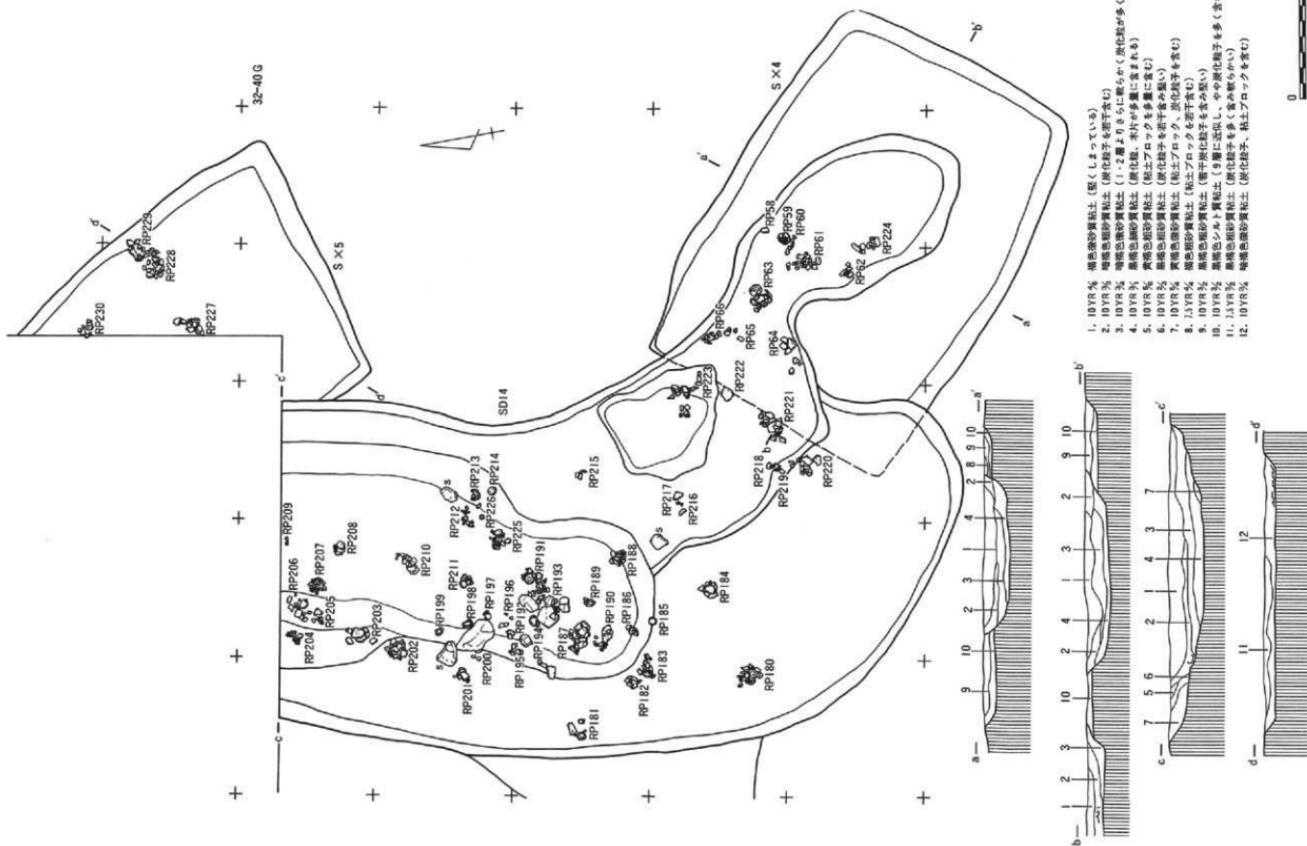
#### 53号土坑（第11図）

調査区の南側緩傾斜地、45—28グリッド内に在る。東側で54号土坑と西側で56号土坑とそれぞれ隣接している。遺存状態は耕作による搅乱がみられ良くない。確認面はII層中でIII層を掘り込んで底面としている。中央部から東壁にかけて浅い落ち込みが検出される。平面形は、不整の梢円形を呈している。大きさは長径（東西軸）1.65m・短径（南北軸）・深さ12~18cmである。壁は北側から東側で垂直に、南側から西側にかけて緩やかに掘り込まれている。底面は起伏に富み軟弱である。遺物の出土はない。土層の堆積は、レンズ状に2層に分けられ堆積する。時期は覆土層からみて古墳時代後半期と推定される。



第14図 1・3号竪穴造構・12・16号溝跡

第15回 4・5号穴縫跡・14号溝跡



### 54号土坑（第11図 図版11）

調査区の南東側緩傾斜地、45・46—20・21グリッド内に位置する。東側で53号土坑と隣接している。確認面はII層中で確認され、III層中を浅く掘り込んで底面としている。遺存状態は良くない。北側に搅乱の落込みが認められる。

平面形は、不整橢円形を示す。大きさは、長径（南北軸）2.00m・短径（東西軸）1.78m・深さ8~12cmである。壁は緩やかに掘り込んでいる。底面は概ね平坦である。土層の堆積状態は浅く検出されたため不明である。遺物は東側壁付近で河原石に混じって押圧された状態で土師器壺（R P 452）が出土している。

時期は、出土した土器からみて古墳時代後半の6世紀代に比定される。

### 56号土坑（第11図 図版11）

調査区の南東側緩傾斜地、44・45—18グリッド内に位置する。遺存状態は形が判別できる程度で搅乱を受けている。確認面は、II層下部で確認されIII層を掘り込んで造られている。北側では52号土坑と隣接している。

平面形は、不整橢円形を示している。大きさは、長径（東西軸）2.02m・短径（南北軸）1.22m・深さ15~21cmである。壁は緩やかに掘り込まれ、底面も概ね平坦である。遺物の出土はない。土層の堆積は、搅乱を受けているため不明である。時期は、周辺部の土坑の状態からみて恐らく古墳時代後半期と推定される。

### 41・44・45・46号土坑（第12図 図版11）

調査区の南西側緩傾斜地、20~23—23~26グリッド内に位置している。41号土坑と42号溝跡は重複し各々の土坑は近接している。遺存状態は各土坑とも良い。確認面はII層下部で確認し、III層中を掘り込んで各々底面となる。

#### 41号土坑

平面形は、不整方形を呈する。大きさは長軸（南北）2.36m・短軸（東西）2.02m・深さ6~16cmで、N—6°—Eを計る。壁は南側で若干傾斜し、その他は緩やかに掘り込まれている。底面は全体に起伏がありやや堅く踏みしめられている。遺物は下層より土師器の壺片3・甕2点が出土するが摩滅が著しい。土層の堆積は北側より流れ込むようにレンズ状に堆積し4層に分けられる。

#### 44号土坑

平面形は、円形を呈する。大きさは径96cm・深さは12~14cmである。壁はほぼ垂直に掘り込まれ断面形がタライ形を示している。底面は概ね平坦で堅くなっている。土層の堆

積は、北西側から流れ込みレンズ状に堆積し2層に分けられる。出土遺物はないが、南側の底面より自然の小礫が不規則に検出されている。

#### 45号土坑

平面形は、橢円形を呈している。大きさは、長径（南北軸）1.49m・短径（東西軸）で79cm・深さ9~16cmで、長軸方向N-23°-Eを計る。壁は全体に緩やかに大きく掘り込み軟弱である。底面は、土坑中央部に窪むように落ち込み凹凸がみられ、軟弱である。土層の堆積は、4層に区分されており各層とも北側から流れ込むようにレンズ状に堆積している。遺物の出土は、1層より土師器壺片が3点出土するが、摩滅が激しく時代を特定できない。

#### 46号土坑

平面形は、西側が直線状になる不整橢円形を示している。大きさは長径（南北軸）1.78m・短径（東西軸）1.51m・深さ11~16cmで、長軸方向N-3°-Eを計る。壁は大きく緩やかに掘り込まれ軟弱である。底面は、中央部がやや高く壁際で傾斜をもち、軟弱である。土層の堆積は、上層で西側から流れ込み、中層から下層にかけては北東側から流れ落ちており、各層ともレンズ状に堆積し、4層に区分される。遺物の出土はない。

各土坑の時期は、特定する遺物が出土しないが、覆土層の状態からみて各土坑とも古墳時代後半の時期に相当する。

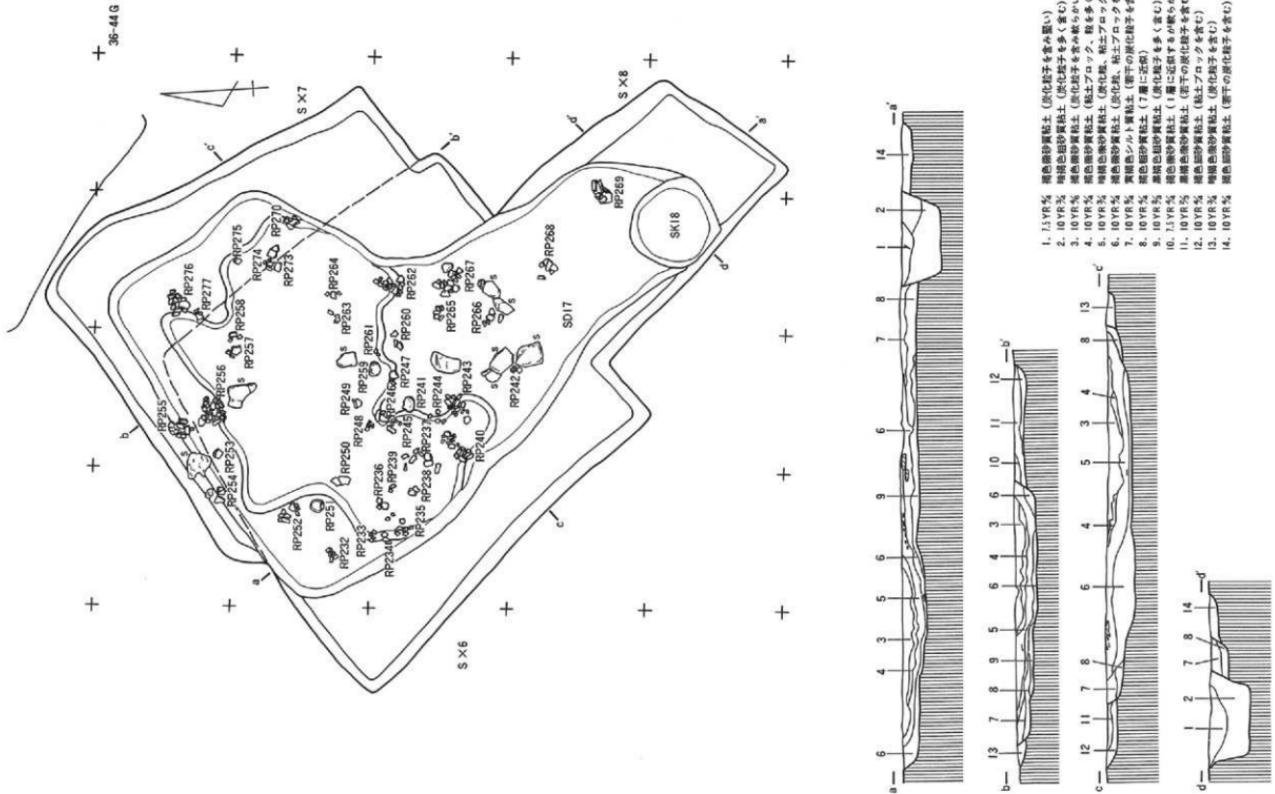
#### 52号土坑（第12図 図版11）

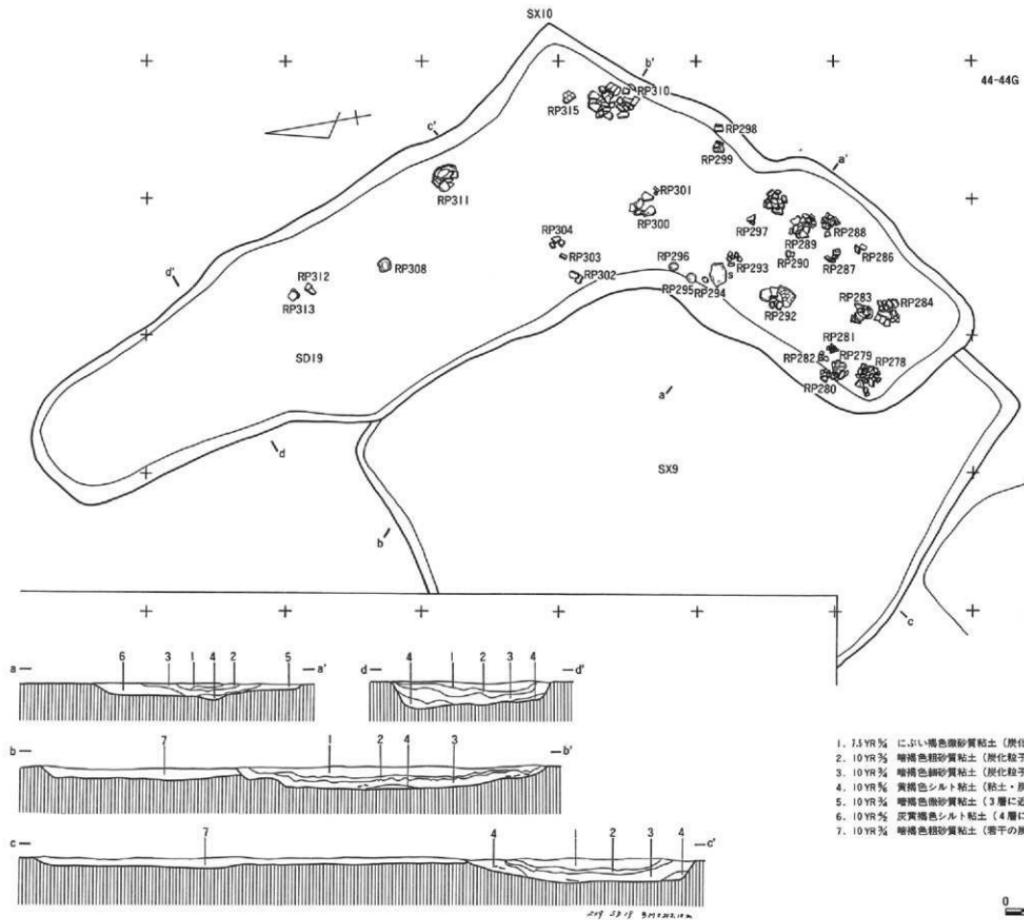
調査の南東端の緩傾斜、42・43-17・18グリッド内に位置している。遺存状態は南側で耕作による搅乱を受けているため良くない。確認面は、II層で確認しIII層を浅く掘り込んで底面としている。

平面形は、不整の橢円形を呈している。大きさは、長径（東西方向）2.02m・短径（南北方向）97cm・深さ14~18cmである。壁は緩やかに掘り込まれる。底面は凹凸が激しくやや軟弱である。土層の堆積は、耕作による搅乱が著しいため不明確である。出土遺物は北側の壁付近で土師器壺の胸部破片一括が2点出土（RP450・451）し、上から押圧された状態で出土している。破片は、一括であるが摩滅が著しいため時代の特定が判断しにくい状態である。

土坑の時期は、出土遺物や残存する土層の覆土から観察して、古墳時代後半の時期に相当すると考えられる。

第16図 6・7・8号堅六道構・18号工坑・17号溝跡





1. 1.5 YR 5% にぶい褐色細砂質粘土 (炭化粒子を多量に含む)
2. 10 YR 3% 褐褐色細砂質粘土 (炭化粒子・粘土ブロックを含む)
3. 10 YR 3% 褐褐色細砂質粘土 (炭化粒子・粘土ブロックを含む)
4. 10 YR 5% 黄褐色シルト粘土 (粘土・原化粘土を含む)
5. 10 YR 3% 褐褐色細砂質粘土 (3層に近似する粘らかい)
6. 10 YR 5% 黄褐色シルト粘土 (4層に近似する粘らかい)
7. 10 YR 3% 褐褐色細砂質粘土 (岩盤の膠化粒子を含む)

第17図 9号竖穴道構・19号溝跡

#### (4) 溝 跡

##### 15号溝跡（第6図 図版4）

調査区の西端中央部の平坦地、15~17-28~32グリッド内に位置する。2号竪穴状遺構と重複し、北側で12号溝跡と隣接している。遺存状態は、上層が水田耕作などにより搅乱を受けている。確認面はII層中で確認され、III層を掘込みIV層にまで至る。

平面形は、不整の方形状になり西側に延びている。溝の幅は2.80~3.02mで、深さは確認面から68~73cmである。断面形がV字状を呈する。壁は上部で大きく緩やかに掘り込み、中位から下底まではほぼ垂直になる傾斜となっている。底面は平坦ではなく非常に起伏に富み凹凸が著しく、堅く踏みしめられている状態である。

土層の堆積は、5層に区分される2~5層にかけては砂質粘土で軟らかく北西側から急激にレンズ状に堆積し、1層は粗砂質粘土で堅くしまっており2~5層と比べると異質でありII層の土質に近似している。

遺物の出土状態は、2層から5層にかけ壁際に沿うように出土し、特に3~5層にかけて多く検出されている。これらは恐らく3~5層が堆積する時点で遺物が投棄されたと考えられ、南側から東側にかけその現象が多くみられる。

時期は、出土した遺物からみて古墳時代の後半から末期にかけての時期である。

##### 11・13号溝跡（第13図 図版6）

調査区の西側中央部の平坦地、20~31-27~35グリッド内に位置する。北側では12号溝跡と南側で42号溝跡と隣接している。確認面は、II層中で確認されIV層中で掘り込み底面としている。遺存状態は、西側の一部で耕作による搅乱が認められるが概ね良好である。

##### 13号溝跡

平面形は、北側で方形状に張り出し、東側から西側にかけて弧状を示している。溝跡の幅は2.70m~4.50mで、確認面からの深さは64~72cmである。断面形はV字状を示している。壁は、東側半分が大きく緩やかに掘り込まれ、西側域ではややV字状に掘り込んでいる。底面は2~3段階に掘り込まれているため、起伏に富み凹凸がはげしく堅くしまっている状態である。

土層の堆積は、8層に区分される。1層はII層に近似し、2~5層にかけては東側域に厚く堆積し北東側より流入し、6~8層は西側域に厚く堆積し南東側から流れ込むようにレンズ状に堆積している。堆積の状態は大きく分けると上層から中層と下層に区別されそれぞれ流入する方向が異なっていることが特徴的である。

遺物の出土状態は、東側域では南壁付近に集中して投棄され、西側域では北壁から投棄

され6～8層にかけて多く出土している。遺物の出土も西側域と東側域では投棄の現象の差異が観察され、恐らく時間的な差があると推察される。

時期は、出土した遺物からみて古墳時代の後半期から末期にかけての時期である。

### 13号溝跡

11号溝跡と重複し、11号溝跡南西側に在り西側に突出するようになっている。11号溝精査検出の際確認される。溝幅72～80cm・深さ12～46cmである。土層の違いによって区別したものである。土器が2個体出土し西側から流れ込むように出土する。11号溝跡より旧い。時期は、13号溝跡と同時期である。

### 12・16号溝跡（第14図 図版4・5）

調査区の西側の平坦地、15～24—33～37グリッド内に位置している。1号竪穴状造構や3号竪穴状造構と重複している。確認面は、II層中で確認されIII層下部まで深く掘り込んで底面を形成している。遺存状態は北側の中央部で一部搅乱している他はほぼ良好となっている。

### 12号溝跡

形状は、調査区の西端および南西から弧状になるように東側にかけて在る。溝幅は1.56～2.89mで深さ24～82cmである。断面形は東側でV字状になり、中央部から西側にかけては逆八字状を呈している。壁は、東側で緩やかに掘り込まれ、中央から西側にかけては階段状に掘り込んでいる。底面は、溝の中央部に落ち窪み全体に起伏に富んでいる。

土層の堆積は、全体的にレンズ状に北西側から流れ落ちており6層に区分される。1～3層にかけては時間をかけた状態で堆積し、4～6層は壁体が崩落した土層であり急早に堆積している。

遺物の出土状態は、大きく4地区に分けられ南西端と東端では底面から出土し押圧された状態で出土し、中央部は北壁に沿うように、西側では北壁から底面にかけて検出されている。いずれも3層が堆積する以前に投棄されたものである。

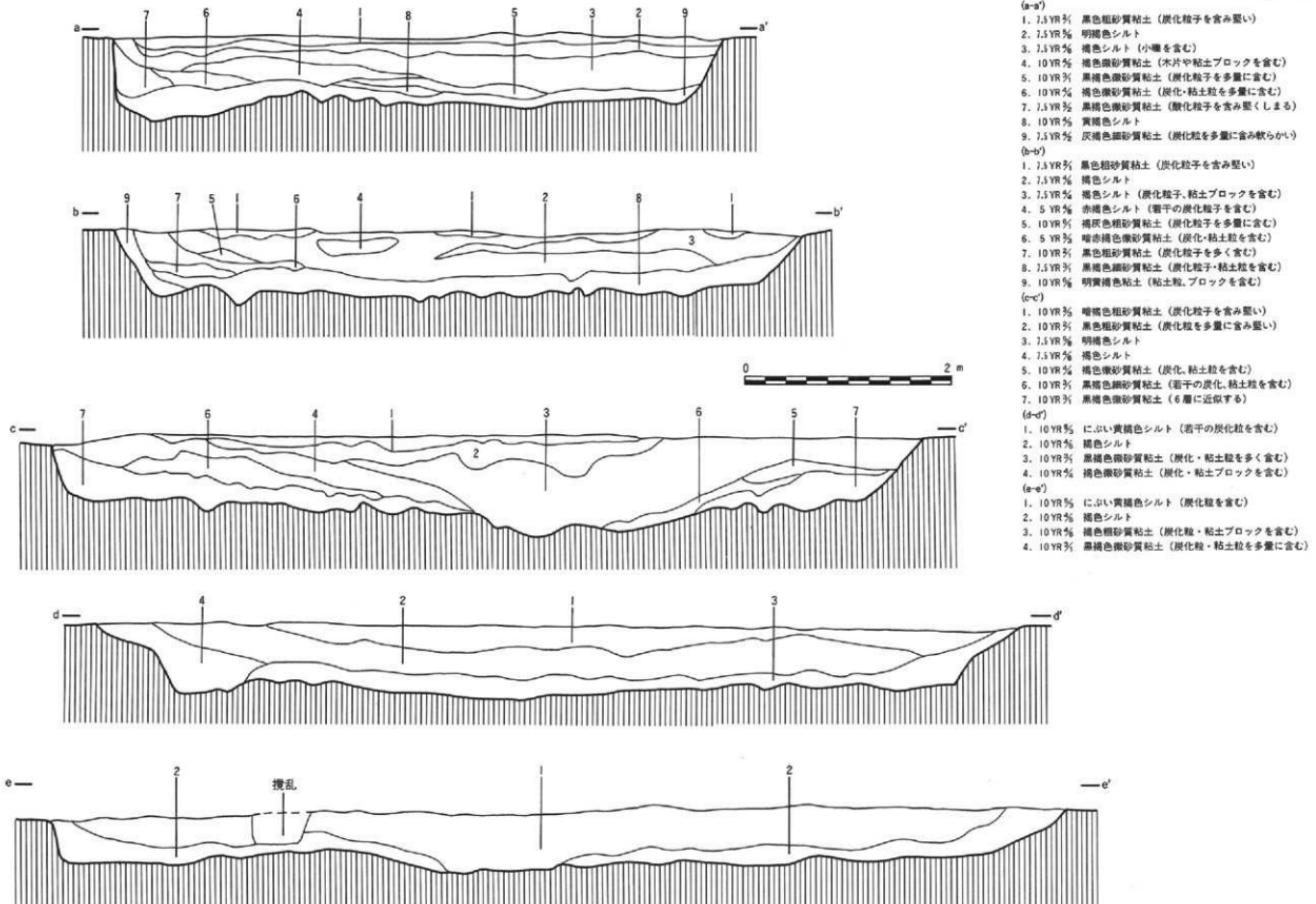
時期は、出土した遺物からみて古墳時代の後半期に相当するものである。

### 16号溝跡

11号溝跡と14号溝跡と重複しているが、土層観察に基づいて両溝跡よりも旧い。形状は東西方向に直線的に走り14号溝に接近し、西側は未検出である。溝幅は72cm～1.27m・深さ14～25cmである。壁は全体に垂直に掘り込まれている。断面形はV字形になる。底面は概ね平坦で軟弱である。遺物の出土はない。

土層の堆積は2層に区分され水平に堆積している。時期は古墳時代後半期である。

第18図 20号測線 (1)



第19図 20号溝跡（2）

## 14号溝跡（第15図 図版7）

調査区の中央部平坦地、27~31-35~40グリッド内に位置している。4・5号竪穴状遺構と重複している。確認面は、II層中で確認されIII層下部まで掘り込み底面としている。形状は、北側が未検出であるため不明確であるが南北に大溝状に走り、南東側に不整形状になるように張り出している。断面形はV字状になる。壁は北側から南側にかけて段状に掘り込み、南東の突出部は緩やかに掘り込んでいる。底面は起伏に富んでいるが、北側から中央でにかけては概ね平坦となっている。

土層の堆積は、7層に区分される。1層はII層に近似し、2~4層はほぼ水平に堆積し、5~7層は壁体の崩落土である。特に2~4層は北西側から流れ込んで、急激に堆積している。

遺物の出土状態は、溝跡の中央部の全体に出土している。中央部から北側にかけては底面より検出し西侧から投棄され、南東端は東側と西侧から流れ込んでいる。出土の状態はいずれも押圧され状態で検出される。

時期は、出土した遺物から古墳時代の後半期に相当する。

## 17号溝（第16図 図版8・9）

調査区の中央部北寄り平坦地、33~36-42~44グリッド内に位置する。6・7・8号竪穴状遺構と18号土坑とそれぞれ重複している。確認面は、II層中で確認されIII層中位まで掘り込み底面になっている。遺存状態はあまり良くない。

形状は、溝跡というより不整形になる落ち込み状の形状を示している。溝幅は不明であるが深さは25~24cmである。壁は大きく緩やかに掘り込まれ、底面も起伏があり不規則の状態である。

土層の堆積は、9層に区分されるが1~5層と6~9層に大別れる。5層は粘土ブロックや小礫を多に含み柔らかであるが、6~9層は砂層混じりでやや堅くしまっている。全体にレンズ状に堆積している。1~5層は人為的に埋め戻した土層である。

遺物の出土状態は、1~5層にかけて密集して検出し溝跡中央部に向けて投棄したとみられ、河原石や小礫とともに出土している。6~9層からの出土は土器片が多くまとまりをみせていない。

時期は、出土した遺物から古墳時代後半の時期に相当する。

## 19号溝跡（第17図 図版9）

調査区の北側平坦地、35~39-44~51グリッド内に在る。西側で9号竪穴状遺構と重複している。確認面はII層中でIII層中を掘り込んで造られている。遺存状態は北側で上面が耕作により搅乱を受け破損している。

形状は、東側で直線状になる。く字状を呈しほば南北に長くなっている。溝幅は2.56m~3.02mで深さ29~46cmである。壁は東側から南側にかけてほぼ垂直に、北側から西側では緩やかに掘り込んでいる。底面は中央部から南側では起伏に富み凹凸があり、中央から北側にかけては概ね平坦である。

土層の堆積状態は、北西側から各層ともレンズ状に流れ込むように堆積し4層に分けられている。1・2層は粘土ブロックや小礫を多量に含み時間差がなく堆積し、3層は軟弱でやや泥炭質で有機物が多量に混じり合っている。4層は壁体の崩落である。

土器の出土状態は、溝の中央部から南側にかけて集中して底面より検出され、西側と東側から多く投棄される現象がみられ、押圧した状態で出土している。

時期は、出土した遺物から古墳時代の後半の時期に相当する。

## 20号溝跡（第18~12図 図版12）

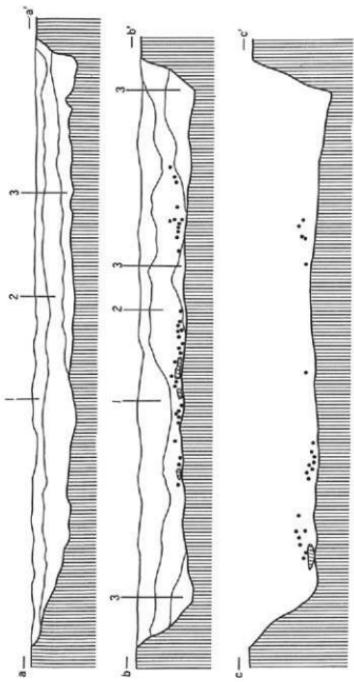
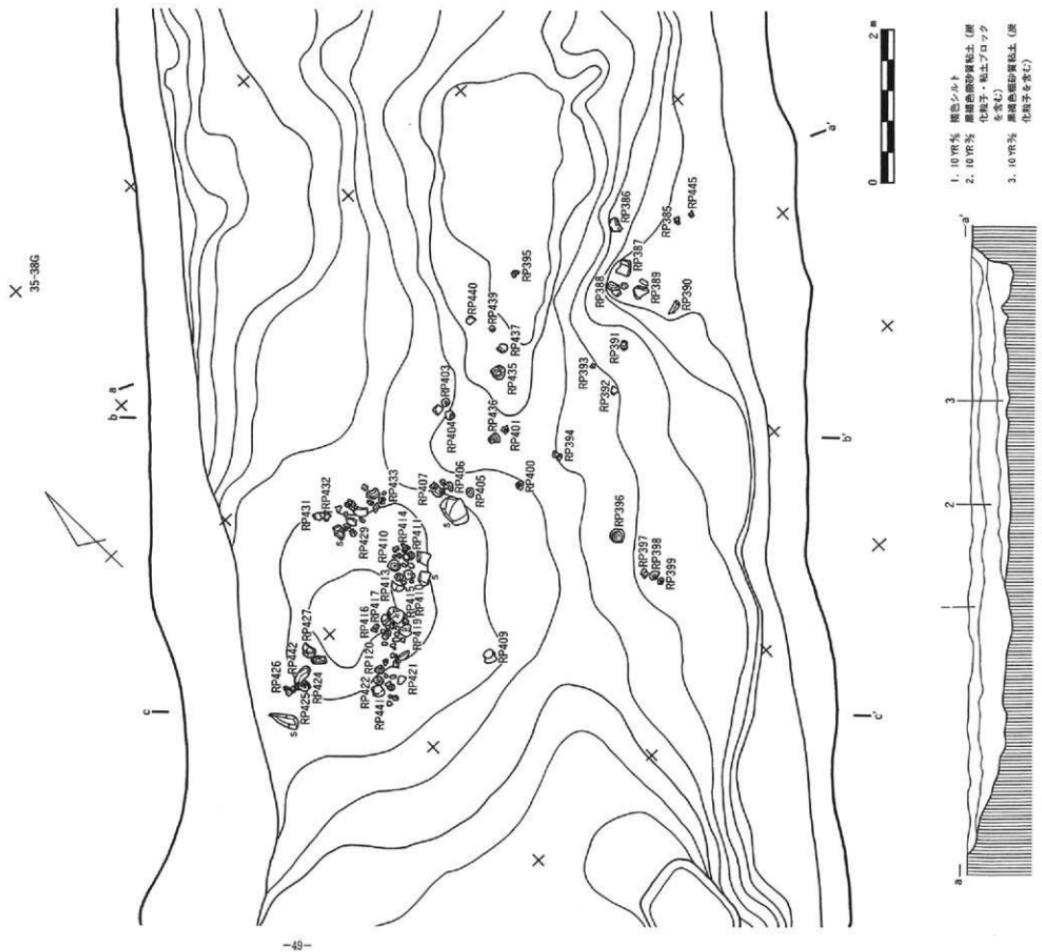
調査区の東側北寄りから中央部をへて南側中央に弧状になるように全域に位置している。各遺構とは重複していない。確認面はII層中からIV層中まで掘り込まれている。遺存状態は部分的に搅乱を受けているが概ね良好である。

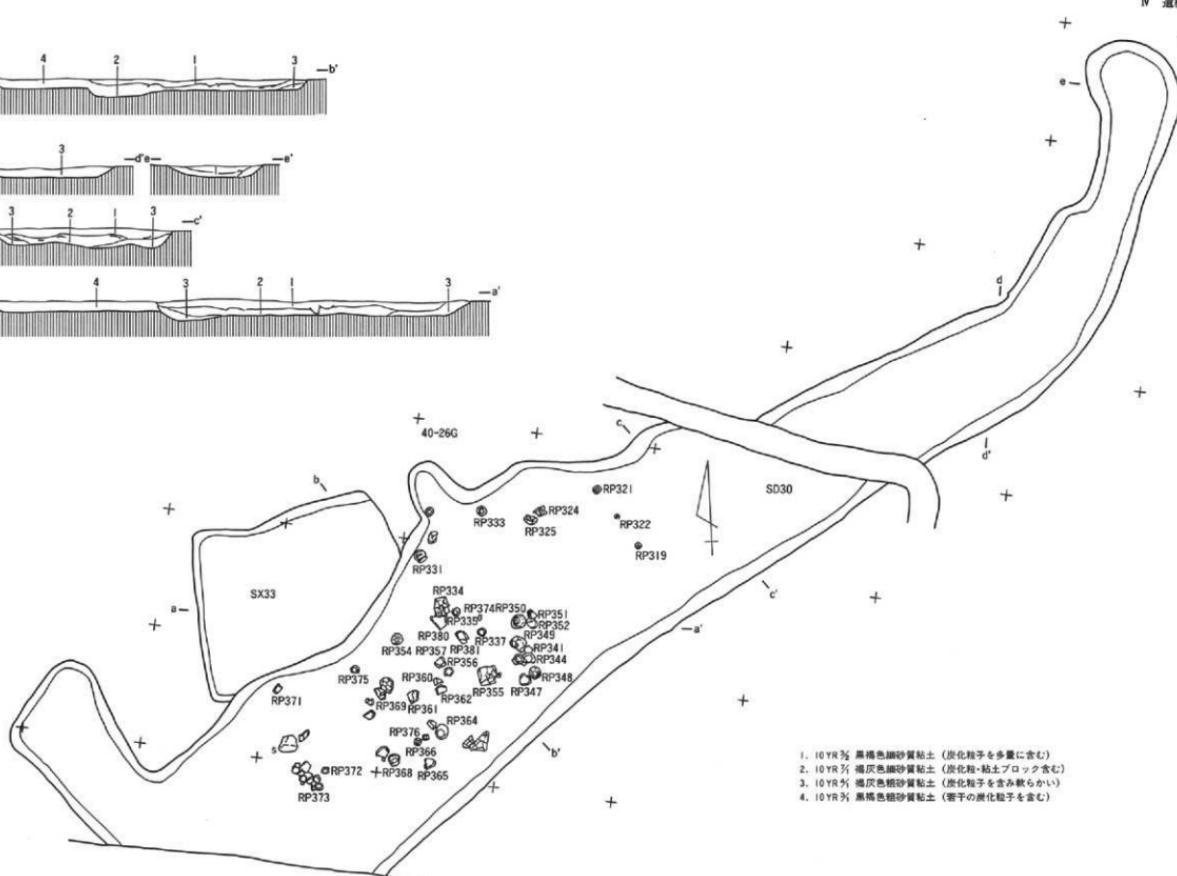
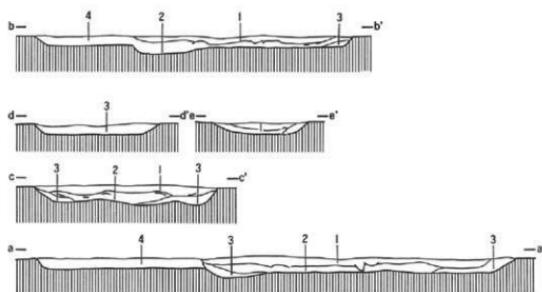
溝幅は8~8.5cmで深さは47cm~1.12mである。壁は東側から中央部にかけては緩やかで、中央部から南側ではほぼ垂直になっているが、中央部ではオバーハングする箇所もみられる。底面は全体に起伏に富み非常に凹凸が著しく認められる。

土層の堆積は、上層部はII層に近似しほば水平に堆積し、中層から下層にかけては東側と西側から急激にレンズ状に堆積している。土質は、上層で粘土質で中層から下層にかけては砂層で部分的に有機質の泥炭質が混じっている。壁の崩落は中央部が特に顕著で西側壁体の崩落が著しく認められる。

遺物の出土は、溝の中央部に片寄って底面から多く出土し、中央部から北側と東側にかけては西壁寄りに密集し、中央部から南側にかけては溝の中央から東壁寄りに集中して出土している。遺物の出土状態は、押圧状態よりも土師器の壊や高壊は正位や逆位の状態で完形品が多く、壺などは横位の状態で出土している傾向がある。

20号溝跡は南側の不明落込み50・60号に続き、これらは泥層の傾斜地となっている。溝の時期は、出土した遺物から古墳時代の後半期の時期である。





0 2 =

### 30号溝跡（第21図 図版13）

調査区の南東側緩傾斜地、36~45-22~30グリッドに位置している。西側で33・34号竪穴状造構と重複し、北側で28・29号土坑と南側で35号土坑とそれぞれ隣接している。確認面はII層中でIII層を浅く掘り込んでいる。遺存状態は、北東側は耕作によりほとんど搅乱を受けているが、中央部から南側は良好である。

形状は不定形になり南西側から北東側にかけて字状を呈して延びている。溝幅は42cm～2.29mで深さは21～32cmである。壁は緩やかに掘り込まれる。底面は概ね平坦で軟弱である。

土層の堆積は、3層に分かれ黒褐色土が充満しておりこれまでの溝跡覆土と違いがある。1～3層はいずれも水平な堆積状態を示しており、3層中に泥炭質土が混じっている。

遺物の出土は、溝跡の中央部から南西側にかけて集中して底面に密着するように、押圧した状態で出土している。

時期は、出土した遺物により古墳時代の後半の時期に相当する。

### 42号溝跡（第4図）

調査区の南西側緩傾斜地、23・24-25~27グリッド内に位置している。南側で41号土坑と重複し、西側で44号土坑と北側で11号溝跡と隣接している。遺存状態は概ね良好である。確認面はII層中でIII層を浅く掘り込んで造られている。

形状は、南西から北東方向に細長く延びて、不整形を呈している。溝幅は1.21～1.51mで深さ34～42cmである。壁は南西側で垂直に掘り込まれ、中央部から北側にかけ大きく緩やかに傾斜している。底面は、中央部で平坦であるが南西側と北東側の壁付近で傾斜をもっている。

土層の堆積は、北西側から流れ込むようにレンズ状に堆積し、1～3層に分かれ黒褐色土層に粘土ブロック・小砾を多量に含んでいる。30号溝跡に近似する。出土遺物は検出されない。

新旧関係は、41号土坑よりも古い。時期は古墳時代後半の時期に比定される。

### 55号溝跡（第4図）

調査区の南側平坦地、26~30-25~27グリッドに在る。II層中で確認されII層中で底面となる。遺存状態は良くない。形状は南北に細長く延び、幅35～42cm、深さは12cmである。壁は緩やかに傾斜し、底面はほぼ平坦である。覆土は黒褐色土の1層のみである。遺物の出土はない。時期は不明である。

## 2 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、整理箱にして約165箱を数える。このうち土器が160箱・石製品が5箱である。すべてが古墳時代後半の土師器である。

### (1) 土師器 (第22~51図 表一1~9 図版14~34)

器種は大別して壺(A)・高壺(B)・C(鉢)・瓶(D)・壺(E)・甕(F)に分けられる。

壺(A) 口縁・底部の形態により類別する。

#### A 1類 (第22図1~12)

壺類の中でも底部の形態がやや丸味を呈し、器厚がやや厚く底が上底となっている。

(1~12) は口縁が大きく外反するもの、頸部のくびれに稜を形成する (3・7・8)。口縁が直立する (9~10) などがある。

#### A 2類 (第22図13~18)

A 1類に共通するが、底部の器厚がなくやや上底となっている。

(13~15) は頸部にあまりくびれもなく口縁が直立し、(17~18) は口縁部が大きく外反している。

#### A 3類 (第23図1~4)

器形全体が口縁から底部にかけ丸味があり、底が丸底となっている。口唇部が若干内湾している。

#### A 4類 (第23図5~15)

口縁部がやや外反し、頸部のくびれの稜が上半部にあり、底部が丸底となっている。口縁が大きく外反する (9・8・11・12)、やや直立して外反する (5・6・10・13) があり、頸部のくびれの稜が明瞭になるものが (12・15) などがある。

#### A 5類 (第23図16~18・第24図1~4)

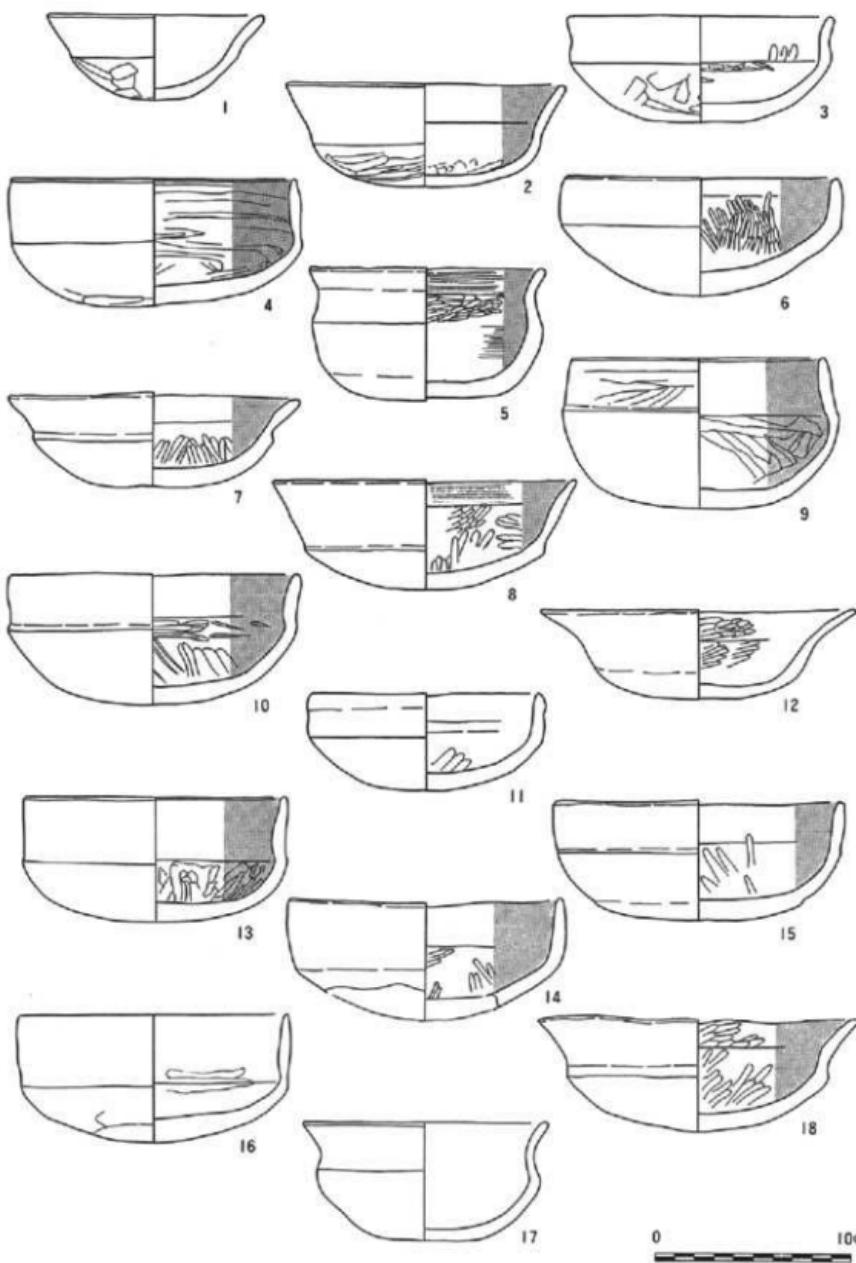
口縁部から頸部にかけて直立するがやや内湾している。頸部のくびれに稜が不明瞭となっている。

#### A 6類 (第24図6~17)

器高があまり高くなく、頸部のくびれが下半部になり稜がはっきりしており、底部は丸底である。口縁部はくびれ部から大きく外反し、とくに (5) は著しい。(15) やや直立するが口唇部が外反する。

#### A 7類 (第24図18・第25図1~6)

A 6類に共通して器高があまり高くなく、くびれ部直下より底部が丸底となる。口唇部が外反している。



第22図 土器実測図(1)

## A 8類（第25図7～18・第26図1～9）

A 6類・A 7類に共通するが体部のくびれの稜が明確で、稜がく字状になる。

(第26図9)は器高がやや高く、(第26図1)は口縁部がやや外反する。

## A 9類（第26図10～12）

器形全体が口縁部から体部中半までやや内弯し、体部中半から直下から丸底となつてゐる。

## A 10類（第26図13～17・第27図1～4）

口縁部直下にくびれを有し、口縁部が大きく外反し丸底を呈している。

(第26図13)は口径も大きく稜は沈線状に整形している。

## A 11類（第27図5～9）

器形全体が口唇部から底部にかけ丸味をもち、口唇部が内弯している。器厚も厚く底部でとくに顯著である。

## A 12類（第27図10～12）

口縁部が外反し、体部に丸味をもち、底部が平底を呈している。

## A 13類（第27図13～17）

口縁部が外反し、体部が直立し、底部は丸味を有するが底の中央部から若干平底となる。

## A 14類（第37図1～5）

底部に台が付く一群である。(3)は器形全体が丸味をもち、その他は体部中半部に若干のくびれを有し、くびれ部から口縁にかけて直立するように外反している。

## A 15類（第36図9・第37図6～9）

皿状を呈し、臺や甕の底部の形態を有し、底が平底となっている。口唇部は波状を示し刻目を施している。

## A 16類（第37図12）

大形の环頬で、A 10類に共通類似している。

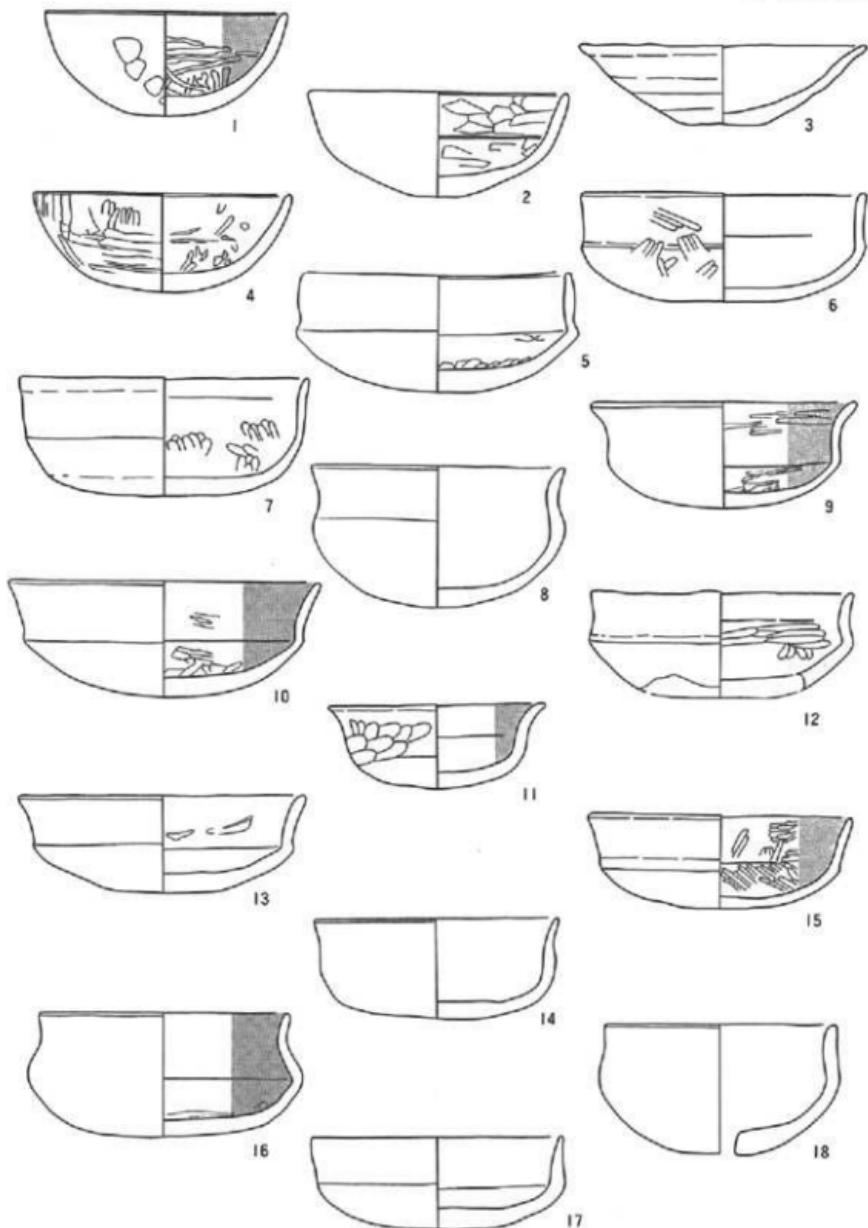
## 高坏(B) 坏部・脚部の形態により分類する。

## B 1類（第28図1～11）

坏部は、緩やかに外反し立ち上り、そのまま口縁部が外傾するもの。脚部は短く、裾部はやや広がる。脚部の内面は大きく弯曲している。

## B 2類（第29図1～11）

坏部は、緩やかに外反し立ち上り、くびれ部の稜が明瞭でそのまま口縁部が大きく外傾するもの。脚部は短く棒状になり、裾部の広がりをもたない。脚部内面はやや弯曲する。



0 10cm  
第23図 土器実測図(2)

## B 3類 (第30図1・2・4~9)

坏部は、口縁部が短く緩やかに立ち上り、頸部のくびれから大きく外傾し、口唇部も外反している。脚部は長く棒になり、裾はやや広がる。脚部の内面は短く大きく屈曲している。

## B 4類 (第30図3・10・11)

坏部は、口縁部が直立するように外反し、口唇部も外傾している。脚部は短く、裾部はあまり広がらない。脚部の内面は直線的に整形している。

## B 5類 (第31図1~10)

坏部は、口縁部が短く大きく外反し、稜が体部下半にある。脚部は太く長く、裾部があまり広がらないもの(1・2)と広がりがある(4・5)と二種類ある。脚部の内面も弯曲する(4・5)とそうでない(1)がある。

## B 6類 (第32図1~8・第33図1~4)

坏部は、口縁部が緩やかに立ち上り、体部下半が丸味を持たず、稜も下半部にある。脚部は長く棒状になり、裾部も大きく広がる。脚部の内面も大きく弯曲している。

## B 7類 (第33図5~10)

坏部は、器形全体が丸味があり、稜が不明瞭で、口縁部が緩やかに外傾している。脚部は太く長くなり、裾部も大きく広がる。

## B 7類 (第33図6~10)

坏部は、全体に丸味があり口縁部で外反する。脚部は太く短く、裾部は大きく広がる。脚部の内面は大きく弯曲している。

## B 8類 (第34図1~10・第35図1~7)

坏部は、口縁部が低く大きく外反し、頸部のくびれが明瞭で体部下半にあり、体部の下半はやや丸味がある。脚部は太く短く、裾部も広がりを示している。脚部の内面はやや弯曲するのみである。

## B 9類 (第35図8~11)

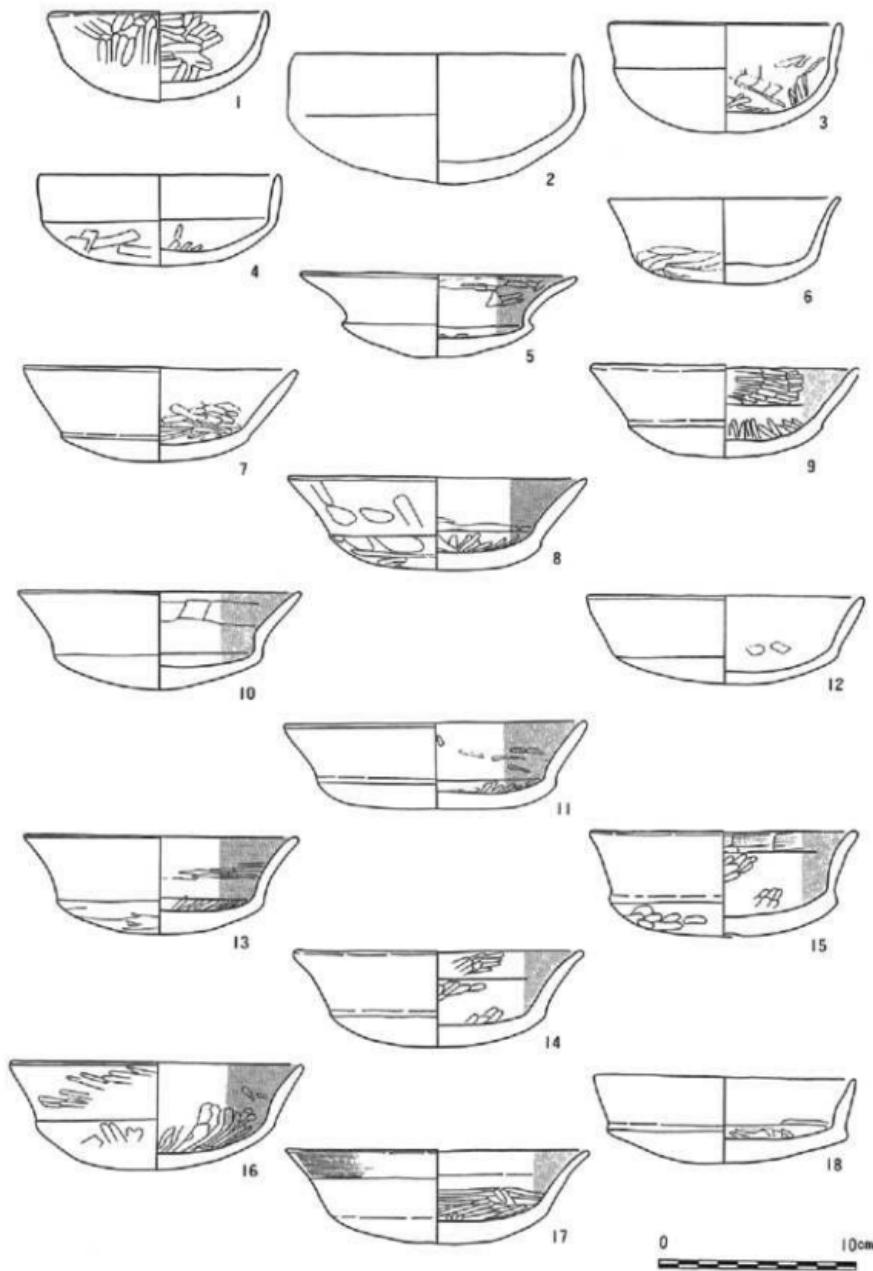
坏部は、口縁部がやや高く緩やかに立ち上り、体部中半に稜があり中半から下半にかけて丸味を有す。脚部は短く、裾部が広がり縁がはねあがっている。脚部の内面はやや直線的に内弯している。

## B 10類 (第36図1~5)

B 8類に共通し類しているが、裾部でさらに大きく広がる。脚部の内面は弯曲している。

## B 11類 (第36図6~8)

坏部は、口縁部から丸味をもち口唇部がやや外反し、稜は不明瞭である。脚部は太く短



第24図 土器実測図 (3)

く脚部の内外面とも弯曲し、裾部はあまり広がらない。

B12類（第30図9・第32図9）

坏部は、口縁部直下に頸部のくびれを有し、体部は丸味をもつ、口縁部は大きく外反している。脚部は太く短い、裾部はやや広がる。

鉢（C）口縁部・体部・底部の形態によって分類する。

C1類（第37図10）

筒形を示し、口唇部がやや外反している。底部は平底となる。

C2類（第37図11）

壺形の形態を示す。口縁部から頸部にかけて外反し、胴中半が張らむ。底部は中央部がやや上底状になっている。

C3類（第38図1～4）

壺形全体が丸味がある。口縁部が外反し、口縁部直下から胴中下半にかけ丸味があり、底部は丸底を呈している。

（第38図1）は坏類に共通しているが、明確な判断がないためC類とした。

C4類（第38図5～9）

C類に共通するが、口縁部がさらに大きく外反し、胴部の上半に丸味を有している。底部は丸味のある平底となっている。（6）は胴中央部に二次的な穴があいている。

C5類（第38図10・第39図1～4）

C2類と共通し壺形の形態を示している。口縁部は大きく外反し、胴中央に張らみをもち、底部の作り出がみられ平底となっている。

C6類（第39図5・6）

器全体が丸味を有する。口縁部やや直立するように外反し、頸部から胴下半にかけ脹らみをもたず丸味を有している。底部は丸底となる。

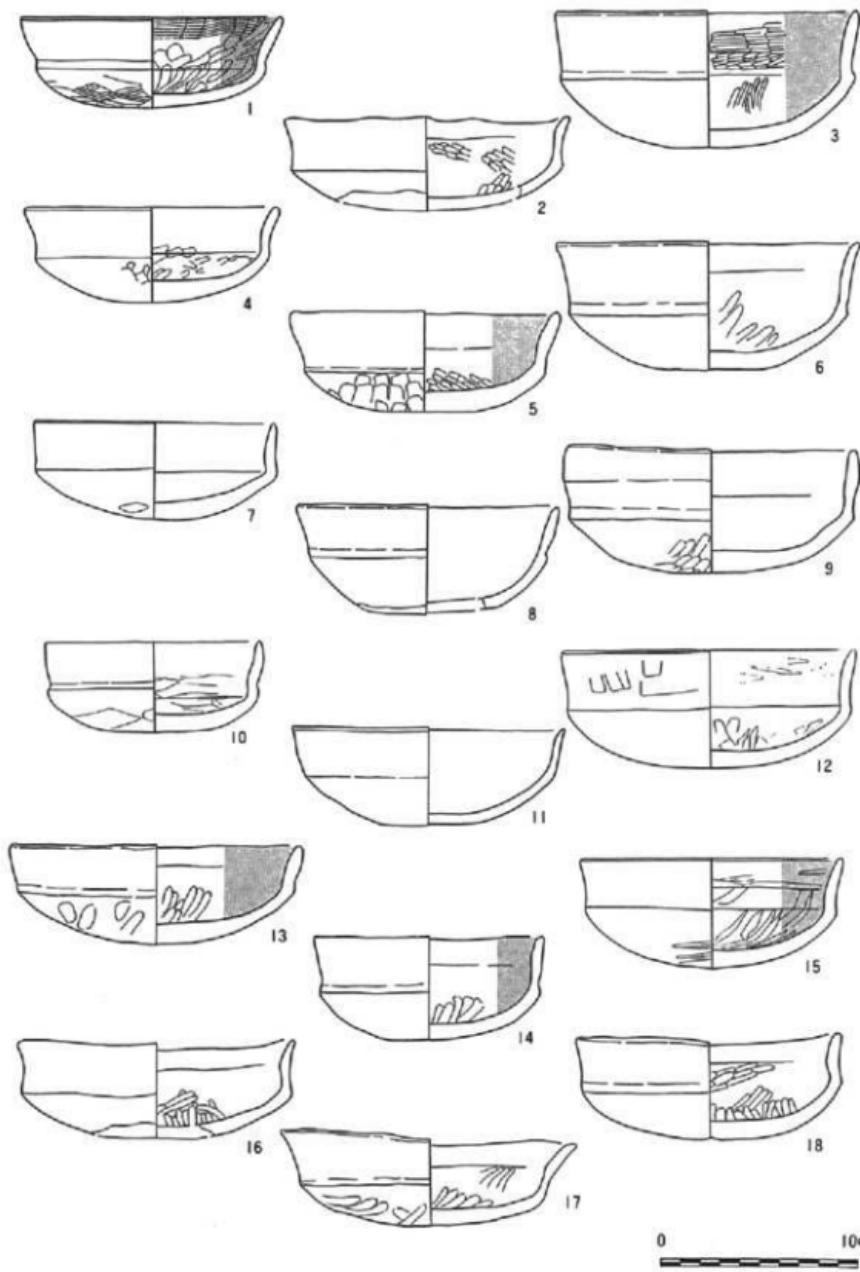
C7類（第39図7・8）

壺類を示す形態である。口縁部から頸部にかけては大きく外反し、頸部の屈曲も著しい。胴中半部が最も脹らむ。底辺部も丸味があり底部はやや平底となっている。

飯（D）口縁部・体部の形態で分類する。

D1類（第41図1）

形態はC3類に類似する。口縁部が外反し、胴中下半部に脹らみをもつ。器形全体が丸味を有している。



第25図 土器実測図 (4)

## D 2 類 (第41図2)

C 1 類に類似する。器形は筒形状になり、口縁部が外反しており、底辺部から底部にかけて丸味を有している。

## D 3 類 (第41図3～5・7・8)

最大径が口縁部にあり、口縁はすべて外反し、底部が狭く平底となっている。(3・5・8) は壺形の底部の形態を示し、(4・7) は壺形の底部の形に似ている。

## D 4 類 (第41図6)

C 2 類の形態に類する。口縁部が大きく外反し、頸部はやや直立して、胴中半部に脹らみを有している。底部は丸味のある平底となっている。

## D 5 類 (第41図9)

D 3 類に共通し類似している。器形は口縁部で外反し、胴部に脹らみを持たず緩やかに外傾している。底部は丸味をもつ平底となる。

## D 6 類 (第41図10)

長壺に似た形態を示す。胴下半部で上部は欠損している。胴下半部に脹らみを有し、底部は作り出し、平底となっている。

## 壺 (E) 口縁部・体部・底部の形態によって分類する。

## E 1 類 (第40図1～6・8・9)

小形の壺類である。頸部が長く口縁部が外反し、底部が丸底となる(1～4)と、頸部がやや長く直立する(5・6・9)があり底部は平底となる。いずれも胴中半部に最大径を有し大きく脹らんでいる。

## E 2 類 (第40図7)

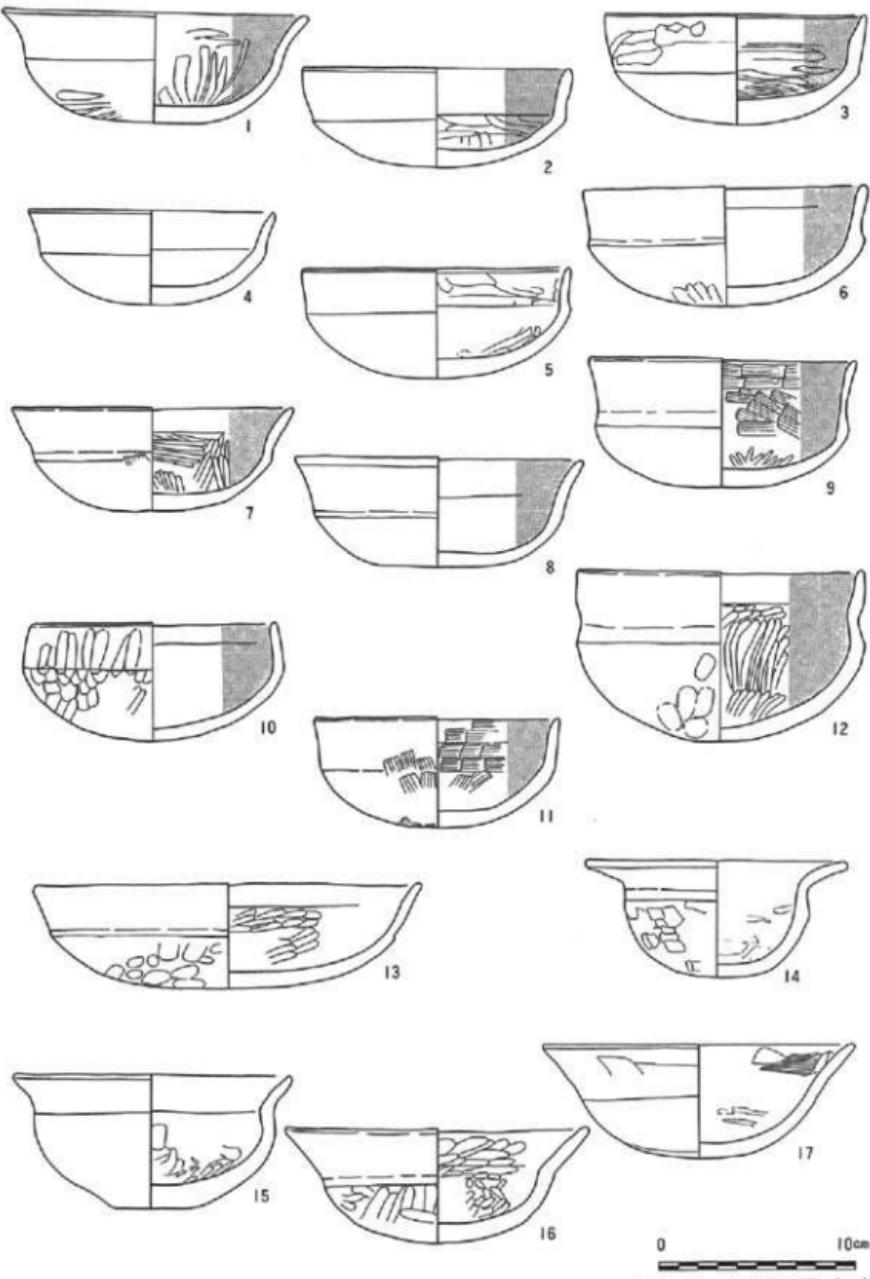
土師器の壺である。口縁部から頸部にかけて大きく外反し、胴中半から底部にかけ丸味を有している。

## E 3 類 (第42図1～6・第43図1・2・第44図1～5)

口縁部から頸部にかけて短く大きく外反し、いずれも胴中半部に最大径を有し脹らんでいる。底部は作り出し平底を呈している。

## E 4 類 (第45図1～6)

口縁部から頸部にかけてはD 3 類より短く外反し、いずれも胴上半部に最大径を有し脹らんでいる。底部は作り出しをせずに平底を呈している。須恵器の壺と類似するようにタタキ目などが施されている。



第26図 土器実測図 (5)

## E 5類（第42図7）

横瓶形を呈している。口縁部は大きく外反し、胴中半部に脹らみを有し、底部も丸底を呈している。

## 壺(F) 口縁部・体部・底部の形態によって分類する。

## F 1類（第46図1～3）

胴部の下半の底辺部付近に最大径を有し脹らむ。口縁部は外反し頸部が若干長くなっている。底部は平底を呈している。

## F 2類（第46図4・5）

胴部の中半から下間にかけて最大径を有し脹らむ。口縁部は大きく外反し、頸部が著しくくびれている。底部は平底となる。

## F 3類（第47図1～5）

胴中半部に最大径を有し脹らむ。口縁部は大きく外反し、頸部は丸味有し弯曲している。底部は平底あるいは丸底風を示している。

## F 4類（第48図1～6）

F 2類に類似する器形を示すが、胴上半部に最大径を有し脹らみを持つ。口縁部はE 2類と共通している。底部は平底を呈する。

## F 5類（第49図1～6・第50図1～4・第51図1～4）

長壺の形態を示す。胴上半から中間にかけて緩やかに脹らみ、口縁部は大きく外反し、底部は平底を呈している。

## (2) 土製品（第52・53図 図版34）

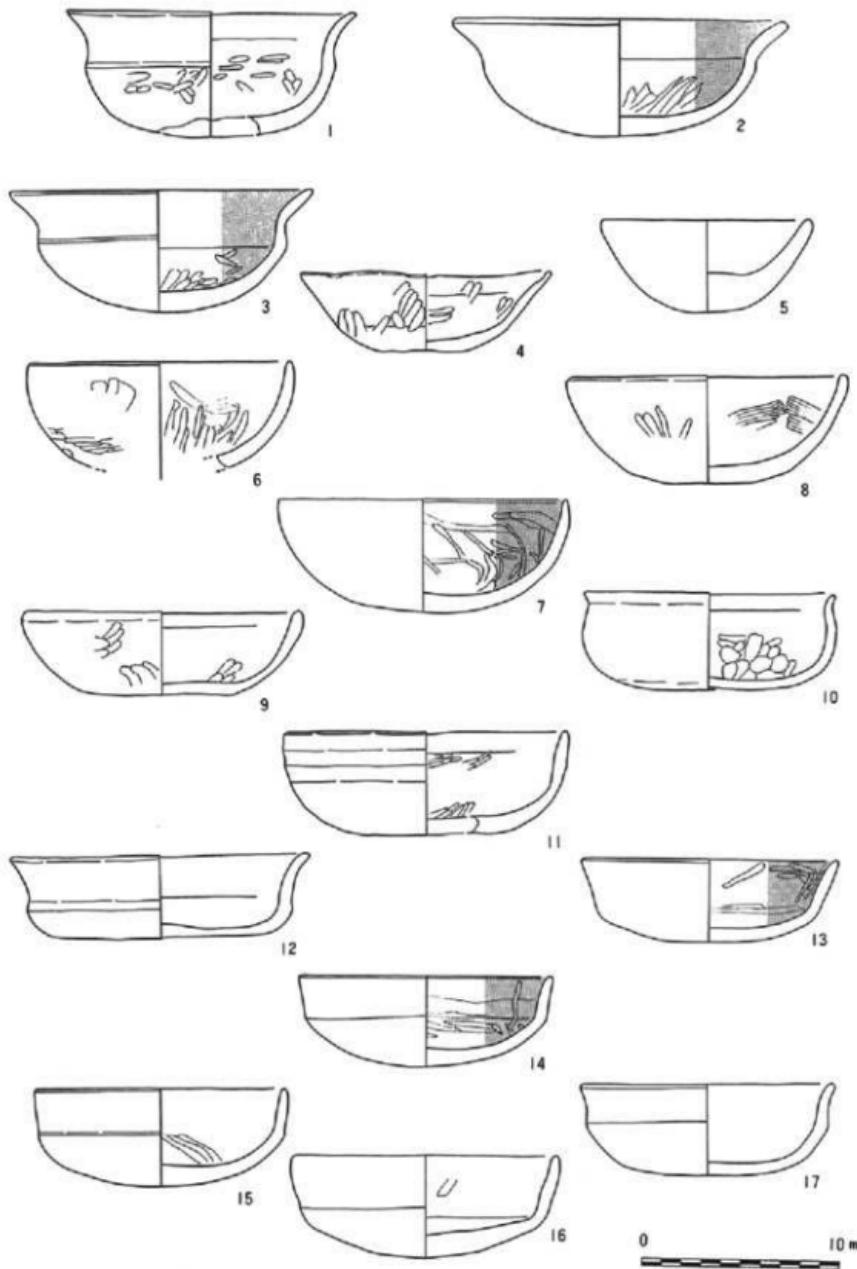
## 小形土器（第52図版1～18）

手捏土器で、不整形を示すが土師器である。丸底になる(1～6)、平底を呈する(7～17)でこれらは底部から直立する。胴が内窵し壺形を呈する(18)がある。

## 土 玉（第52図19～34）

球を呈している。(19～25) 土玉の中でも小さく径2～3cmで、(28～34)は土玉の中でも大形で6～7cmの径を計る。

径6～13mmの孔を両端から穿つ。(26・27)は直線にならず屈曲している。その他の土玉は真っすぐ孔があけられている。



第27図 土器実測図 (6)

## 紡錘車（第52図35～38）

土製の紡錘車である。断面が台形状を示し、両端から孔を穿っている。

## 支脚（第53図1～4）

筒形状を示し、(1・2)は上部が欠損している。良く調整されている。

## (3) 石製品（第53図 図版34）

## 紡錘車（第53図4・5）

石製の紡錘車である。いずれも滑石が使用され、両端ならびに側面は良く調整・研磨され、孔も両端からあけられている。

## 砥石（第53図6～9）

棒状になり両面が良く砥がれ窪んでいる(6・7・10)や、上面と側面が磨面となっている(8)、石皿状に中央部が落ち窪みよく砥られている(9)がある。

## 参考引用文献

加藤稔・佐々木洋治 1962 「山形県一ノ沢岩陰遺跡」『上代文化』第31・32

田辺昭三 1966 「陶邑古窯址群」平安学園考古学クラブ

加藤稔 1967 「山形県日向洞穴における縄文時代初頭の文化」『山形県の考古と歴史』柏倉亮吉・相田俊雄 1969  
「古墳文化」『山形県史考古資料』資料篇11山形県

佐々木洋治 1971 「高畠町史別巻考古資料編」高畠町

長崎至 1981 「下横遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第39集 山形県教育委員会

手塚孝 1981 「米沢市八幡原中核工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書第2集」米沢市教育委員会

手塚孝・菊地政信 1982 「米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第1集」米沢市埋蔵文化財調査  
報告書第6集 米沢市教育委員会

名和達明他 1983 「分布調査報告書(10)」山形県埋蔵文化財調査報告書第74集 山形県教育委員会

手塚孝・菊地政信 1983 「米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書第II集」米沢市埋蔵文化財調査  
報告書第8集 米沢市教育委員会

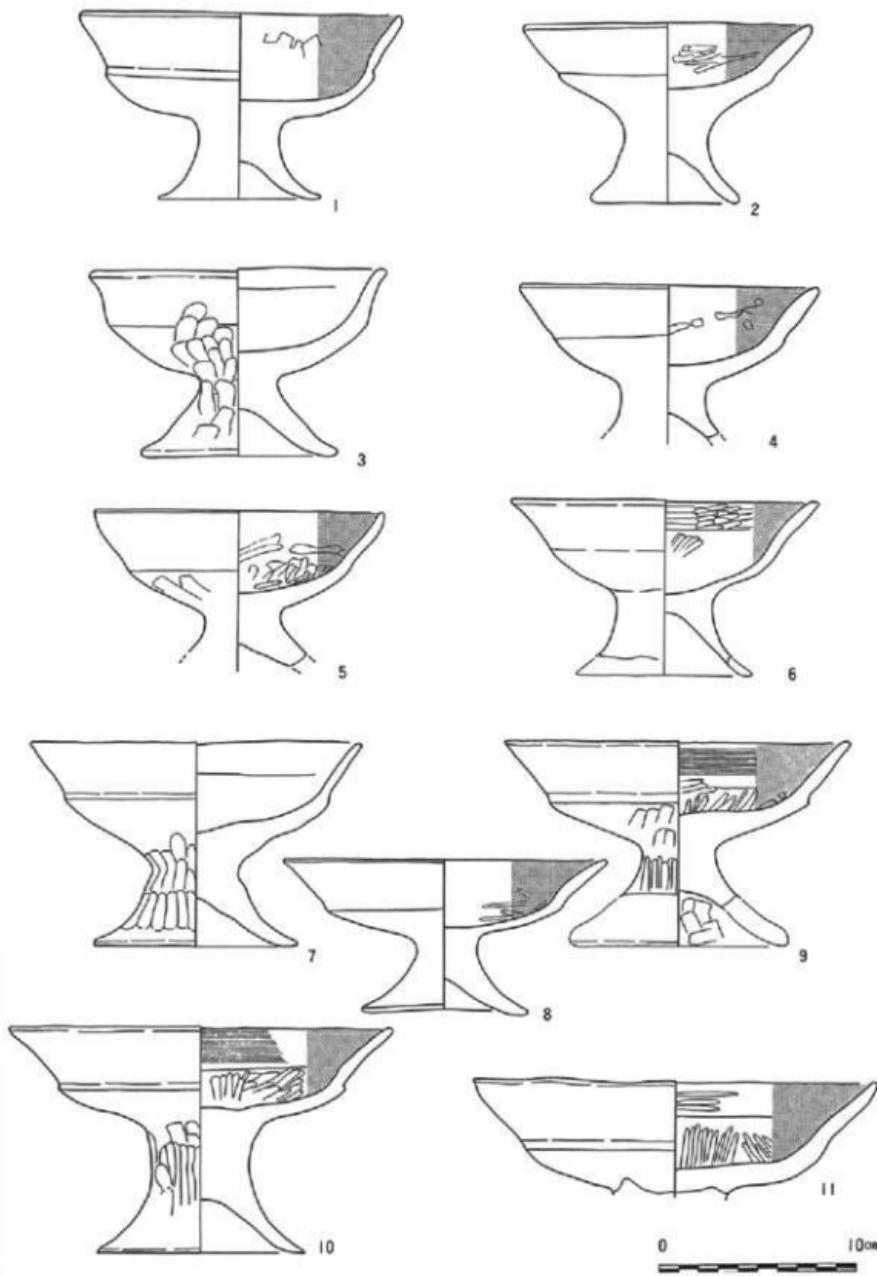
名和達明他 1984 「願正彌遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第81集 山形県教育委員会

名和達明他 1985 「分布調査報告書(12)」山形県埋蔵文化財調査報告書第94集 山形県教育委員会

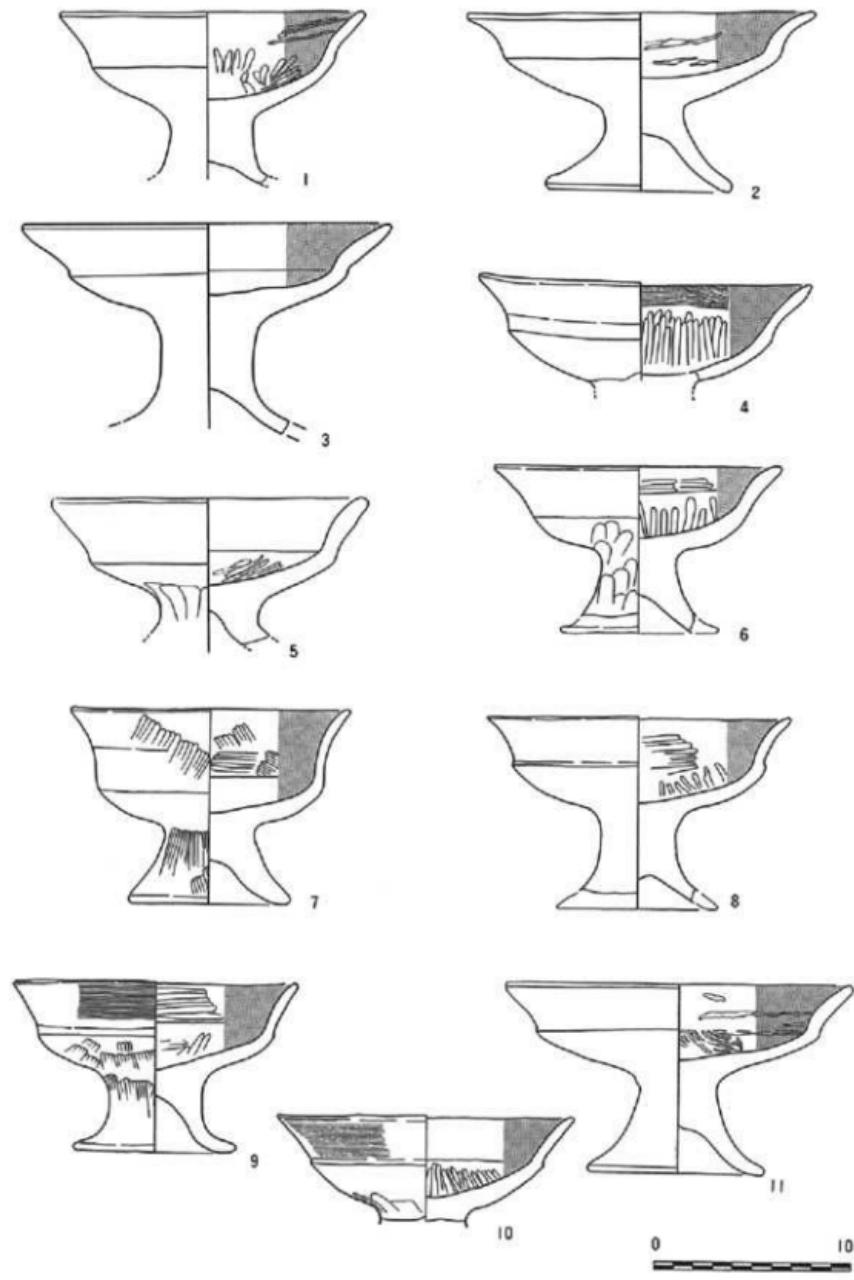
山形県教育委員会 1985 「押出遺跡第1次調査説明資料」 1986 「押出遺跡第II次調査説明資料」

佐々木洋治・佐藤庄一 1985 「県指定史跡安久津古墳群発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第95集 山  
形県教育委員会

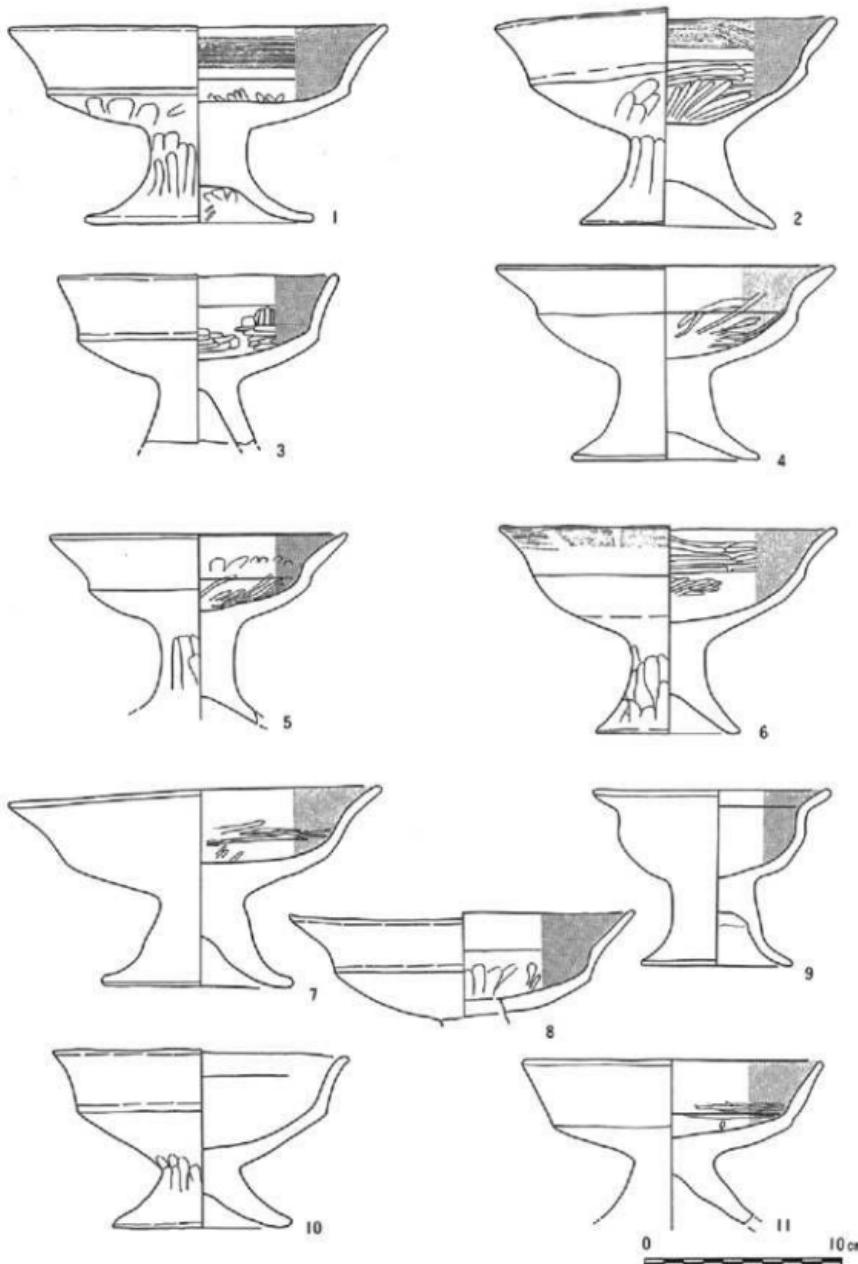
阿部明彦 1986 「三軒屋物見台遺跡発掘調査報告書(1)」山形県埋蔵文化財調査報告書第106集 東北電力株式  
会社・山形県教育委員会



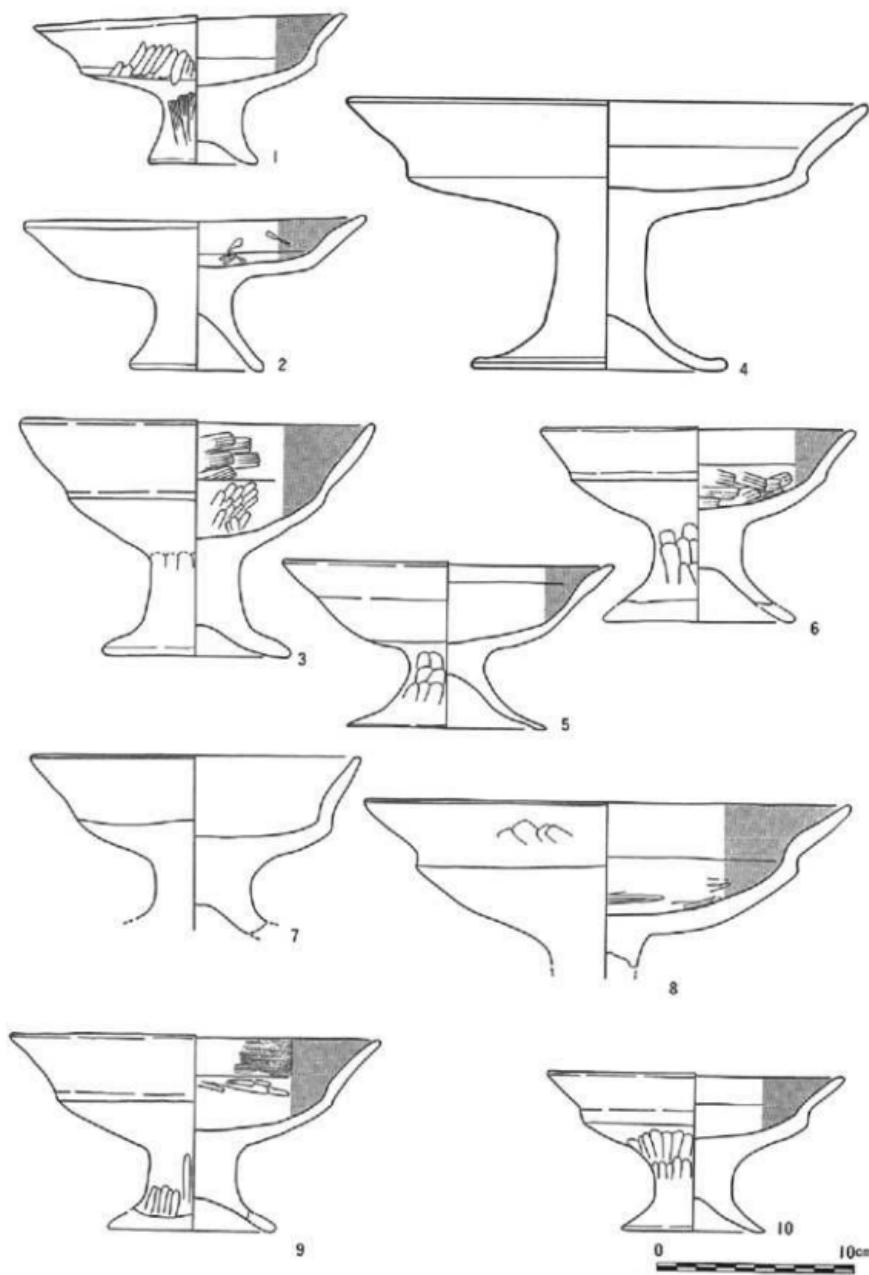
第28図 土器実測図（7）



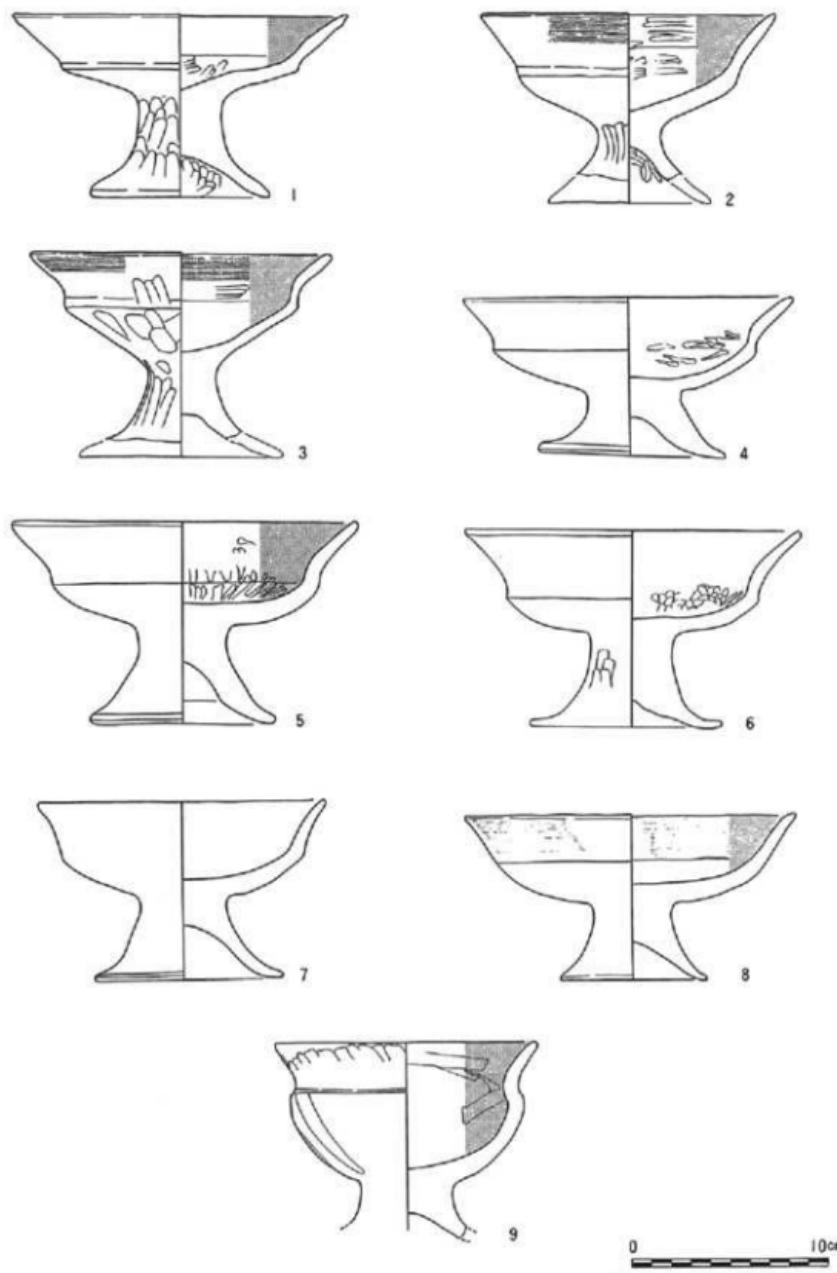
第29図 土器実測図（8）



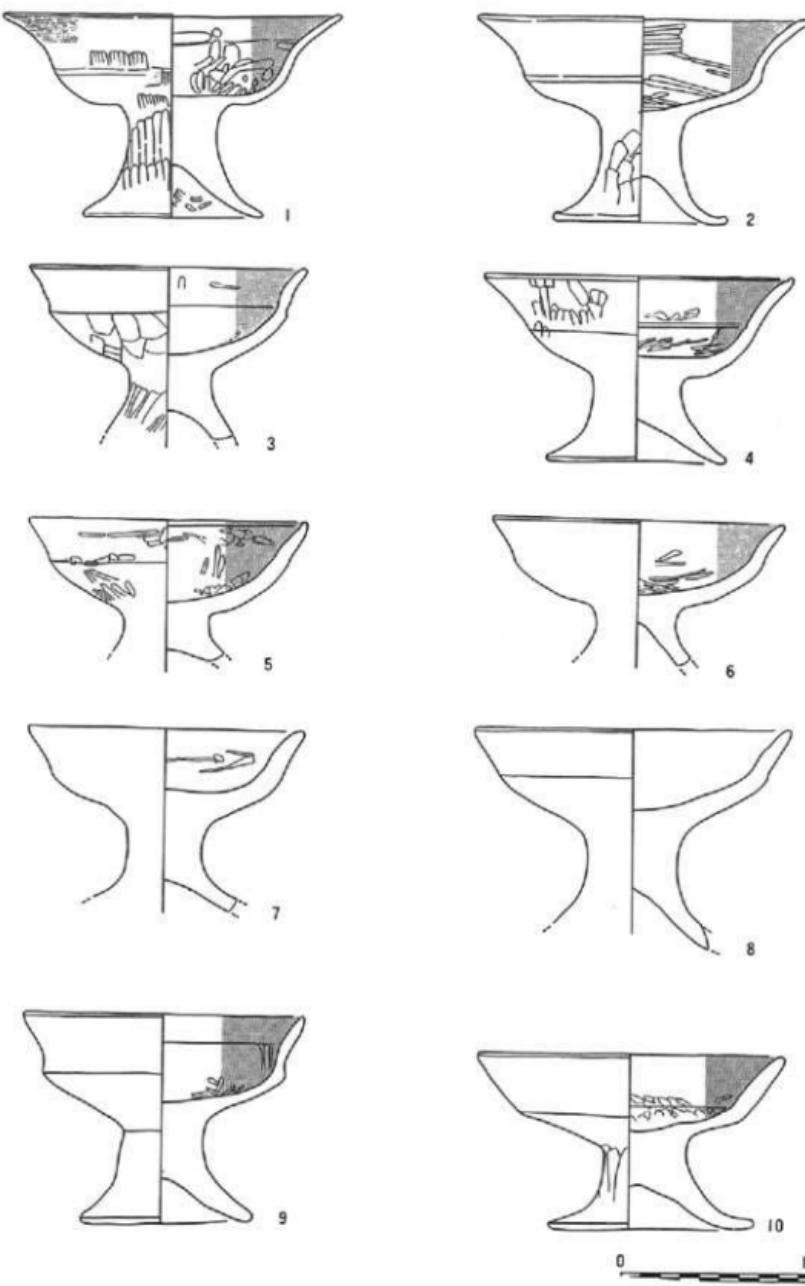
第30図 土器実測図 (9)



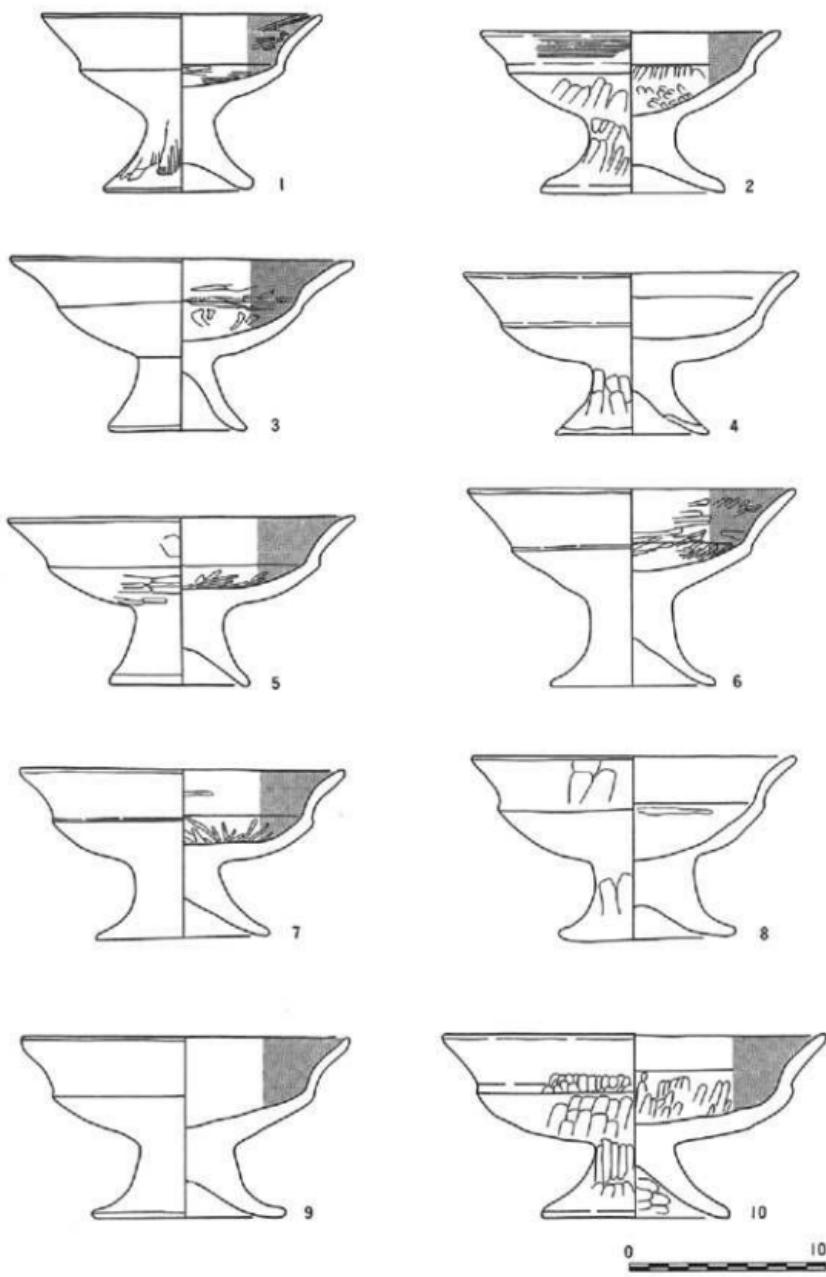
第31図 土器実測図 (10)



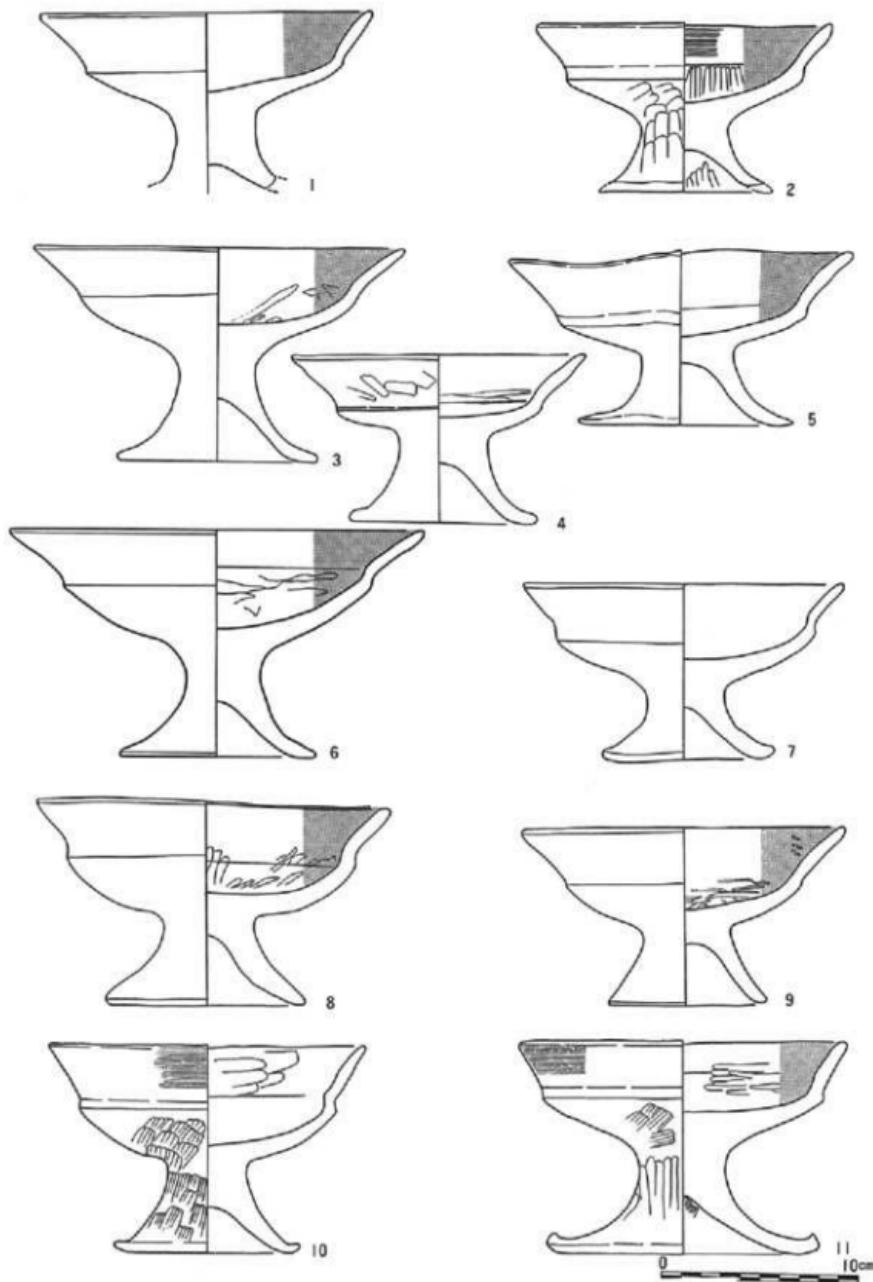
第32図 土器実測図 (II)



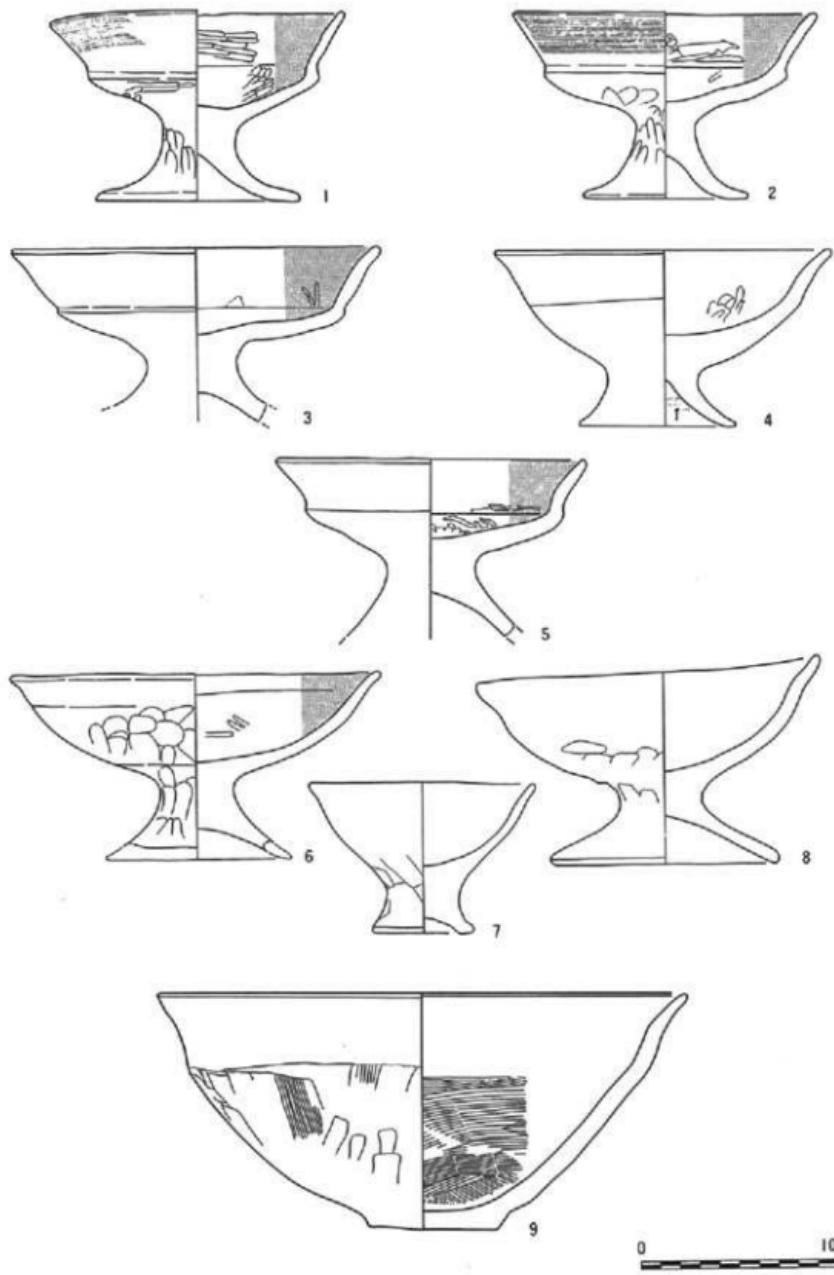
第33図 土器実測図 (12)



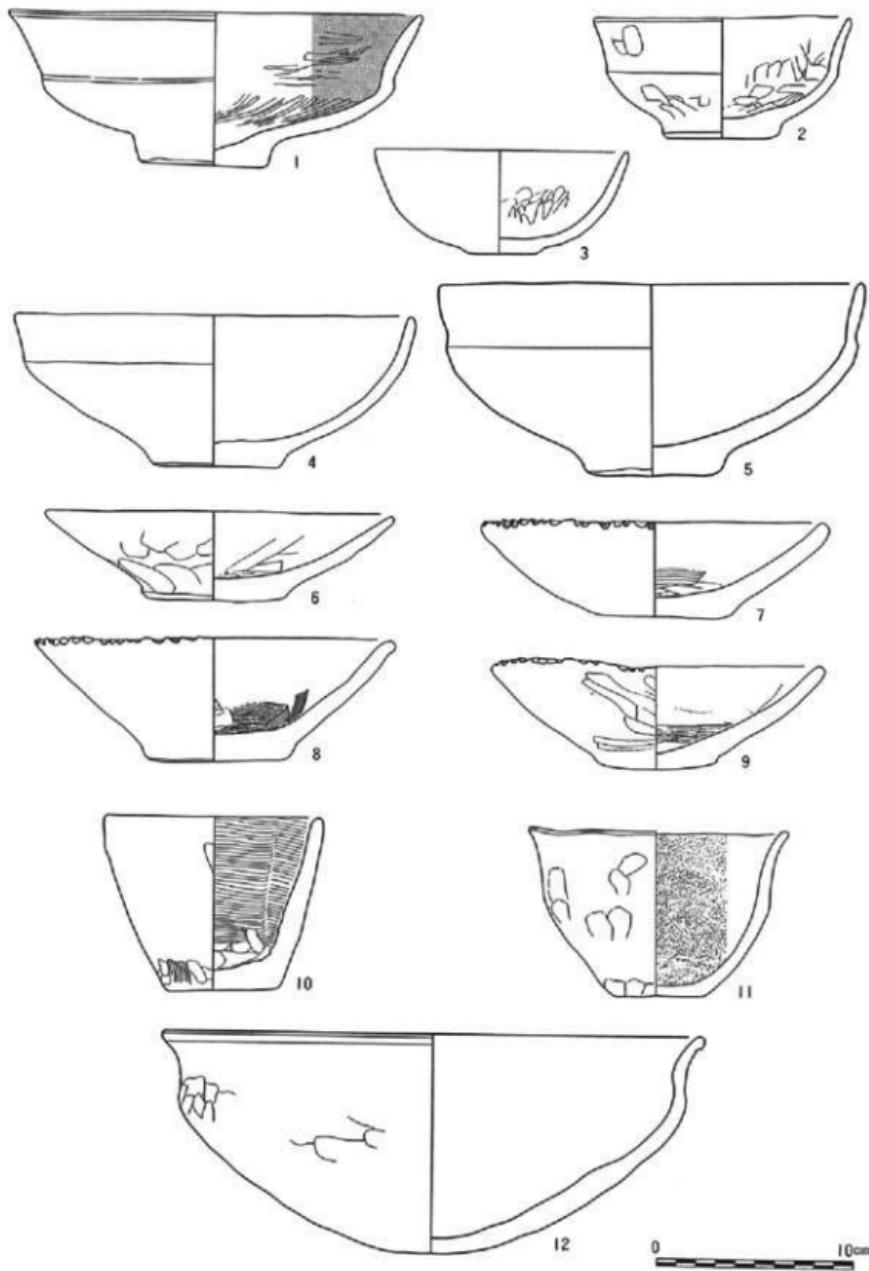
第34図 土器実測図 (13)



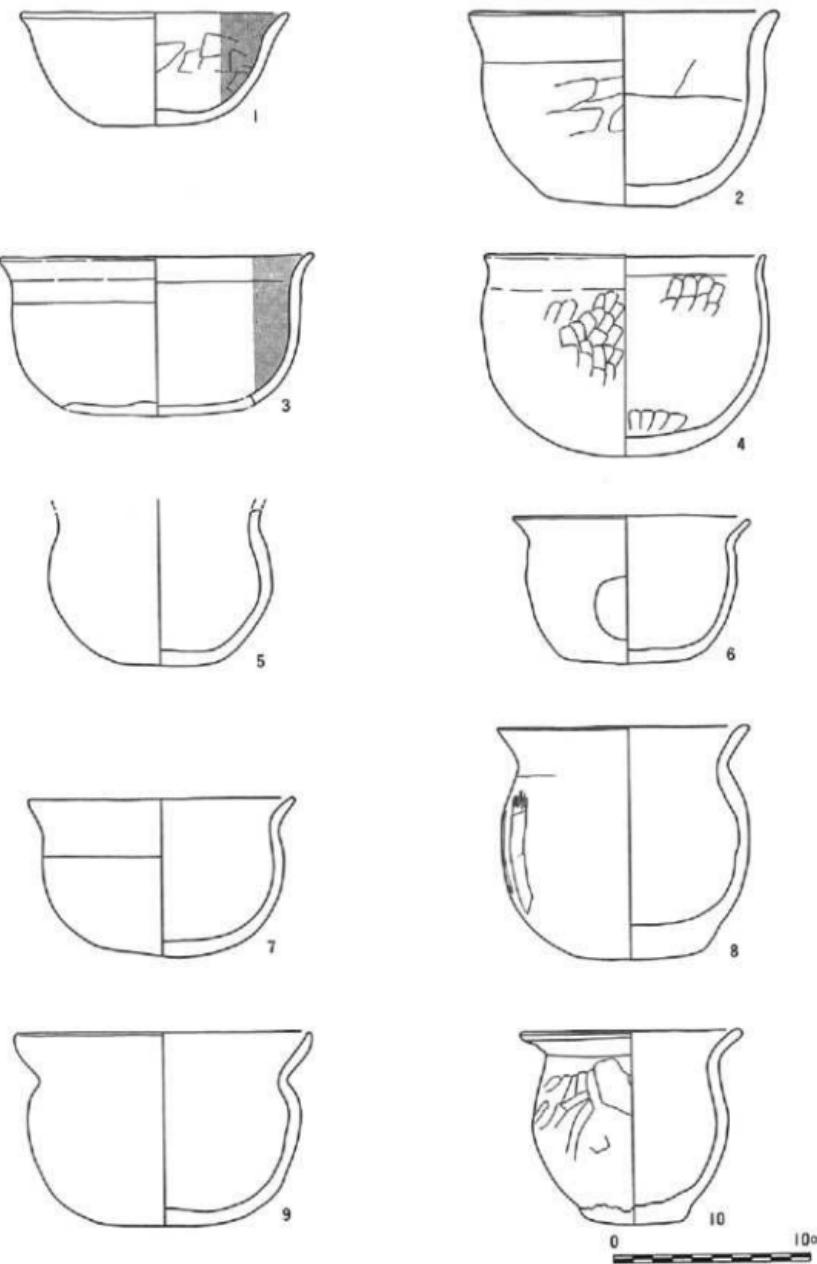
第35図 土器実測図 (14)



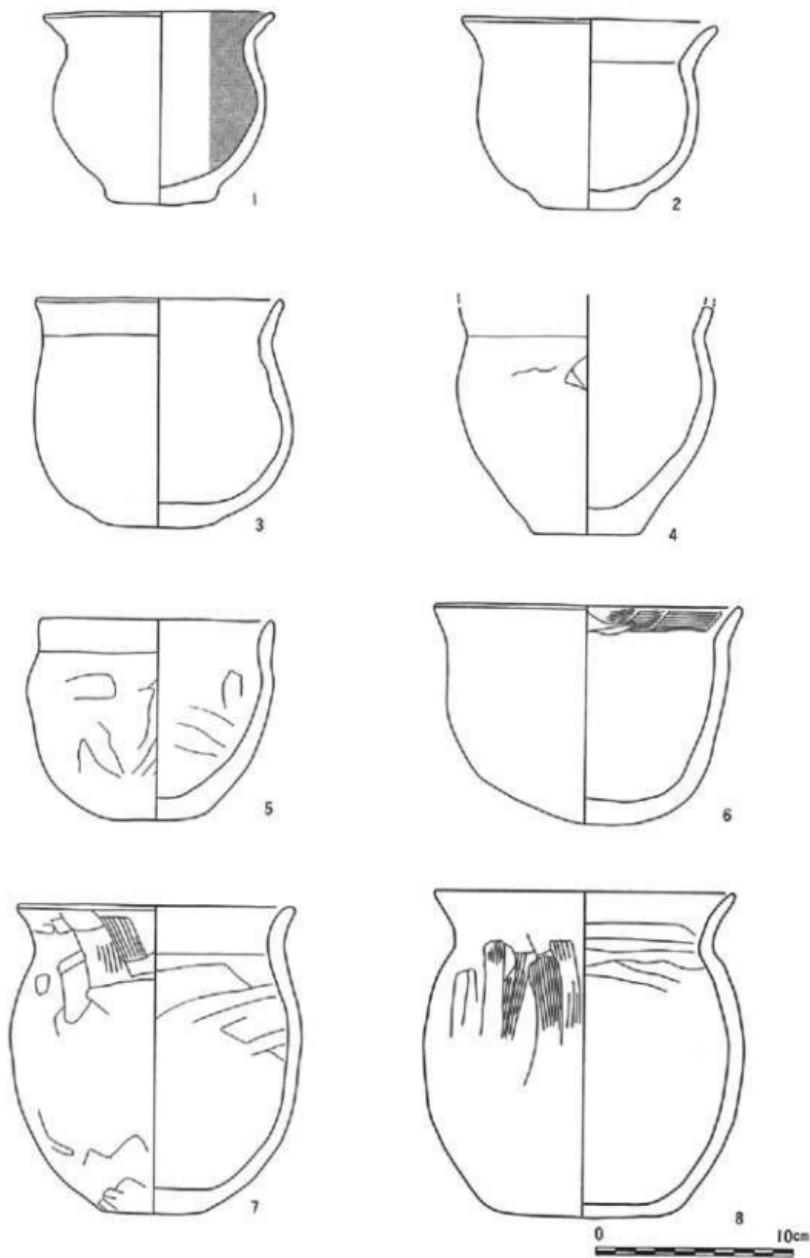
第36図 土器実測図 (15)



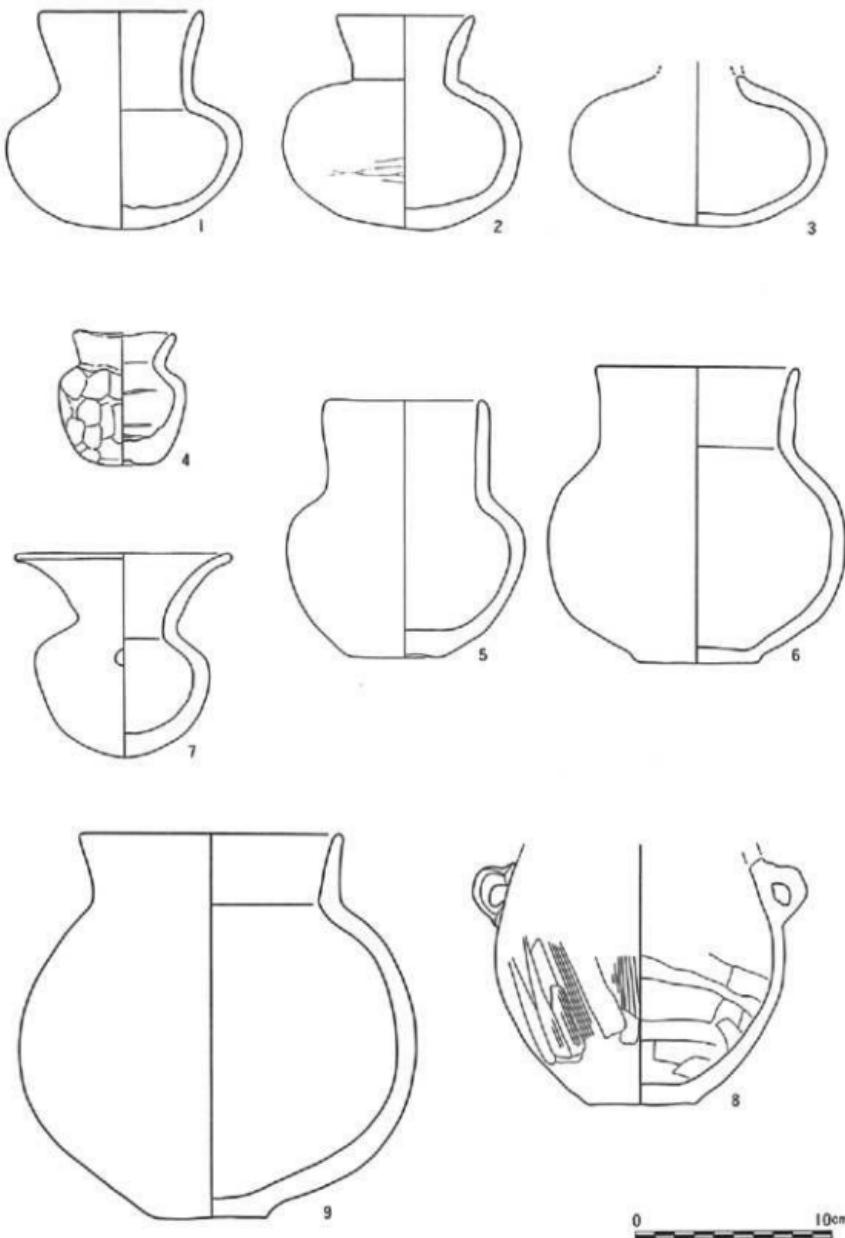
第37図 土器実測図 (16)



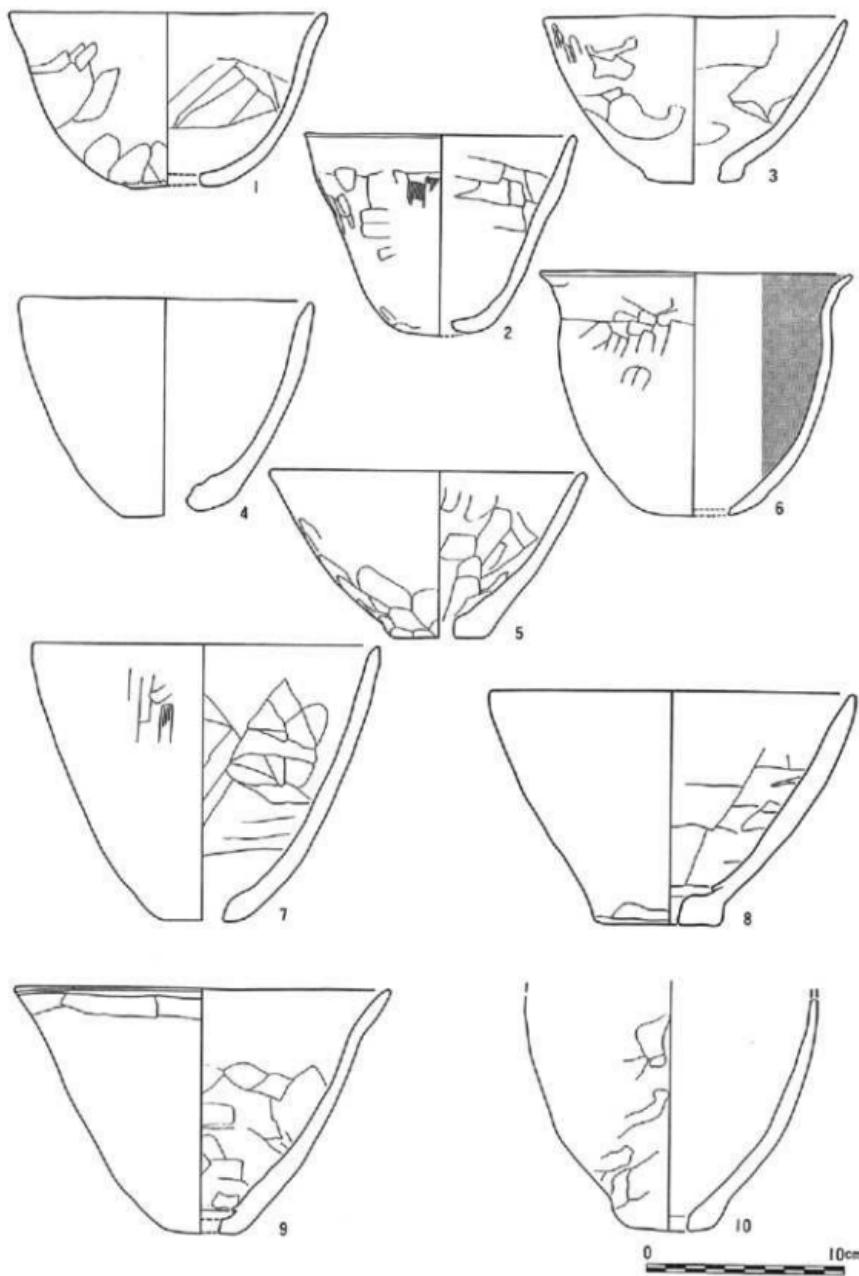
第38図 土器実測図 (17)



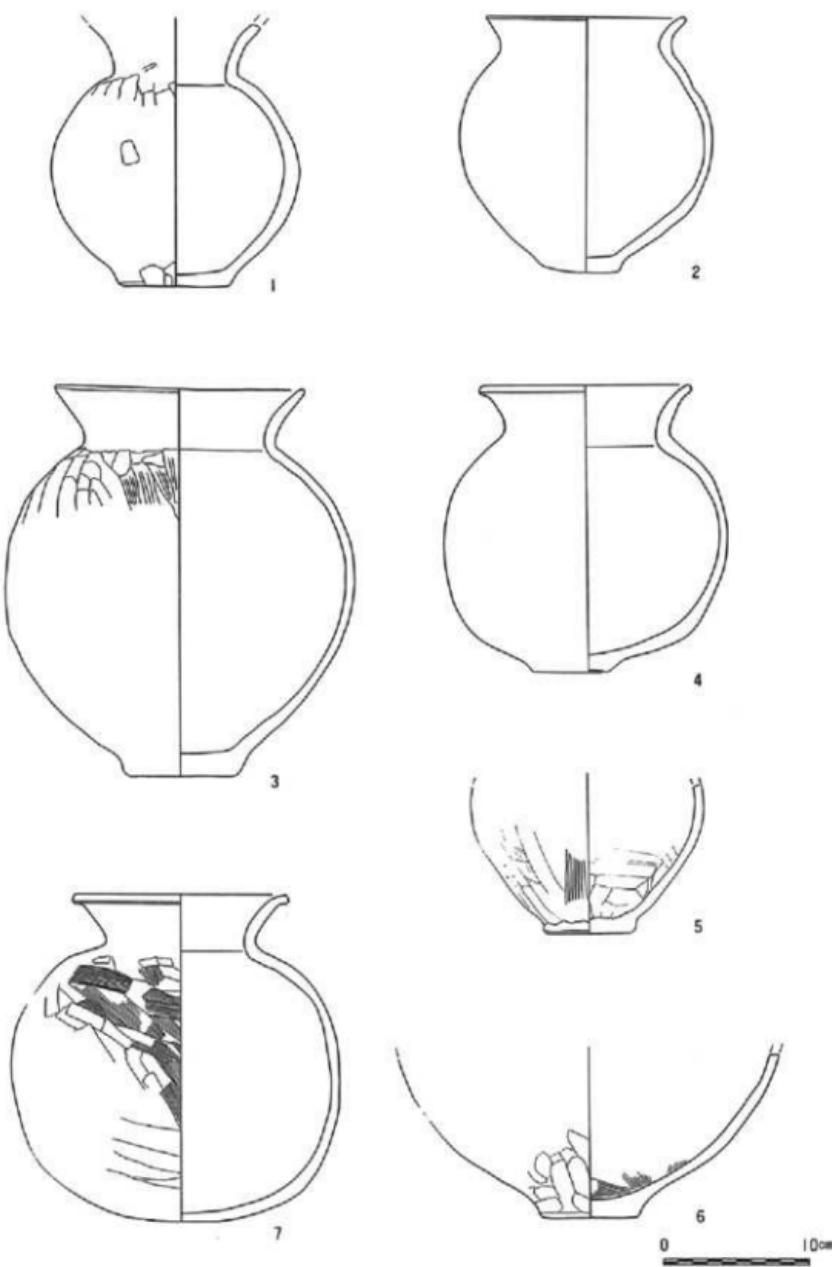
第39図 土器実測図 (18)



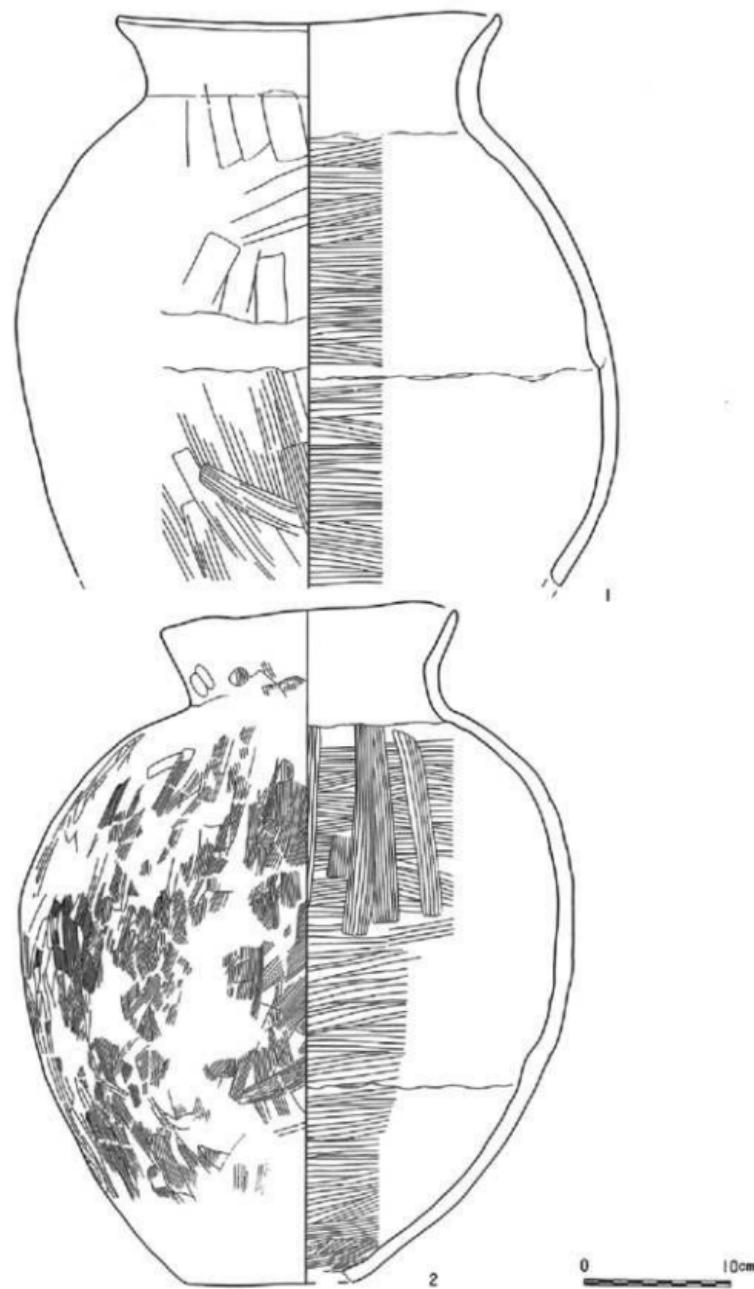
第40図 土器実測図 (19)



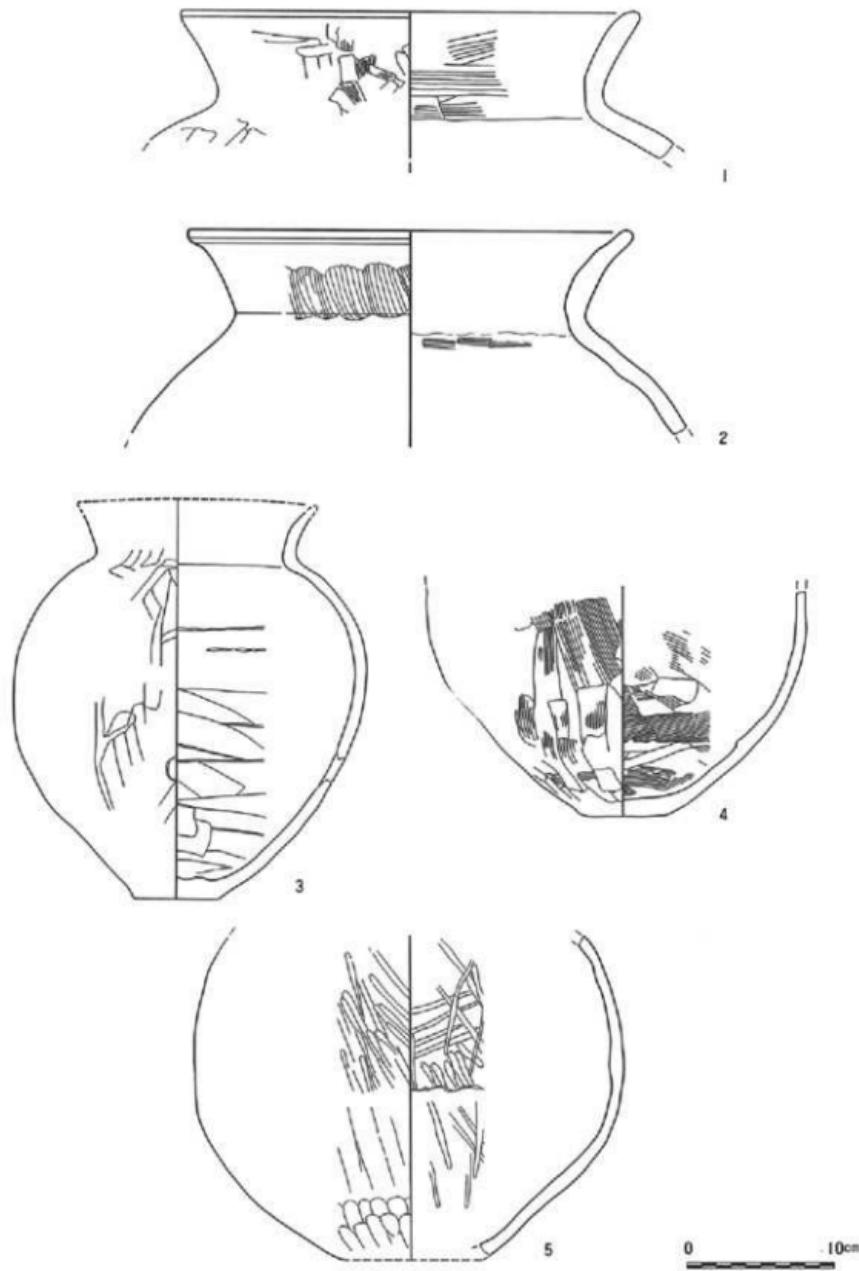
第41図 土器実測図 (20)



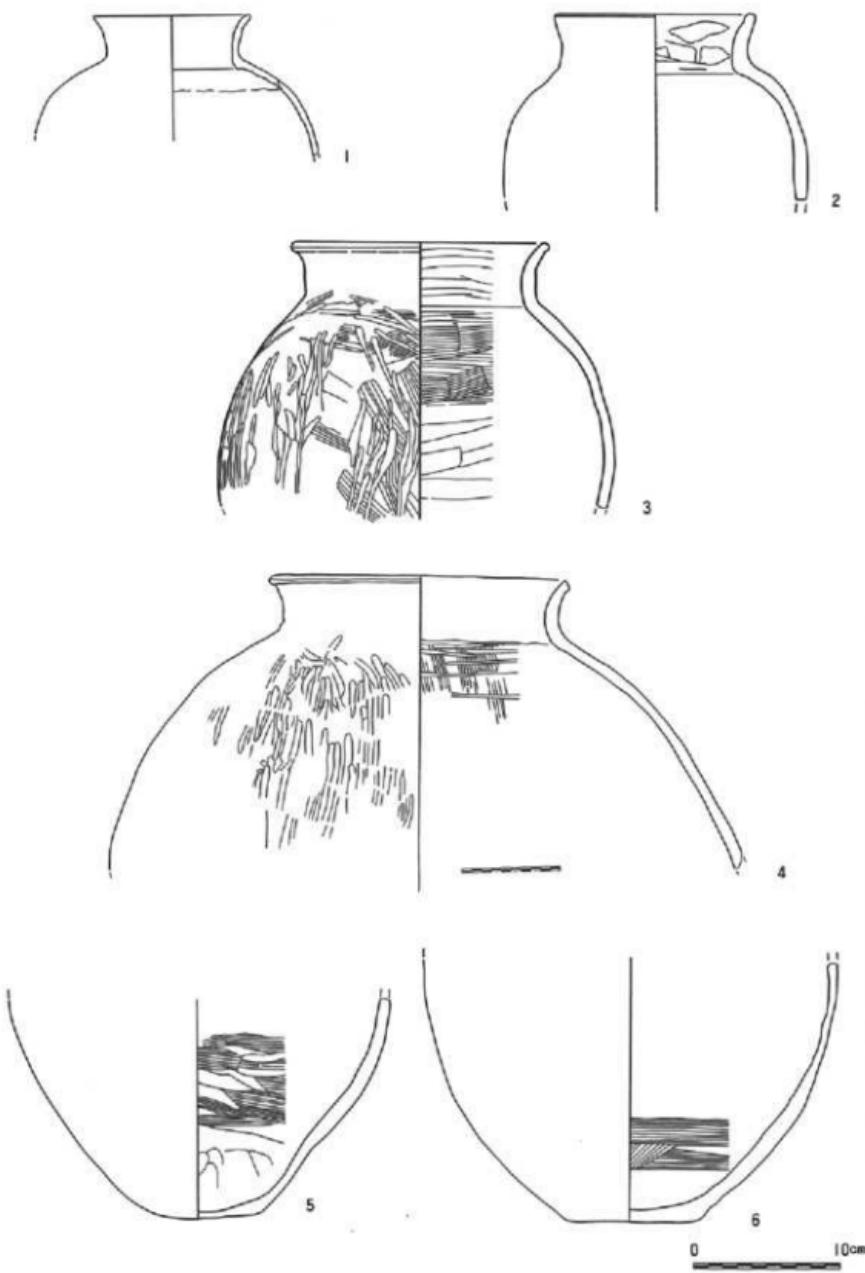
第42図 土器実測図 (21)



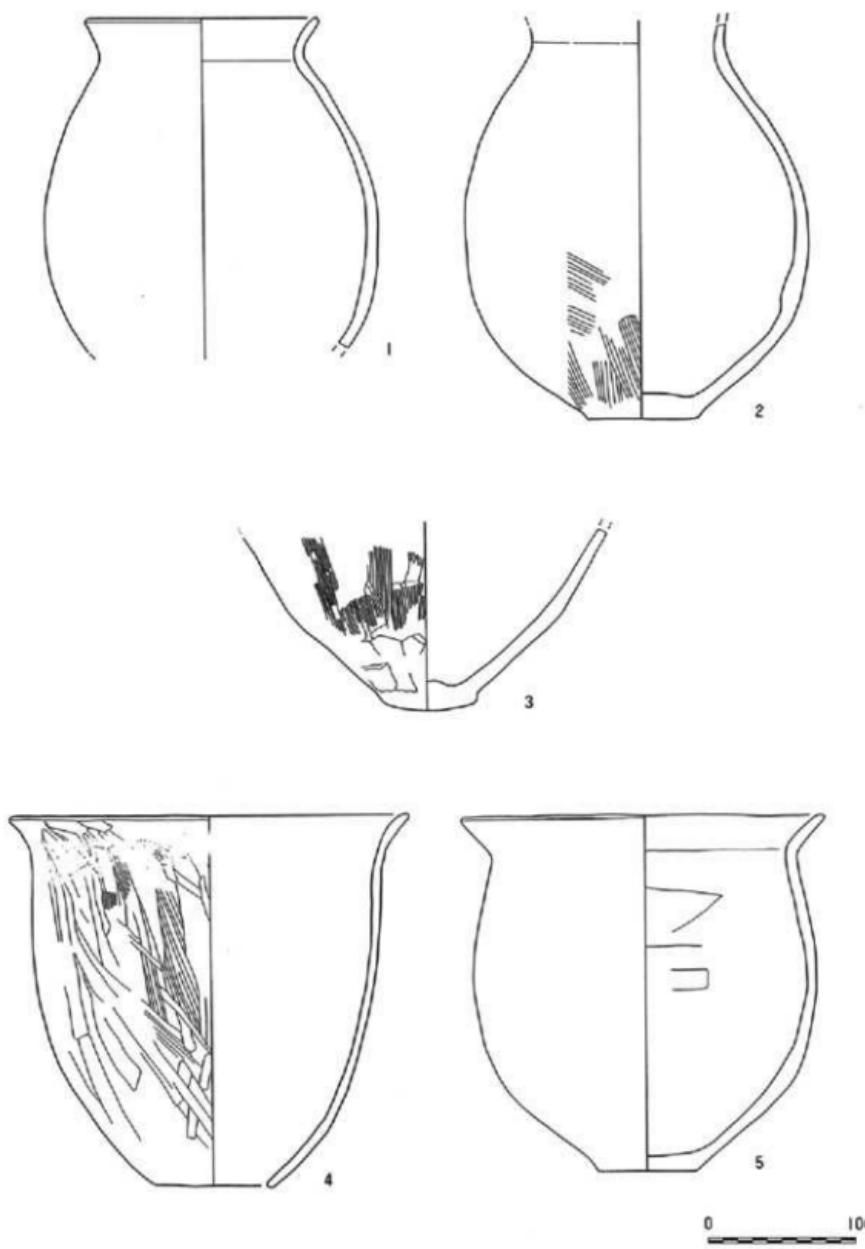
第43図 土器実測図 (22)



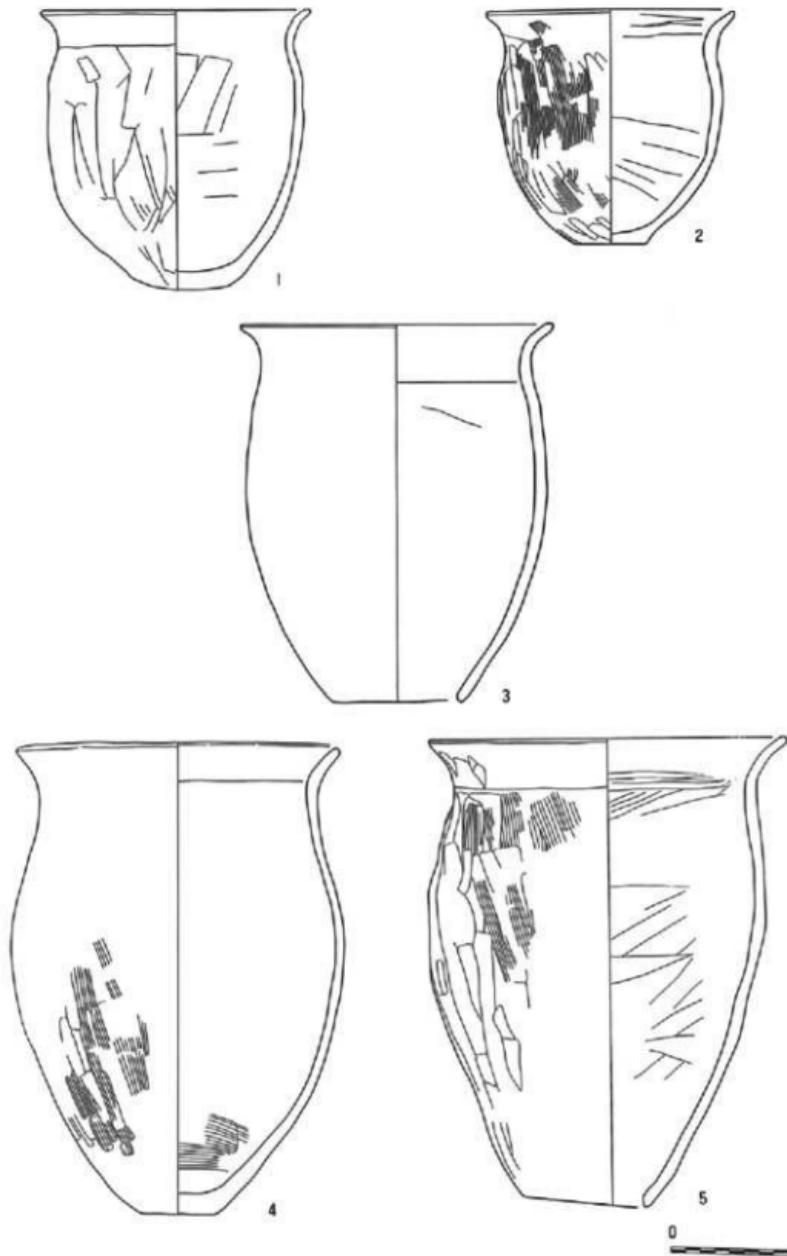
第44図 土器実測図 (23)



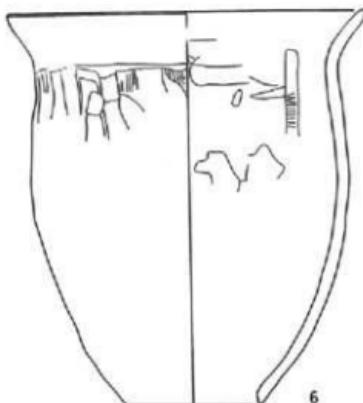
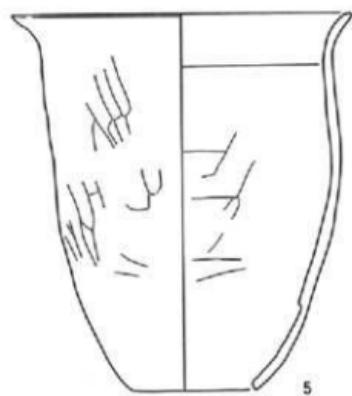
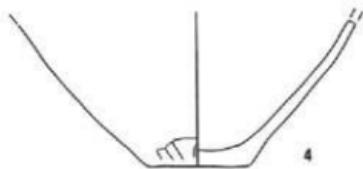
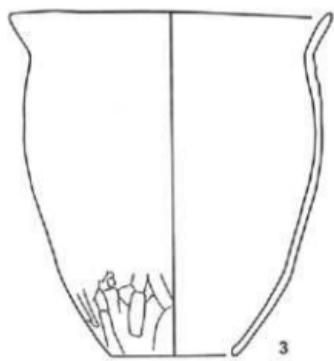
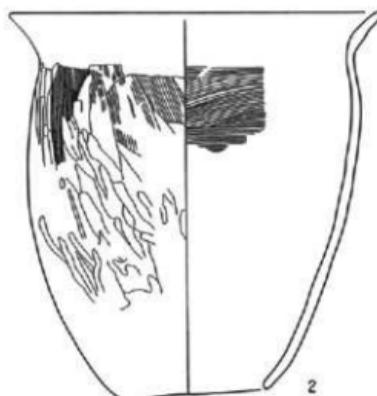
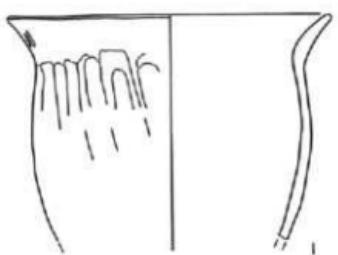
第45図 土器実測図 (24)



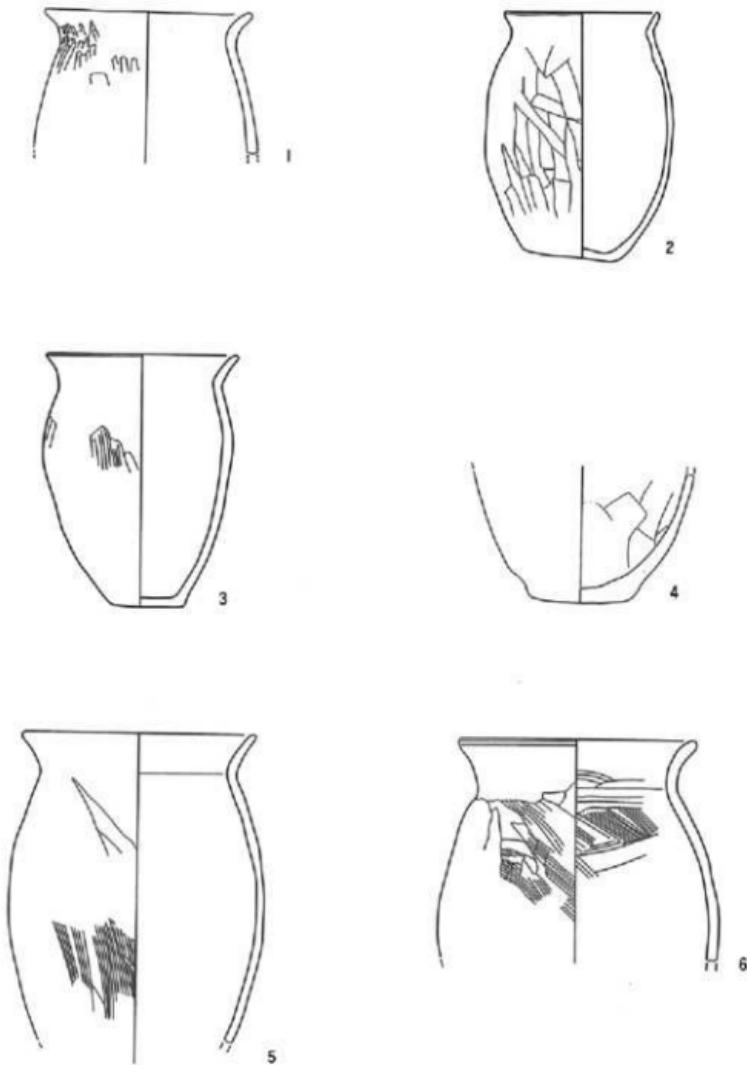
第46図 土器実測図 (25)



第47図 土器実測図 (26)

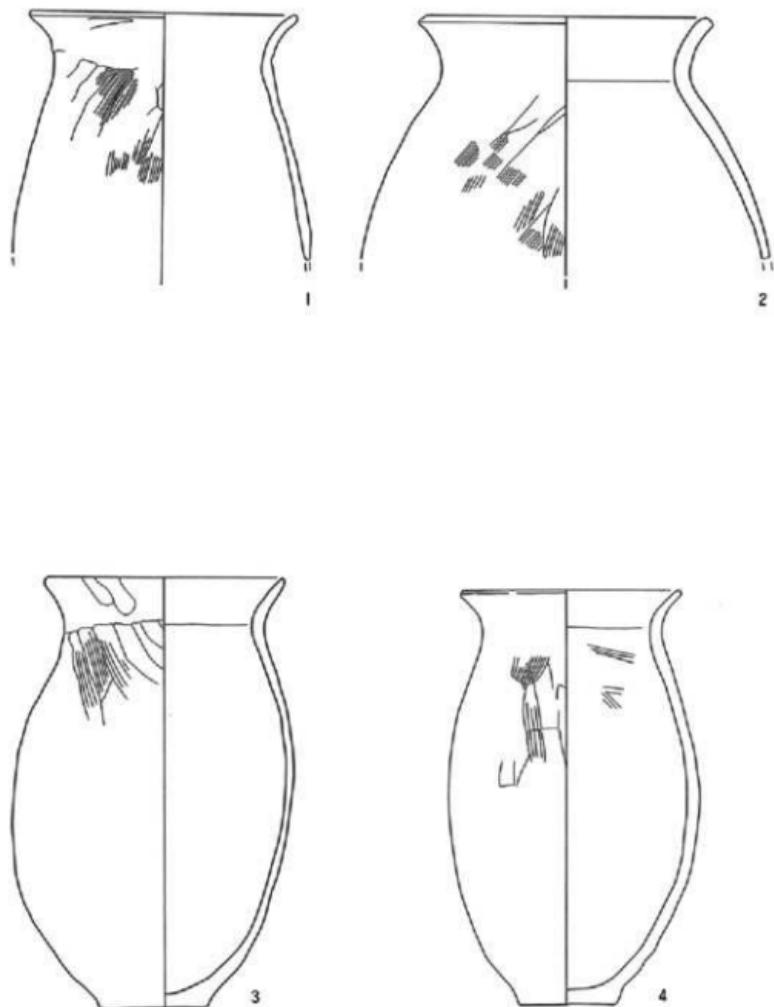


第48図 土器実測図 (27)



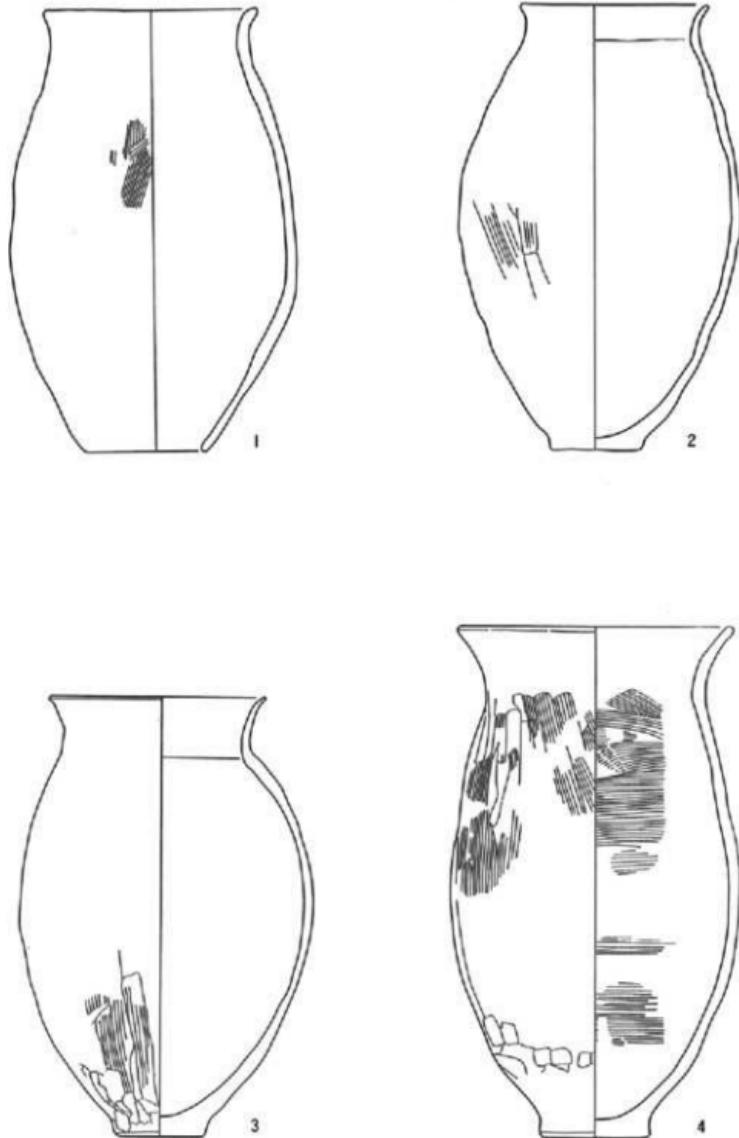
0 10cm

第49図 土器実測図 (28)



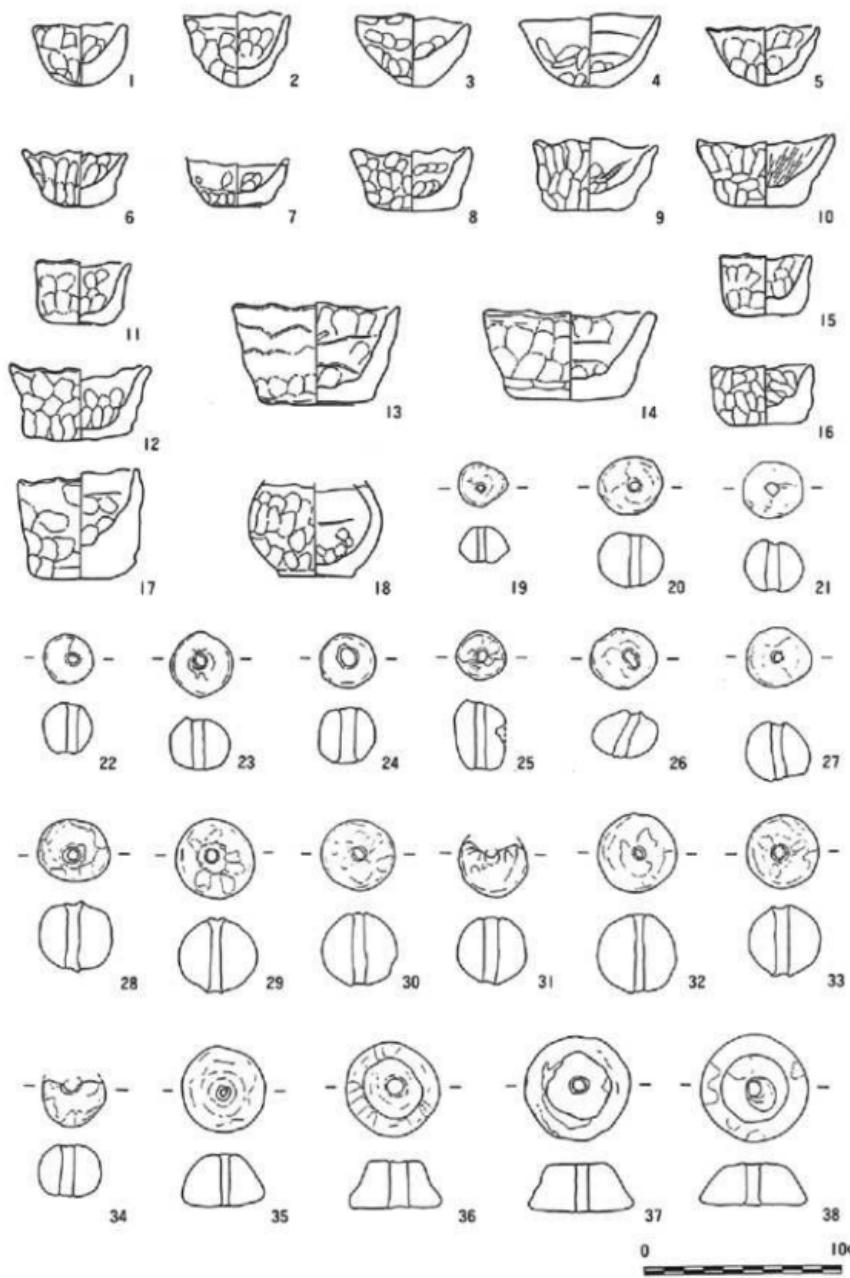
0 10cm

第50図 土器実測図 (29)

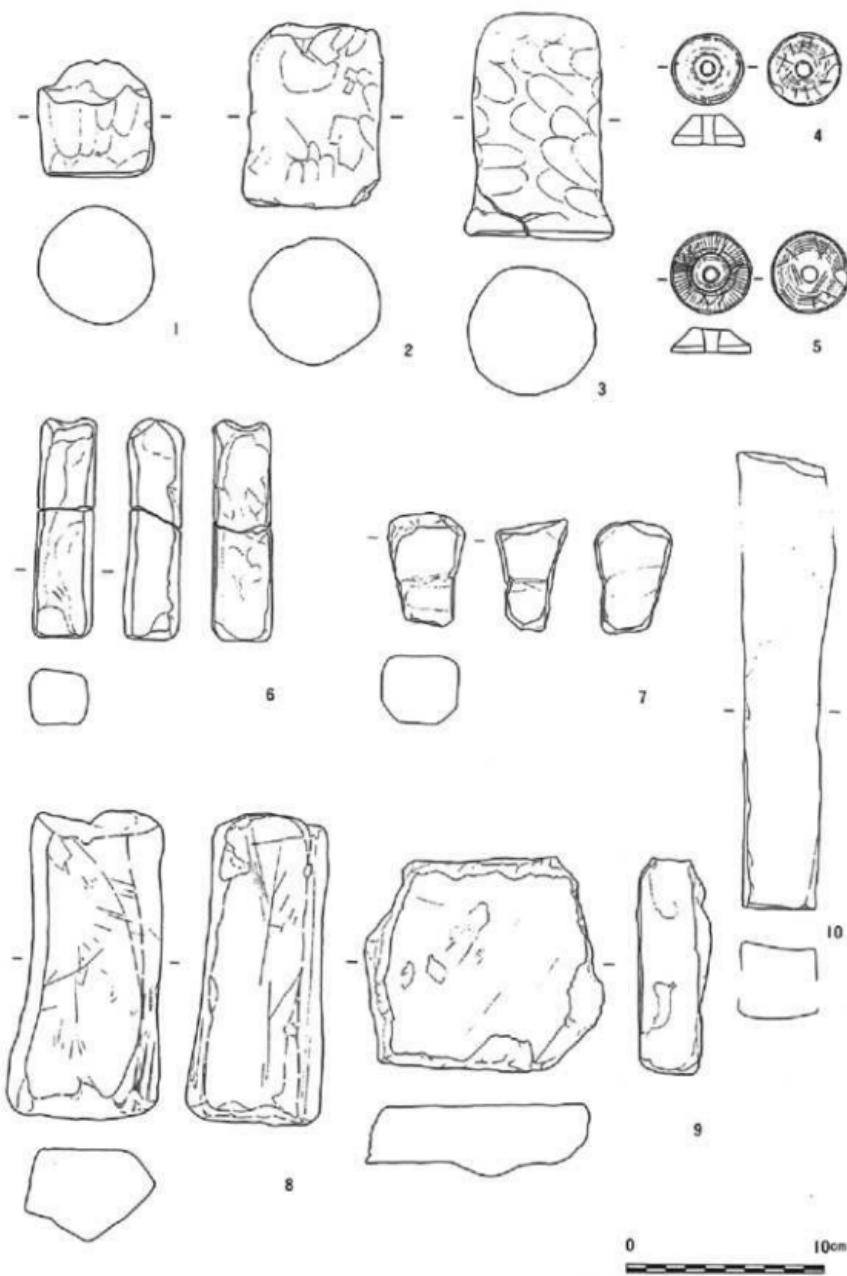


0 10cm

第51図 土器実測図 (30)



第52図 土製品実測図



第53図 土製品・石製品実測図

表一 3 土器(土師器)観察表

辨別番号	器種	出土場所	法 量 (mm)		調 整		底部	分類	考 査
			口径	底径	器高	外 面			
22-1	15	坪 S D11 Y	112	45	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 1	外黒
22-2	15	坪 S D11 Y (2-14)	142	52	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 1	R P30 内黒
22-3	15	坪 S D11 (23-30)	126	53	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 1	R P70
22-4	15	坪 S D11 (30-32)	142	68	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 1	R P13 内黒
22-5	20	坪 S D11 Y (2-30)	121	68	ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 1	R P31 内黒
22-6	20	坪 S D11 F	139	60	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 1	内黒
22-7	19	坪 S D12 (16-36 Y)	149	48	ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 1	R P136 内黒
22-8	19	坪 S D12 (19-36 Y)	156	55	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 1	R P169 内黒
22-9	14	坪 S D12 (沙-36 Y)	132	76	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 1	R P160 内黒
22-10		坪 S D12 (19-36 Y)	146	67	ヘラミガキ内斜	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 1	R P162 内黒
22-11		坪 S D12 (22-36 Y)	116	50	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 1	R P174
22-12	19	坪 S D14 Y	162	46	ハケ目・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 1	
22-13	14	坪 S D14 (29-36 Y)	138	69	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 2	R P213 内黒
22-14	19	坪 S D14 (29-36 Y)	138	6	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 2	R P192 内黒
22-15	19	坪 S X 4 (31-37 Y)	146	61	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 2	R P65 外・内黒
22-16	14	坪 S D15 (45-47)	134	64	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 2	
22-17	14	坪 S D15 (6-12 Y)	(125)	61	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 2	R P199 (若干上底)
22-18	20	坪 S D17 (35-42 Y)	165	59	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 2	R P246 外・内黒
23-1	14	坪 S D19 (8-18 Y)	122	55	ヘラミガキ	ヘラミガキ	丸底	A 3	R P269 内黒
23-2	14	坪 S D17 (36-47 Y)	146	53	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ	丸底	A 3	R P271
23-3	20	坪 S D17 (36-42)	148	38	4 不 明	明	平底	A 3	R P266 内黒
23-4	14	坪 S D19 (3-45)	130	56	ヘラミガキ	ヘラナデ・ヘラミガキ	丸底	A 3	R P287
23-5	14	坪 S D19 (36-47 Y)	(142)	58	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P295
23-6	20	坪 S D19 (37-46 Y)	144	56	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P280
23-7		坪 S D19 (36-47 Y)	147	6	不 明	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P315
23-8	14	坪 S D19 Y	129	79	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	
23-9	15	坪 S T 26 F	148	54	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 4	外・内黒
23-10	14	坪 S D30 (41-42 F)	162	55	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P340 内黒
23-11	19	坪 S D30 (42-34 Y)	111	43	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P323 内黒
23-12	19	坪 S D30 (4-12 Y)	133	(54)	不 明	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P329
23-13	14	坪 S D30 (42-23)	(152)	51	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 4	R P351
23-14		坪 S D30 (40-21)	123	52	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P373
23-15	19	坪 S K38 (3-22 Y)	133	48	不明	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 4	R P383 内黒
23-16	14	坪 S K41 (23-21 Y)	128	65	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 5	R P445 内黒
23-17	15	坪 S X-50 (30-40)	125	46	不 明	明	丸底	A 5	R P452
23-18	15	坪 S X-50 (30-35)	117	70	不 明	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 5	R P459 (底厚)
24-1	20	坪 27-40 I	111	46	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 5	
24-2	15	坪 S X-40 (19-24 Y)	144	74	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 5	R P471
24-3	15	X-0	104	56	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 5	
24-4	15	坪 S X-60 F	124	49	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 5	
24-5	16	坪 S D20 (37-42)	148	49	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-6	15	坪 S X-60 F	118	46	ハケ目・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 6	
24-7	16	坪 S D20 (31-35)	142	53	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-8	16	坪 S D20 (40-49)	162	45	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-9	17	坪 S D20 Y (30-31-35)	138	47	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-10	16	坪 S D26 (36-37)	144	49	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	R P479 内黒
24-11	16	坪 S D20 (39-43)	155	46	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-12	16	坪 S D20 Y (31-34)	142	47	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	
24-13	16	坪 S D20 (33-34-34)	144	51	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-14	16	坪 S D20 (36-37)	149	49	ハケ目・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 6	R P432 内黒
24-15	16	坪 S D20 (45-47)	138	54	ハケ目・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-16	16	坪 S D20 (45-47)	150	50	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 6	内黒
24-17	16	坪 S D20 (38-39 Y)	156	48	ヘラミガキ	ヘラミガキ	丸底	A 6	R P419 内黒
24-18	16	坪 S D20 (30-38)	138	47	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 7	
25-1	16	坪 S D20 (46-49)	134	48	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 7	内黒
25-2	16	坪 S D20 (32-37)	146	(48)	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 7	
25-3	20	坪 S D20 (35-Y)	154	70	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 7	R P411 内黒

## IV 造構と造物

表一 4 土器(土師器)観察表

標印番号	頭脚番号	器種	出土遺構	法量 (mm)		調整		底部	分類	備考		
				口径	底径	高さ	外面					
25-4	16	坪	S D20(45-40)	130		48	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 7		
25-5	19	坪	S D20(37-42)	136		51	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 7	内黒	
25-6	20	坪	S D20(41-45)	156		65	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 7		
25-7	18	坪	S D20(35-37)	128		51	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラケズリ	丸底	A 8	R P425	
25-8	19	坪	S D20(28-33)	132		(56)	横ナデ・ヘラケズリ	ハク目・ヘラミガキ	丸底	A 8		
25-9	20	坪	S D20(45-47)	146		66	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 8		
25-10	17	坪	S D20(33-40)	107		46	不	明	丸底	A 8		
25-11	19	坪	S D20(36-38)	140		51	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8		
25-12	17	坪	S D20(43-45)	142		6	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 8		
25-13	19	坪	S D20(28-29)	147		50	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
25-14	坪	S D20(30-35)	116			54	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラケズリ	丸底	A 8	内黒	
25-15	17	坪	S D20(39-38)	134		55	横ナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
25-16	坪	S D20(37-42)	142		(51)	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	(丸底)	A 8			
25-17	19	坪	S D20(38-35Y)	152		59	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8	R P428	
25-18	19	坪	S D20(45-47)	134		54	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8		
26-1	17	坪	S D20(28-33)	154		59	横ナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
26-2	17	坪	S D20(30-35)	138		54	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
26-3	17	坪	S D20(45-47)	134		60	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
26-4	17	坪	S D20Y	126		47	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目	丸底	A 8		
26-5	17	坪	S D20(36-35Y)	137		59	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8	R P412	
26-6	19	坪	S D20Y(36-35)	143		61	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
26-7	19	坪	S D20(30-35)	144		53	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
26-8	19	坪	S D20(43-45)	148		56	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒	
26-9	坪	S D20Y(36-35)	135		65	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 8	内黒		
26-10	20	坪	S D20Y(29-32)	124		60	ヘラケズリ	不	明	A 9	内黒	
26-11	坪	S D20Y(36-36)	124		56	横ナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	丸底	A 9	内黒		
26-12	坪	S D20(32-38)	145		88	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 9	内黒		
26-13	20	坪	S D20(37-42Y)	199		53	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目	丸底	A 10	内黒	
26-14	18	坪	S D20(45-47)	134		56	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 10		
26-15	18	坪	S D20(26-35Y)	154	44	7	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 10		
26-16	19	坪	S D20(36-35Y)	156		61	横ナデ・ヘラケズリ	ハケ目・ヘラミガキ	丸底	A 10	R P417	
26-17	18	坪	S D20(43-45)	160		63	横ナデ・ヘラケズリ	ハハ目・ヘラケズリ	丸底	A 10		
27-1	坪	S D20(32-37Y)	148		(64)	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	(丸底)	A 10			
27-2	18	坪	S D20(45-46)	164		67	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 10	内黒	
27-3	18	坪	S D20Y	152		63	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 10	内黒	
27-4	坪	S D20(38-36)	128	42	41	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 10	R P438		
27-5	18	坪	S D20Y	108		49	ヘラミガキ	ヘラミガキ	丸底	A 11		
27-6	18	坪	S D20Y	138		60	不	明	明	A 11		
27-7	17	坪	S D20(41-43)	146		58	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 11		
27-8	19	坪	S D20(45-41)	14		55	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 11	内黒	
27-9	坪	S D20(45-49)	140	72	44	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 11			
27-10	20	坪	S D20(30-38)	129		51	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 12		
27-11	坪	S D20(45-47)	143		52	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 12			
27-12	19	坪	S D20(41-45)	154		42	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 12		
27-13	18	坪	S D20(39-41-20)	132		43	横ナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	A 13		
27-14	18	坪	S D20(45-47)	142		49	横ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 13	内黒	
27-15	17	坪	S D20(36-36)	128		53	ヘラナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 13	内黒	
27-16	17	坪	S D20Y	132		55	ヘラケズリ	不	明	A 13		
27-17	15	坪	S D20(20-33)	130		48	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	丸底	A 13		
28-1	18	高坪	S X 1 (17-30)	158	87	98	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 1	R P 6 脚高43	内黒	
28-2	18	高坪	S X 4 (31-36)	154	76	95	ヘラケズリ	ヘラミガキ	B 1	R P 60 脚高45	内黒	
28-3	28	高坪	S X 4 (31-36)	152	10	95	ヘラケズリ	不	明	B 1	R Pに接近 脚高40	
28-4	22	高坪	S K28(47-29)	154	(70)	93	ヘラケズリ・ハケ目	ヘラミガキ	B 1	R P318 脚高	内黒	
28-5	21	高坪	S D14(29-30Y)	136	(74)	(83)	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 1	R P189 脚高35	内黒	
28-6	28	高坪	S D14(29-39Y)	158	90	90	ヘラケズリ	ヘラミガキ	B 1	R P210 脚高47	内黒	
28-7	28	高坪	S D14(29-39Y)	170	104	104	ヘラケズリ・ハケ目	不	明	B 1	R P211 脚高45	
28-8	21	高坪	S D14(30-38Y)	164	84	81	ヘラケズリ・ハケ目	横ナデ・ヘラミガキ	B 1	R P215 脚高41	内黒	

表一五 土器(土師器)観察表

掲出番号	器形 番号	出土遺構	法 量 (mm)			調 整		底部	分類	備 考
			口径	底径	高さ	外 面	内 面			
28-9	28	高坪 S D14(29-39)	178	112	106	ヘラケズリ・ハケ目	ヘラミガキ	B 1	R P198	脚高53 内黒
28-10	28	高坪 S D14(29-39Y)	196	106	115	横ナデ・ヘラカズリ ツバ目	横ナデ・ヘラミガキ	B 1	R P205	脚高66 内黒
28-11	28	高坪 S D14(28-39)	206			横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 1	R P201	内黒
29-1	21	高坪 S D11(24-32)	157	(77)	90	ヘラケズリ	ヘラミガキ	B 2	R P45	脚高41 内黒
29-2	21	高坪 S D11F(20-22)	155	95	102	横ナデ・ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 2	R P 9	脚高40 内黒
29-3	26	高坪 S D11F(20-22)	190	(117)	(116)	ヘラケズリ・ハケ目	ヘラミガキ	B 2	R P24	脚高(64) 内黒
29-4	27	高坪 S D11F(21-26)	171			横ナデ・ヘラカズリ	ハケ目・ヘラミガキ	B 2	R P25	内黒
29-5	21	高坪 S D11(24-36Y)	161	(82)	(78)	横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 2	R P82	脚高(30)
29-6	28	高坪 S D11(24-31)	148	81	86	横ナデ・ハケ目	ヘラミガキ	B 2	R P46	脚高42 内黒
29-7	28	高坪 S D11(24-32)	143	83	100	横ナデ・ハケ目	ハケ目・ヘラミガキ	B 2	R P43	脚高40 内黒
29-8	38	高坪 S D12(19-27Y)	156	82	99	横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 2	R P158	脚高52 内黒
29-9	28	高坪 S D12(19-27Y)	146	84	88	横ナデ・ヘラカズリ ツバ目	ヘラミガキ	B 2	R P127	脚高41 内黒
29-10		高坪 S D12(16-36Y)	152			ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 2	R P134	内黒
29-11	21	高坪 S D12(19-39Y)	(174)	(85)	(98)	横ナデ・ヘラカズリ ツバ目	ヘラミガキ	B 2	R P168	脚高(50) 内黒
30-1	28	高坪 S D20(16-36Y)	194	118	99	ヘラケズリ	ヘラミガキ	B 3	R P137	脚高48 内黒
30-2	28	高坪 S D20(16-36Y)	176	101	110	不	明	B 3	R P135	脚高47 内黒
30-3	28	高坪 S D20(19-36Y)	145		(86)	ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 4	R P163	脚高34 内黒
30-4	21	高坪 S D17Y	173	104	103	横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 3	R P64	脚高64 内黒
30-5	21	高坪 S D17	152	(90)	(105)	ヘラケズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 3	R P485	脚高(62) 内黒
30-6	28	高坪 S D17(5-67Y)	173	(74)	106	ヘラケズリ	ヘラミガキ	B 3	R P255	脚高(50) 内黒
30-7	21	高坪 S D17(5-67Y)	184	100	101	ヘラケズリ・ハケ目	ヘラミガキ	B 3	R P245	脚高(45) 内黒
30-8		高坪 S D17(5-67Y)	177			ヘラケズリ	ヘラミガキ	B 3	R P246	内黒
30-9	21	高坪 S D17(5-67Y)	118	78	92	ヘラケズリ	不 明	B 12	R P245	脚高45 内黒
30-10	28	高坪 S D17(6K-67Y)	152	92	90	不	明	B 4	R P263	脚高32
30-11	22	高坪 S D17(5-67Y)	155	(96)	(90)	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 4	R P249	脚高(40) 内黒
31-1	高坪 S D19(38-44Y)	161	56	76	横ナデ・ヘラミガキ	横ナデ・ヘラミガキ	B 5	R P313	脚高36 内黒	
31-2	22	高坪 S D19	170	(77)	(99)	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 5	R P47	脚高47 内黒
31-3	28	高坪 S D19(38-44Y)	182	97	120	横ナデ・ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 5	R P312	脚高52 内黒
31-4	22	高坪 S D19(38-67Y)	268	130	141	不	明	B 5	R P283	脚高76
31-5	27	高坪 S X50	170	104	84	ヘラケズリ・ハケ目	不 明	B 5	R P454	脚高40 内黒
31-6	27	高坪 S X50(38-16)	162	98	98	ヘラケズリ	ヘラミガキ	B 5	R P455	脚高48 内黒
31-7	23	高坪 S X50(18-15F)	166	(77)	(95)	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 5	R P458	脚高47
31-8	26	高坪 S X50(18-25F)	260		(82)	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 5	R P473	内黒
31-9	27	高坪 S X50(22-21Y)	199	86	99	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 5	R P476	脚高42 内黒
31-10	27	高坪 S X 6	152	74	80	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 5	R P42	脚高42 内黒
32-1	27	高坪 S D15U(17-III)	172	92	94	ヘラケズリ・ハケ目	ヘラミガキ	B 6	R P89	脚高54 内黒
32-2	27	高坪 S D15B(18-21III)	152	83	96	横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 6	R P113	脚高42 内黒
32-3	28	高坪 S D30(4-23F)	155	(105)	(105)	横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 6	R P336	脚高46 内黒
32-4	22	高坪 S D30(4-23F)	170	96	91	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 6	R P338	脚高30
32-5	23	高坪 S D30(4-23F)	182	97	105	横ナデ・ヘラカズリ ツバ目	ハケ目・ヘラミガキ	B 6	R P344	脚高54 内黒
32-6	22	高坪 S D30(4-23Y)	188	(88)	163	横ナデ・ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 6	R P360	脚高51
32-7	22	高坪 S D30(4-23Y)	147	100	102	不 明	不 明	B 6	R P328	脚高48
32-8	28	高坪 S D30(4-23F)	170	75	85	横ナデ・ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 6	R P345	脚高40 内黒
32-9	22	高坪 S D30Y	138	(82)	(109)	横ナデ・ハケ目	ハケ目	B 12		脚高42 内黒
33-1	27	高坪 S D20(37-36-40)	174	92	104	横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 6		脚高57 内黒
33-2	27	高坪 S D20(37-36-40)	170	90	104	横ナデ・ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 6		脚高52 内黒
33-3	23	高坪 S D20(39-31-39)	143	(72)	(93)	横ナデ・ヘラカズリ ツバ目	横ナデ・ヘラミガキ	B 6		脚高45 内黒
33-4	26	高坪 S D20(37-35-35)	148	98	100	ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 6		脚高43 内黒
33-5	23	高坪 S D20(44-49)	144	(58)	(78)	横ナデ・ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 6		脚高29 内黒
33-6	24	高坪 S D20(35-36-35-Y)	(150)	73	80	不 明	明 横ナデ・ヘラミガキ	B 7		脚高38 内黒
33-7	26	高坪 S D20	133	(95)	(107)	不 明	明 ハラミガキ	B 7		脚高65
33-8	25	高坪 S D20(35-36-39-Y)	169	89	107	不 明	明 不 明	B 7		脚高62
33-9	25	高坪 S D20(44-47)	150	86	106	横ナデ・ヘラカズリ	ハケ目・ヘラミガキ	B 7		脚高48 内黒
33-10	24	高坪 S D20(28-33)	157	105	92	ヘラカズリ	ヘラミガキ	B 7		脚高48 内黒
34-1	22	高坪 S D20(39-36-Y)	143	75	92	横ナデ・ヘラカズリ	ハケ目・ヘラミガキ	B 8		脚高38 内黒
34-2	27	高坪 S D20(45-47)	154	95	83	横ナデ・ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 8		脚高38 内黒
34-3	24	高坪 S D20(36-36-Y)	178	70	90	ヘラカズリ	横ナデ・ヘラミガキ	B 8	R P435	脚高38 内黒

## IV 造構と造物

表-6 土器(土師器)観察表

鉢器番号	形態 器番号	表面	出土遺構		法 量 (mm)		調 整		底部	分類	備 考
			口径	底径	高さ		外 面	内 面			
34-4	27 高坪	S D20 32-28	171	(79)	82		横ナデヘラズギ	不	明	B 8	脚高(37)
34-5	高坪	S D20 47-50	177	76	90		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 8	脚高44 内黒
34-6	25 高坪	S D20 Y	(168)	(90)	(102)		横ナデヘラズギ	ヘラミギ		B 8	脚高(52) 内黒
34-7	25 高坪	S D20 45-47	167	87	90		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 8	脚高45 内黒
34-8	24 高坪	S D20 37-42	156	89	101		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ		B 8	脚高40
34-9	25 高坪	S D20 39-40-48	168	98	97		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ		B 8	脚高38 内黒
34-10	28 高坪	S D20 37-42	197	96	94		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 8	脚高37 内黒
35-1	26 高坪	S D20 28-33	170	(87)	(107)		ヘラケズギ	横ナデヘラミギ		B 8	脚高51 内黒
35-2	27 高坪	S D20 28-33	152	(89)	(83)	不	明	横ナデヘラミギ		B 8	脚高(38) 内黒
35-3	24 高坪	S D20 Y 37-34	184	(98)	(114)		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 8	脚高(56) 内黒
35-4	23 高坪	S D20 41-41	151	96	85		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ		B 8	脚高45
35-5	27 高坪	S D20 Y 37-42	176	110	89		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 8	脚高40 内黒
35-6	24 高坪	S D20 Y 37-42	210	90	121		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 8	脚高57 内黒
35-7	25 高坪	S D20 40-42	163	88	85	不	明	横ナデヘラミギ		B 8	脚高42
35-8	25 高坪	S D20 45-47	176	98	107	不	明	ヘラミギ		B 9	脚高46 内黒
35-9	26 高坪	S D20 Y	160	80	88		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 9	脚高40 内黒
35-10	27 高坪	S D20 36-40-36	162	106	106		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ		B 9	脚高46
35-11	27 高坪	S D20 28-33	168	140	109		横ナデヘラズギ	ヘラミギ		B 9	脚底部接着有脚高54 内黒
36-1	27 高坪	S D20 30-31Y	151	104	96		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ		B 10	脚高38 内黒
36-2	27 高坪	S D20 Y 37-42	156	85	94		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 10	脚高41 内黒
36-3	23 高坪	S D20 32-38	190	(100)	(95)		横ナデヘラズギ	ヘラミギ		B 10	脚高(45) 内黒
36-4	25 高坪	S D20 Y 39-42	(168)	80	98		横ナデヘラズギ	ヘラミギ		B 10	脚高39
36-5	23 高坪	S D20 32-38	170	(102)	(102)		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 10	脚高(52) 内黒
36-6	27 高坪	S D20 Y 39-36	190	(95)	(95)		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 11	R P388 脚高43 内黒
36-7	26 高坪	S D20 Y 26-32	112	(50)	79		ヘラケズギ	ヘラミギ		B 11	脚高30
36-8	24 高坪	S D20 28-33	184	116	100		横ナデヘラズギ	ヘラミギ		B 11	脚高50
36-9	20 鉢	S D20 42-23F	268	64	123		横ナデヘラズギ	ハケ目		A 15	R P341 台高13 内黒
37-1	20 刃縫	S D20 42-23F	211	65	81		ヘラミギヘラケズギ	ヘラミギ		A 14	R P349 台高13 内黒
37-2	29 刃縫	S D20	142	60	82		横ナデヘラケズギ	ヘラミギ		A 14	台高8
37-3	29 刃縫	S D20 Y 37-40	130	35	55		ヘラケズギ	ハケ目ヘラミギ		A 14	
37-4	29 刃縫	S D14 25-37F	198	67	80	不	明	明		A 14	R P184
37-5	20 刃縫	S D14 Y	(210)	67	99		ヘラケズギ	ヘラミギ		A 14	
37-6	29 鉢	S D20 41-21F	72	(47)	80		ヘラケズギ	ハケ目		A 15	R P339 口唇刻目有底底部解剖
37-7	29 鉢	S D20 F	182	72	51		ヘラケズギ	ハケ目		A 15	口唇刻目有底底部解剖
37-8	29 鉢	S D20 30-38	185	74	54		ハケ目	ハケ目		A 15	口唇刻目有底底部解剖
37-9	29 鉢	S D20 30-35	184	60	60		ヘラケズギ	ハケ目		A 15	口唇刻目有底底部解剖
37-10	29 鉢	S D20 36-35Y	110	58	93		ハケ目	ハケ目		C 1	R P410
37-11	29 鉢	S D20 37-34	133	46	85		ヘラケズギ	ハケ目		C 2	
37-12	20 鉢	S D20 30-35	252	107	94		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ	丸底	A 16	口唇外反
38-1	29 鉢	S D14 29-37Y	132	64	94		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ	丸底	C 3	R P216 内黒
38-2	29 鉢	S D20 37-35F	(154)	70	105		ヘラケズギ	不	明	C 3	R P396
38-3	20 鉢	S D11 23-29Y	162	(82)	不		明	不	明	C 3	R P447 内黒
38-4	20 鉢	S D19 Y	142	105	80		ヘラケズギ	不	明	C 3	
38-5	29 鉢	S D20 45-49	(107)	81	94		ヘラケズギ	ハケ目	丸底	C 4	R P474 制部二次穿孔
38-6	29 鉢	S D14 31-40F	(211)	77	80	不	明	横ナデヘラミギ	丸底	C 4	R P474 制部二次穿孔
38-7	29 鉢	S D20 Y 45-38	137	89	94		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ	丸底	C 4	
38-8	29 鉢	S D12 16-23F	(227)	70	117		ハケ目	ハケ目	平底	C 4	R P120
38-9	29 鉢	S D20 41-22F	153	99	80		ヘラケズギハケ目	不	明	C 4	R P357
38-10	29 鉢	S D20 43-45	(110)	55	100		ヘラケズギハケ目	不	明	C 5	
39-1	29 鉢	S D20 42-23F	118	52	161		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ	平底	C 5	R P359 内黒
39-2	29 鉢	S D20 Y	(132)	49	162		ハケ目	不	明	C 5	
39-3	29 鉢	S D20 6-23F	126	60	116		横ナデヘラズギ	横ナデヘラミギ	平底	C 5	R P352
39-4	31 鉢	S D20 16-36Y	52	(114)	不		明	不	明	C 5	R P139 底部内側垂頭痕有
39-5	鉢	S K5 6-22F	120	102	117		ハケ目	ハケ目	丸底	C 6	R P377
39-6	29 鉢	S D20 42-23F	150	130	117		ハケ目	ハケ目	丸底	C 6	R P343
39-7	鉢	S D20 41-23	138	65	160		ハケ目	ハケ目	平底	C 7	R P331
39-8	鉢	X-6	(156)	69	166		ハケ目	横ナデヘラズギ	平底	C 7	

表一七 土器(土師器)観察表

探査番号 備考	形態 部品	出土遺構	法 口径		底径 (mm)	調 外面 面高		底部	分類	備 考	
			底径 (mm)	高さ (mm)		外 面	内 面				
40-1	29	壺	SDB15-16-31B	82	115	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	E 1	R P112 調査122 附注74	
40-2	29	壺	SDB9-Y	(78)	(102)	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	E 1	調査106 附注64	
40-3	29	壺	SDB12-22-Y	73	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	E 1	R P28 調査131 附注45		
40-4	29	壺	SDB9-32-37	52	32	70			E 1	手捏 附注64 附注42	
40-5	29	壺	SDB9-37-GY	83	56	134	ヘラケズリ	不 明	平底	E 1	調査123 附注66
40-6	29	壺	SDB16-30-37Y	(105)	62	153	ヘラケズリ	不 明	平底	E 1	R P217 調査118 附注96
40-7	29	罐	SDB12-22-36Y	(122)		(105)	ヘラケズリ	ヘラミガキ	丸底	E 2	R P126 調査77 附注50 第二次穿孔
40-8	29	壺	SDB19-19-38Y	(135)	52	(124)	ハケ目	ハケ目	平底	E 1	R P161 調査130 前に「手」有
40-9	29	壺	SDB19-24-GY	140	58	20	ハケ目	ハケ目	平底	E 1	R P472 調査218 附注122
41-1	30	瓶	SDB9-30-38Y	164	50	88	横ナデハケ目	横ナデハケ目		D 1	穴径31
41-2	30	瓶	SDB9-37-36F	136	52	107	横ナデハケ目	横ナデハケ目		D 2	R P401 調査138 穴径10
41-3	30	瓶	S K50	150	48	81		ハケ目		D 3	穴径22
41-4	30	瓶	SDB24-26-Y	(140)	56	96	不 明	ヘラミガキ		D 3	R P465 調査126 穴径20
41-5	30	瓶	SDB11-24-31	165	49	89	ヘラケズリ	ヘラミガキ		D 3	R P53 穴径19
41-6	30	瓶	SDB10-20-37Y	158		122	不 明	ハケ目		D 4	R P171 穴径48
41-7	30	瓶	SDB15-17-31	(142)		149	ハケ目	ハケ目		D 3	R P91 穴径25
41-8	30	瓶	SDB15-35-GF	184	64	119	ハケ目	ハケ目		D 3	R P244 調査158 穴径25
41-9	30	瓶	SDB20	190	38	130	横ナデハケ目	ハケ目		D 5	調査140 穴径20
41-10	30	瓶	SDB1F-30-33	(130)	45	(118)	ヘラケズリ	ヘラミガキ		D 6	R P15 調査112 穴径20
42-1	30	壺	SDB36-47-Y	(106)	(64)	184	横ナデハケ目	横ナデハケ目	平底	E 3	R P300 調査164 附注86
42-2	30	壺	SDB30-38-Y	135	55	174	横ナデハケ目	横ナデハケ目	平底	E 3	調査165
42-3	30	壺	S X6-25-29	(168)	78	266	ハケ目	ハケ目	平底	E 3	R P481 調査239 附注118
42-4	30	壺	SDB38-44-Y	143	52	200	不明	ヘラミガキ	平底	E 3	R P311 調査195 附注114
42-5	31	壺	SDB20	161	60	98	ハケ目	ハケ目	平底	E 3	調査174
42-6	31	壺	SDB17-25-Y		68	(117)	ハケ目	ハケ目	平底	E 3	R P128 調査241
42-7	30	瓶	SDB9-37-GY	126		230	ハケ目	ハケ目	丸底	E 4	横ナデ225 調査185 附注180
43-1	33	壺	SDB22-36-Y	277		(386)	タタキ状	タタキ状		E 3	R P177 調査46 附注246
43-2	33	壺	SDB9-B-GY	212		(460)	ハケ目	ハケ目		E 3	R P315 調査366 附注168
44-1	30	壺	S K6-Y	314		(114)	ハケ目	ハケ目		E 3	調査247 大量鉢387
44-2	33	壺	SDB20-31-35	324		(140)	ハケ目	ハケ目		E 3	調査246 最大径398
44-3	30	壺	SDB32-30-Y	165	58	268	ハケ目	ハケ目	平底	E 3	R P462 調査244 附注196 横ナデあり 調査一次穿孔
44-4	30	壺	S X50-39-15		66	(162)	ハケ目	ハケ目	平底	E 3	R P454 調査220
44-5	30	壺	S D30-28-33	(250)		(217)	ヘラミガキ+タタキ	ヘラミガキ		E 3	調査276 穴径96
45-1	30	壺	SDB9-B-GY	(226)		(195)	不 明	不 明		E 4	R P300 調査186
45-2	2	壺	S X1	(162)		(128)	不 明	横ナデ		E 4	調査116 附注115
45-3	33	壺	S X6-28-34-Y	177		(181)	ハケ目	ハケ目		E 4	調査254 附注142
45-4	33	壺	SDB16-22-Y	300		(318)	ハケ目+ヘラケズリ	ハケ目+ヘラケズリ		E 4	R P119 調査580 附注382
45-5	32	壺	SDB37-36-Y	(258)	70	150	ハケ目	ハケ目	丸底	E 4	調査216
45-6	30	壺	SDB22-22-Y	(334)	96	(160)	ハケ目	ハケ目	平底	E 4	R P666
46-1	30	壺	SDB39-38-Y	146		(230)	ハケ目	ヘラミガキ		F 1	調査220 附注119
46-2	33	壺	S D11-24-30	(124)	82	(272)	ハケ目	ヘラミガキ	平底	F 1	調査230 附注128
46-3	31	壺	SDB35-35-Y	(260)	70	(143)	ハケ目	ヘラミガキ	平底	F 1	R P425
46-4	31	壺	S X13-31-GY	275		265	ハケ目	不 明		F 2	R P230 調査225 附注148 穴径85
46-5	31	壺	S K28F	(250)	65	244	不 明	不 明		F 2	R P317 調査233 附注302
47-1	31	壺	SDB15-25-Y	182	50	198	ハケ目	横ナデハケ目	丸底	F 3	R P279 調査158 附注176
47-2	31	壺	SDB4-23F	(162)	50	155	ハケ目	ハケ目	平底	F 3	R P340 調査144 附注132
47-3	31	壺	SDB15-17-31	216	91	260	ハケ目+ヘラケズリ	ヘラミガキ		F 3	R P94 調査206 附注148 穴径80
47-4	32	壺	SDB39-43-Y	(196)	56	(316)	ハケ目	ハケ目	平底	F 3	R P252 調査215 附注175
47-5	31	壺	SDB38-38-Y	255	85	333	ハケ目	ハケ目		F 3	R P284 調査221 附注200 穴径75
48-1	31	壺	S X38-35-F	215		(157)	ハケ目	ハケ目		F 4	R P245 調査170 附注158
48-2	31	壺	SDB41-25F	230	100	262	ハケ目	ハケ目		F 4	R P300 調査221 附注190 穴径91
48-3	31	壺	SDB25-34-Y	225	80	242	ハケ目	ハケ目		F 4	R P36 調査200 附注194 穴径72
48-4	31	壺	SDB32-32-Y	(237)	74	(105)	不 明	横ナデ	平底	F 4	
48-5	32	壺	SDB25-34-F	230	85	259	ハケ目	ハケ目		F 4	R P24 調査185 附注183 穴径76
48-6	31	壺	SDB20-30-35	246	85	281	ハケ目	ハケ目		F 4	調査216 附注205 穴径82
49-1	32	壺	SDB17F	(144)		(101)	ハケ目	ヘラミガキ		F 5	調査170 附注120
49-2	32	壺	X-9	107	65	175	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	調査130 附注96

## IV 造構・造物

表一 8 土器(土師器)観察表

辨認番号	回収番号	器種	出土遺構	法量 (mm)			調査		底部	分類	備考
				口径	底径	高さ	外面	内面			
49-3	32	甕	S D28 43-45	128	60	177	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	胴径126 腹径108
49-4	31	甕	S D17 34-42Y	151	72	92	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	R P235
49-5	32	甕	S D19 38-46Y	156		(216)	ハケ目	ハケ目		F 5	R P288 胴径182 腹径139
49-6	32	甕	S D11 25-33Y	158		(155)	ハケ目	ハケ目		F 5	R P475 胴径(210) 腹径120
50-1	32	甕	S D30 41-23F	182		(166)	不明	ハケ目		F 5	R P334 胴径174 腹径146
50-2	31	甕	S X60 22-24Y	(200)		(177)	ハケ目	ハケ目		F 5	R P468 胴径(254) 腹径157
50-3	32	甕	S D11 24-34Y	160	72	382	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	R P37 胴径192 腹径132
50-4	32	甕	S D15 17-30W	(156)	65	285	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	R P98 胴径(166) 腹径(138)
51-1	32	甕	S D19 38-47Y	(161)	88	113	ハケ目	ハケ目		F 5	R P300 胴径(198) 腹径(148)
51-2	32	甕	S D14 29-46Y	(138)	66	305	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	R P204 胴径188 腹径(136)
51-3	32	甕	S X4 31-36Y	151	61	305	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	R P61 胴径200 腹径134
51-4	32	甕	S D11 23-29Y	(206)	75	352	ハケ目	ハケ目	平底	F 5	R P447 胴径(202) 腹径(160)

表一 9 土製・石製品観察表

辨認番号	回収番号	出土位置	種別	種類	法量 (mm)					底部	備考
					最大長	最大幅	最大厚	最大径	器高		
52-1	34	S D20	土製品	手 球				11	48	32	丸底
52-2	34	S Dm 6-5-6-Y	土製品	手 球				10	54	39	#
52-3	34	S D20 32-37	土製品	手 球				13	59	37	#
52-4	34	S D20 40-F	土製品	手 球				12	72	37	#
52-5	34	S D20 42-43Y	土製品	手 球				6	57	31	#
52-6	34	S D20 45-45	土製品	手 球				11	53	28	30
52-7	34	S D20 Y	土製品	手 球				9	(5)	(23)	34
52-8	34	S D20 28-38	土製品	手 球				13	62	32	47
52-9	34	S D20 44-45	土製品	手 球				12	63	37	4
52-10	34	S D20 37-34Y	土製品	手 球				14	7	37	45
52-11	34	S D20 32-37Y	土製品	手 球				10	48	33	43
52-12	34	S D20 38-43Y	土製品	手 球				15	72	44	55
52-13	34	S D20 Y	土製品	手 球				11	85	52	46
52-14	34	S D11 F 29-33	土製品	手 球				15	87	45	60
52-15	34	S D20 28-35	土製品	手 球				10	46	31	36
52-16	34	S D14 Y	土製品	手 球				12	52	31	40
52-17	34	S D19 38-43Y	土製品	手 球				16	64	56	47
52-18	34	S D20 Y	土製品	手 球				9	胸 68	(49)	40
52-19	34	S D14 Y	土製品	土 玉				23	25		
52-20	34	S D20 Y	土製品	土 玉				27	33		
52-21	34	S D20 30-38Y	土製品	土 玉				26	30		
52-22	34	S D20	土製品	土 玉				25	25		
52-23	34	S D15 Y	土製品	土 玉				26	33		
52-24	34	S X4 1 Y	土製品	土 玉				28	28		
52-25	34	S D20	土製品	土 玉				36	26		
52-26	34	S Dm Y 12-38番	土製品	土 玉				25	34		
52-27	34	# z	土製品	土 玉				30	33		
52-28	34	S D20 36-35	土製品	土 玉				36	37		
52-29	34	S D20 32-38	土製品	土 玉				38	46		
52-30	34	S Dm N-10-E1	土製品	土 玉				37	38		
52-31	34	S Dm F 33-40	土製品	土 玉				35	(35)		
52-32	34	S D14 Y	土製品	土 玉				40	40		
52-33	34	S D11 Y	土製品	土 玉				37	36		
52-34	34	S D20 Y	土製品	土 玉				27	(32)		
52-35	34	S D11 F 29-34	土製品	紡錘車				27	43		R P23
52-36	34	S D20 F	土製品	紡錘車				26	47		
52-37	34	S K47	土製品	紡錘車				25	54		
52-38	34	S D30 Y	土製品	紡錘車				21	55		
53-1	34	S D20 36-35	石製品	支 脚	(60)				58		
53-2	34	# z	石製品	支 脚	95				(70)		
53-3	34	S X4 31-36Y	石製品	支 脚	115				76		R P42
53-4	34	S D30 Y	石製品	紡錘車				36	15		
53-5	34	S D30 42-34Y	石製品	紡錘車				41	14		R Q322
53-6	34	S D20 32-38	石製品	砾 石	114	30	29				
53-7	34	S T27 F	石製品	砾 石	58	39	36				
53-8	34	S D20	石製品	砾 石	159	77	69				
53-9	34	S D12 16-36Y	石製品	砾 石	111	121	36				R P138
53-10	34	S D30 40-21	石製品	砾 石	233	46	47				

## 第V章 調査のまとめ

### 1 遺構

今回の第2次調査で検出された遺構は、竪穴住居跡1・竪穴状遺構18・土坑31・溝跡12である。

#### (1) 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、明確な炉跡が検出されなかつたものの、柱穴の配列や床面が若干焼けていることから住居跡と判断したものである。柱穴はすべて支柱穴であり、主柱穴は検出されなかつた。遺物の出土も少なく、時期を特定することはできないが古墳時代の後半の時期である。

#### (2) 竪穴状遺構

調査区の西側と東側に20号溝をはさんで分布している。いずれもが平面形や壁が明確認に検出しているが、柱穴・周溝・炉跡は確認されておらず、1号・4号・5号竪穴状遺構からまとまって土器群が出土しているが、その他の竪穴状遺構からは出土していない。

1号・4号・5号竪穴状遺構からは、壺A2・A10類と甕E3類が出土している。

これら竪穴状遺構は、溝跡群と重複しいずれも旧く、住居跡として選択する場所とも考えられず、性格は不明である。

しかし、溝跡や土坑の覆土層との対比で考えれば、時期は古墳時代の後半期の時期に相当すると推定される。

#### (3) 土坑

土坑は、調査区内での分布状況をみると、南西側の窪地付近に41・45・46・47・48号土坑6基が偏在し、北側では38・39・40号土坑の3基が、その大半が20号溝跡をはさんで東側の地区に遍在しているが、特に南東地に多集中し検出される。

遺物の出土は、28・46・54・57号土坑と少なく、いずれもまとまって土師器の壺や甕が出土し、壺A3・A6類や甕E3・E4類となっている。

時期の判定は、竪穴状遺構と同様に溝跡の土層覆土の観察から対比して、古墳時代の後半の時期に比定できると考えられる。性格は28・46・54・57号土坑は土器捨場とみられるが、その他の土坑は不明である。

#### (4) 溝跡

溝跡は、20号溝跡をはさんで西側偏在して分布しているのが特徴である。20号溝跡以外は、土層の覆土状態や形状さらに遺物の出土状況からみて、人工的に掘り込んだ遺構ではなく、和田川の開析によって形成された自然の窪地とみられ、土器捨場として利用されて

いたとみられる。13号溝跡では、遺物の投棄が他の溝跡と異なり時間的な差の中西側と東側では相異がある。17号溝跡は、遺物の出土状態からみると埋没完了前に遺物が投棄されているのが特徴である。

20号溝跡は、土層の覆土からみると調査区の中央部を縦断する旧河道と考えられ、調査区の北側には和田川が流れおり立地としては好条件をそなえている。

遺物の出土状態は、大半が底面から出土し、土器の分類からみても混合して出土している。

20号溝跡とその他の溝跡の時間差は土器の分類からみても差がなく、各溝跡の時間的な差異は不明である。

## 2 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、整理箱にして約165箱を数える。このうち土器が160箱・石製品が5箱である。すべてが古墳時代に属するものである。

土器は、20号溝跡をはじめとして溝跡内からの出土であり、いずれもが溝跡の壁付近や底面から検出され、一括して投棄されたものである。今回は須恵器が出土していないのも特徴的である。

時期は、壺のA2・A4類、高壺B2・B4・B6類、鉢C1・C3類が、さらに壺E1類・E3類、甕F1・2類等から住社式に併行する一群と考えられる。その他類別されたものの住社式の形式分類が可能であり、特に壺E2類の碌やE5類などの須恵器を模倣して作成されていることは、とりもなおさず分類が必要と考える。

なお、第1次調査では、須恵器壺が検出され、形態の特徴を基に陶邑編年併行させると、II型式中段階の併行期の6世紀中葉の時期と判断されており、今回の調査での年代観については、土師器やそれに伴う須恵器模倣品の類別から検討すれば、6世紀中葉から6世紀後葉という段階に比定される。

## 参考・引用文献

- 名和達朗他 1986 「西沼田遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第101集 山形県教育委員会
- 阿部明彦 1987 「三軒里遺跡発掘調査報告書(2)」山形県埋蔵文化財調査報告書第107集 日本道路公団・山形県教育委員会
- 佐藤正俊他 1987 「寝魔・契約塙遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第112集 山形県教育委員会
- 阿部明彦・吉田洋一 1989 「鶴岡西部地区遺跡群発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第127集 山形県教育委員会
- 浜谷孝雄・黒坂雅人 1989 「月ノ木B遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第135集 建設省東北地方建設局・山形県教育委員会

# 図 版



遺跡全体写真



遺跡近景 (N E ↑)



遺跡近景 (W↑)



粗掘作業風景 (SW↑)



トレンチ完掘状況 (S E ↑)



拡張・面整理完了 (S E ↑)



S X I - S D I 5全景 (E ↑)



S X I - S D I 5土層セクション (E ↑)



S D I 5土器出土状態 (E ↑)



S D I 5 (R P 89・90・91・92) (S ↑)



S X I - 3 - S D I 2 - 16全景 (E ↑)



S X I - S D I 2全景 (S E ↑)



S X I - S D I 2近接 (E ↑)



S X I - S D I 2近接 (S E ↑)



SDI2 (RP149・150・151・158) (E↑)



SDI2 (RP138・139・140) (E↑)



RP142出土状況 (S↑)



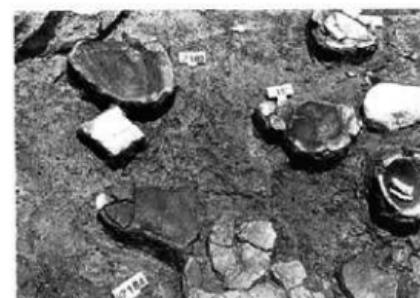
SDI2土器出土状況 (S↑)



RP160出土状況 (W↑)



SDI2 (RP161) (S↑)



SDI2 (RP162・163・164) (S↑)



SDI2 (RP165・166・167) (S↑)



SD II 2近接 (E↑)



SD II近接 (W↑)



SD II a-a'ベルト東面 (E↑)



SD II b-b'ベルト東面 (E↑)



SD II土器出土状況 (S↑)



SD II南端土器出土状況 (E↑)



SD II (67・68・69) (S↑)



SD II (RP447) (W↑)



SX4・SDI4全景 (SE↑)



SX4・SDI4全景 (N↑)



SDI4東西ベルト南面 (S↑)



SX4・SDI4土器出土状況 (N↑)



SDI4 (RPI191) (E↑)



SDI4 (RPI192-196) (E↑)



SDI4 (RPI212-215) (E↑)



SX4全景 (S↑)



S X 6-8 · S K 18 · S D I7全景 (NE↑)



S X 8 · S D I7近接 (SW↑)



S D I7 (RP 233-236) (NE↑)



S D I7 (RP 243) (N↑)



S D I7 (RP 244-246 · 248 · 249) (N↑)



S D I7 (RP 256) (S↑)



S X 9 · S D I9全景 (S↑)



S D I9全景 (E↑)



SX 9 - SDI7近景 (NE↑)



SDI9 (RP278) (SW↑)



SDI9 (RP278-282) (E↑)



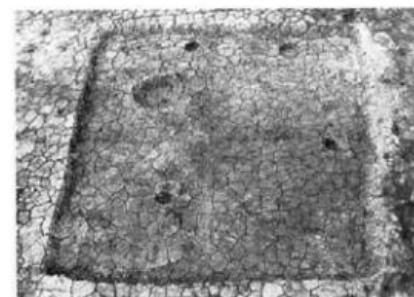
SDI9 (RP288-289) (W↑)



SDI9 (RP300) (S↑)



SX 4-7・SDI4調査風景 (S↑)



ST27全景 (SE↑)



ST27東西ベルト南面 (S↑)



S X23・24全景 (N E ↑)



S X26全景 (E ↑)



S X34 (W ↑)



S X34東西ベルト (S E ↑)



S K32全景 (s ↑)



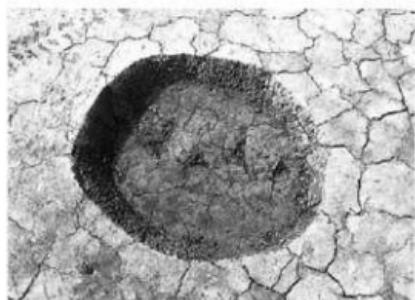
S K35全景 (S ↑)



S K35東西ベルト (S ↑)



S K35 (R P383・384) (W ↑)



SK36全景 (S↑)



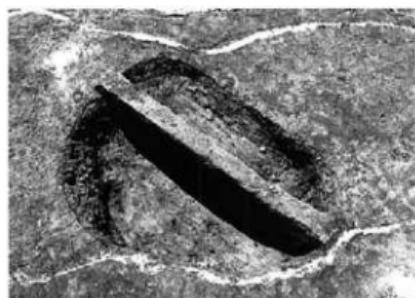
SK44全景 (N↑)



SK45全景 (N↑)



SK46全景 (N↑)



SK47全景 (S↑)



SK52全景 (S↑)



SK53全景 (N↑)



SK54全景 (S↑)



S D 30 35-40-36-37 G ベルト (S ↑)



S D 20 30-35-40 G ベルト (S ↑)



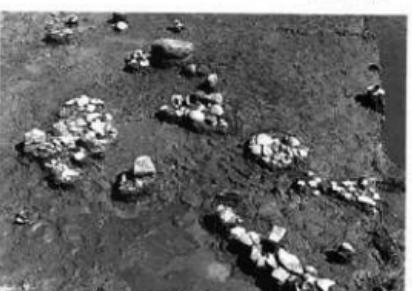
S D 20 29-33-25 G ベルト (S ↑)



S D 20 30-34-29 G ベルト (N ↑)



S D 20 土器出土状況 (S ↑)



S D 20 土器出土状況 (W ↑)



S D 20 (R P 415-417-419) (E ↑)



S D 20 (R P 600) (W ↑)



S D42全景 (E↑)



S D30全景 (S↑)



S D30南北ベルト (SW↑)



S D30全景 (N↑)



S D30 (RP341~346) (S↑)



S D30 (RP324・325) (S↑)



S D30 (RP349~353) (NW↑)



S D30 (RP356・357) (S↑)



22-15



22-13



23-16



22-9



22-17



23-1



23-2



23-5



23-8



23-4



23-10



23-13



22-1



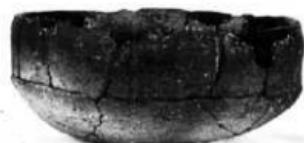
22-2



22-18



22-3



22-4



23-18



23-17



24-6



24-2



24-4



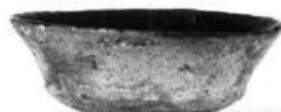
23-9



24-3



24-5



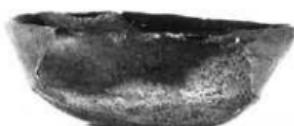
24-13



24-11



24-10



24-16



24-7



25-1



24-8



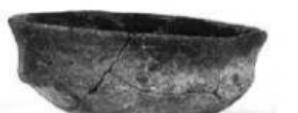
24-18



24-12



27-17



25-4



26-4



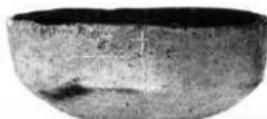
25-15



26-5



26-1



26-3



26-2



25-10



27-15



26-1



27-7



27-16

25-12  
出土土器 (4)



27-5



27-14



25-7



27-13



26-14



26-15



27-3



27-2



26-17



27-6



28-1



28-2



22-14



22-15



22-12



23-15



22-7



22-8



23-12



23-11



26-7



25-8



26-16



25-5



24-9



25-13



25-7



26-8



26-6



27-8



25-11



27-12



25-10



26-10



25-9



25-6



25-3



22-18



23-3



27-10



22-6



38-3



22-5



37-1



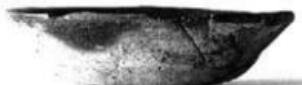
23-6



24-1



26-13



38-4



37-12



37-5



36-9



29-2



29-1



29-5



29-11



28-8



28-5



30-9



30-7



30-5



30-4



31-2



30-11



32-6



32-9



32-7



32-4



28-4



31-4



32-5



31-7



36-3



33-5



35-4



34-1



33-3



36-5



33-6



34-8



33-10



34-3



35-3



36-8



35-6



34-9



33-9



35-8



33-8



36-4



35-7



34-7



34-6



36-7



35-1



33-4



33-7



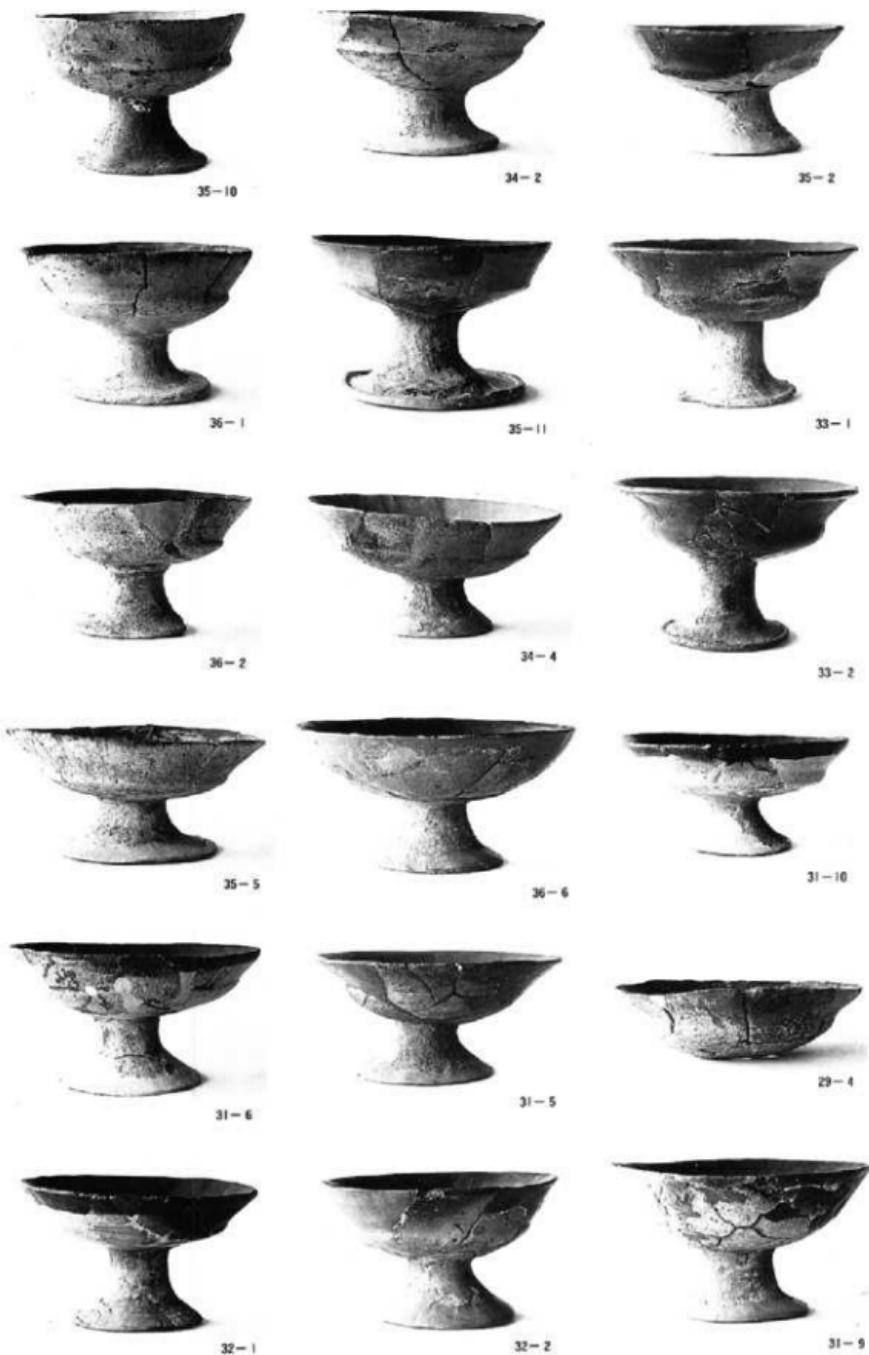
29-3

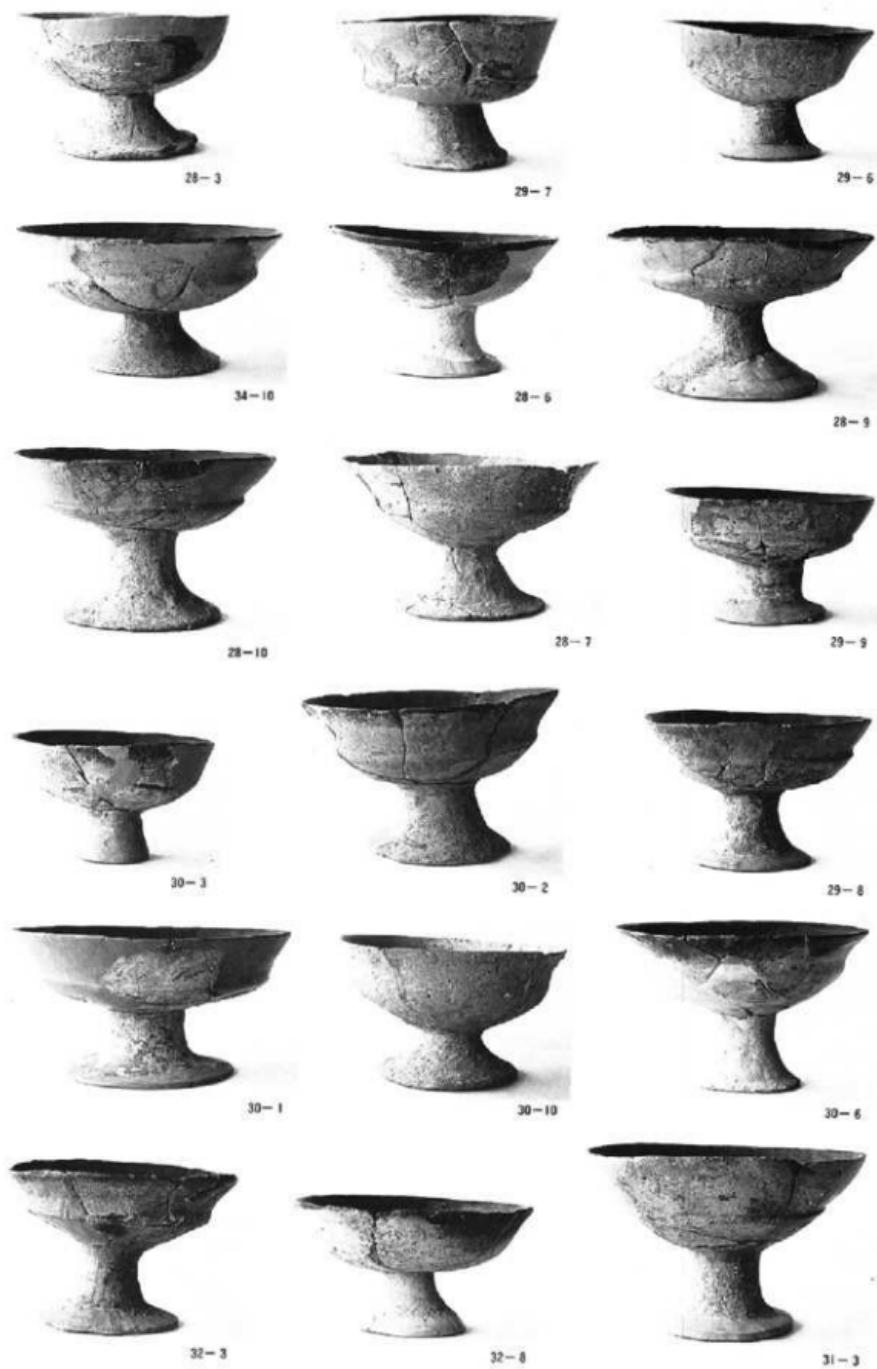


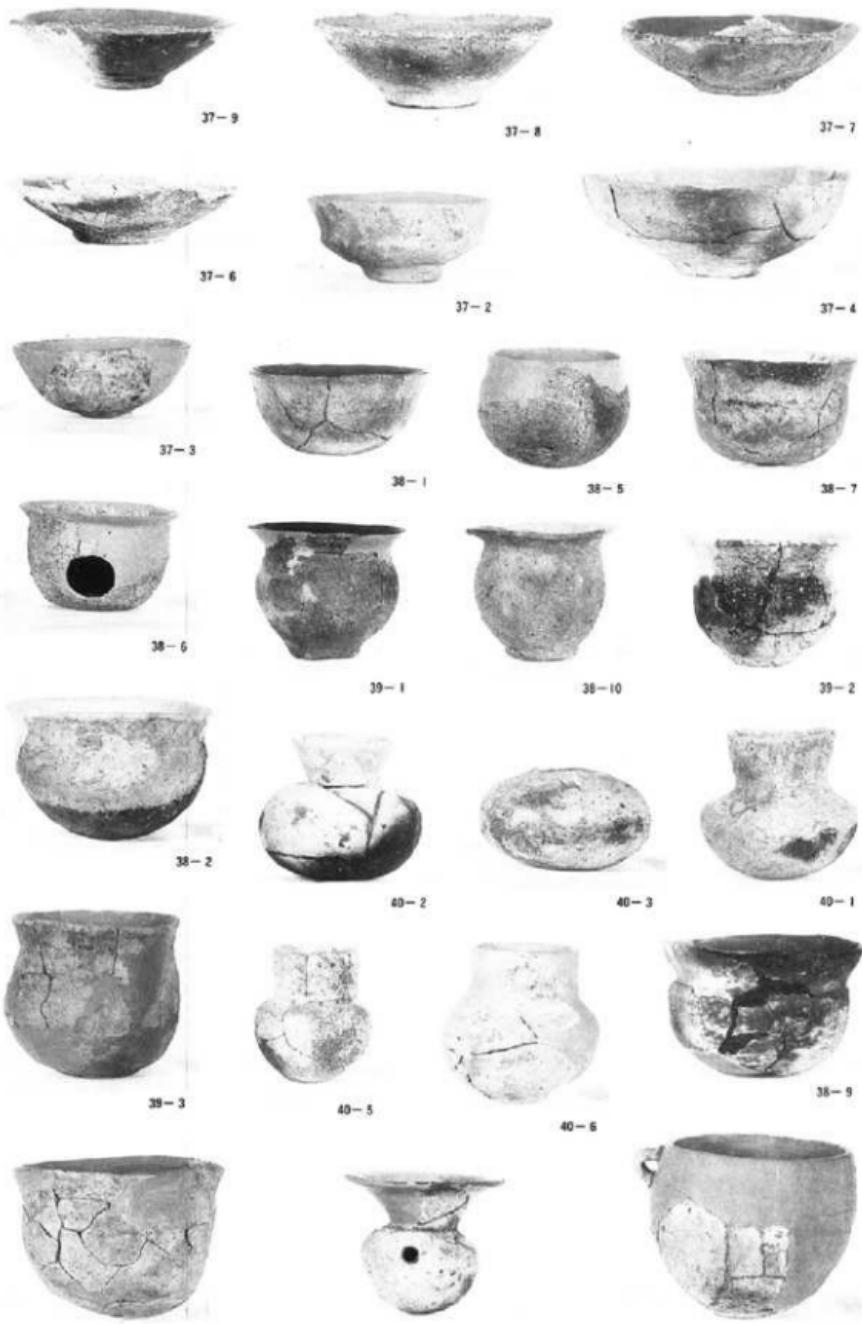
35-9

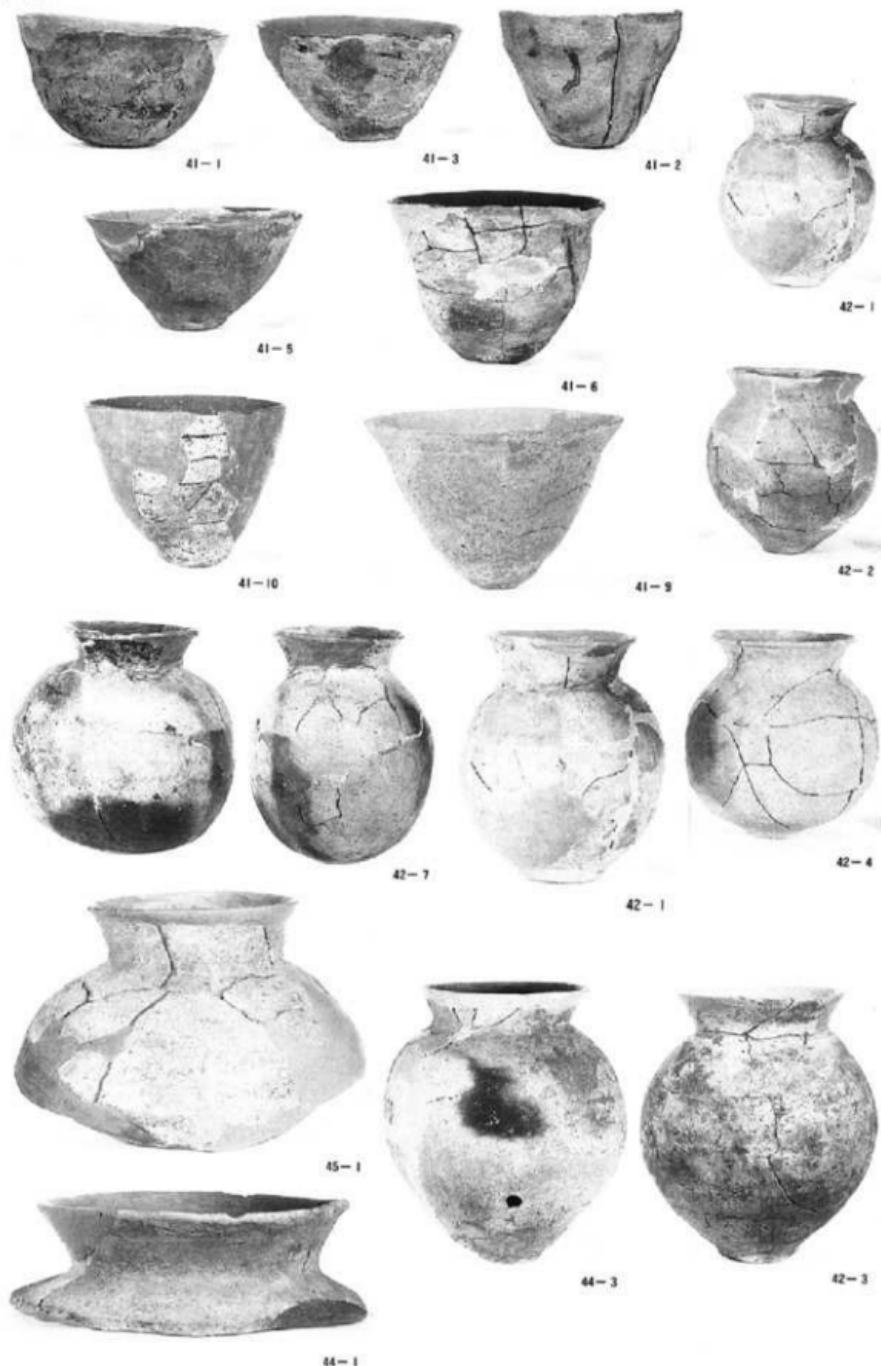


31-8











39-4



47-1



48-1



47-2



48-3



47-3



46-5



47-5



48-2



46-4



48-5



45-4

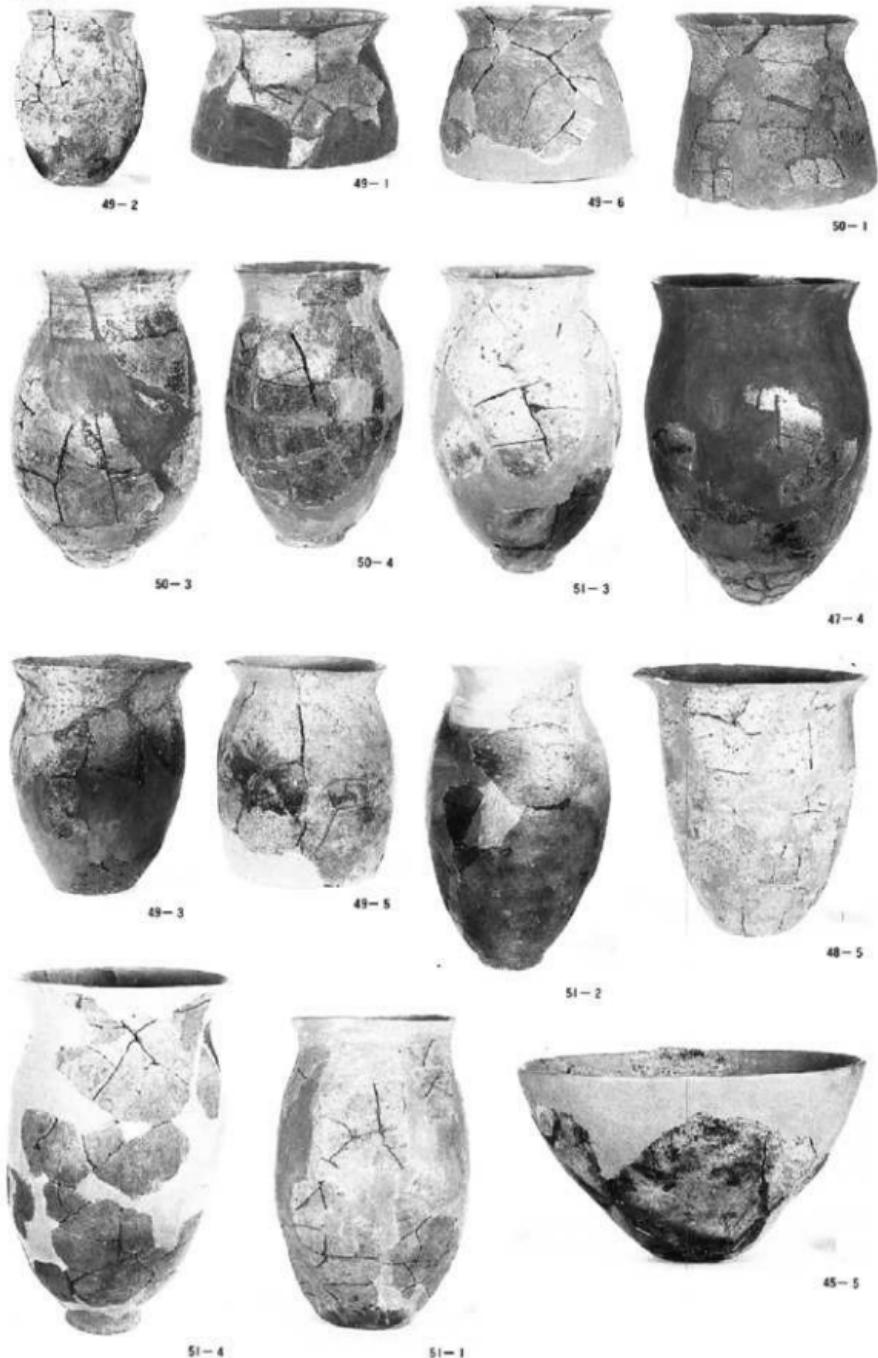


42-5



50-2

図版32





43-1



44-2



46-2



43-2

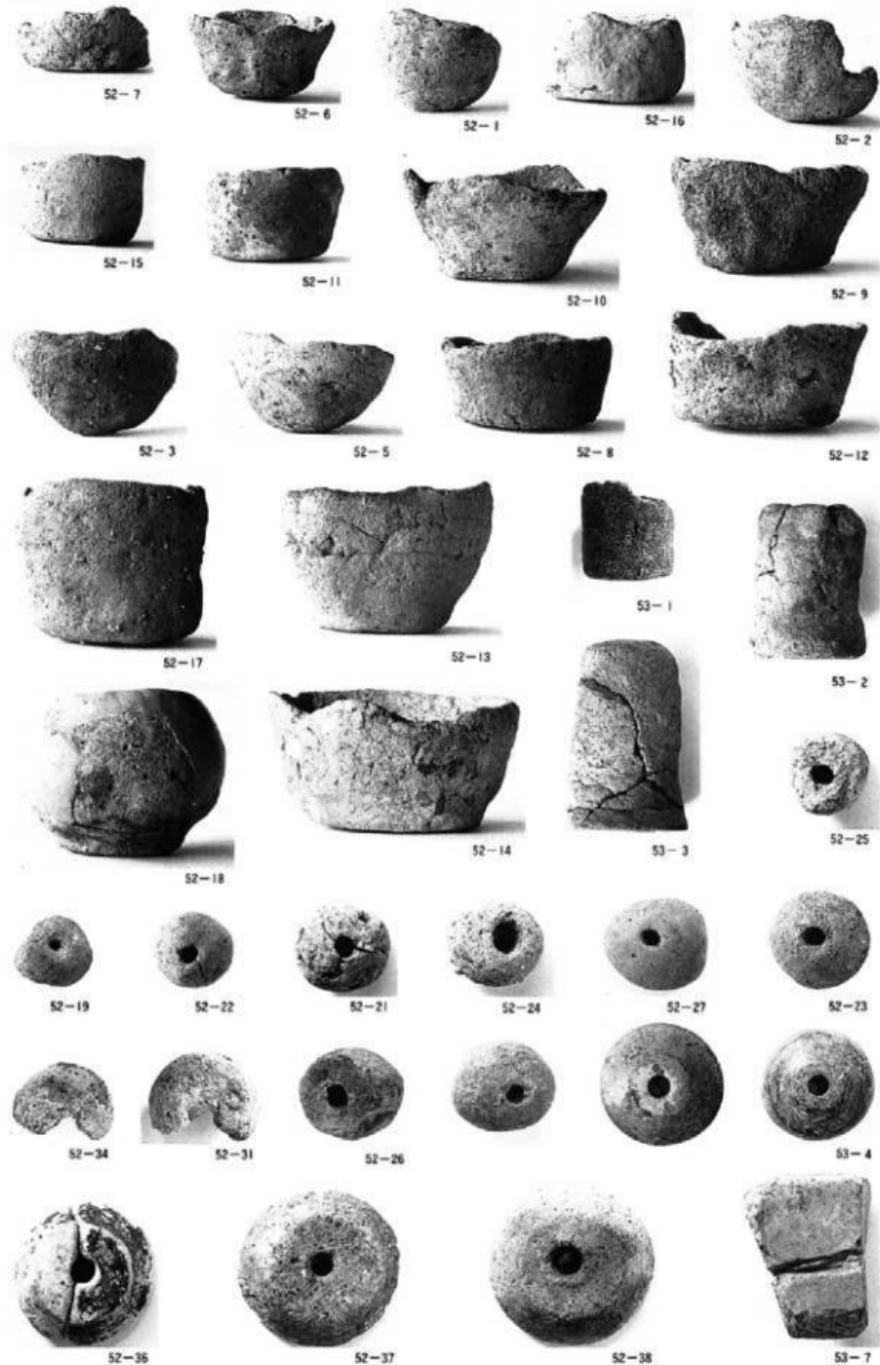


45-4



45-3

図版34



出土土器・石製品

---

山形県埋蔵文化財調査報告書第149集

寝鹿遺跡  
第2次発掘調査報告書

平成2年3月15日 印刷

平成2年3月20日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社

---